

# 尼崎市まちづくり計画策定のための アンケート調査結果

【市民意識調査報告書】

平成23年3月

尼崎市



# 目次

I. 調査の実施概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要.....	1
II. 調査結果の概要.....	3
1. 回答者の基本属性.....	3
2. 尼崎市への居住意向と市のイメージ.....	3
3. 尼崎市の現状に対する評価.....	4
4. 市政への関心と市民参画.....	4
5. 今後のまちづくりのあり方.....	5
6. 地域のまちづくりと近隣の関係.....	6
. 調査結果.....	7
1. 回答者の基本属性.....	7
2. 尼崎市への居住意向と市のイメージ.....	16
3. 尼崎市の現状に対する評価.....	34
4. 市政への関心と市民参画.....	38
5. 今後のまちづくりのあり方.....	46
6. 地域のまちづくりと近隣との関係.....	70
7. 自由意見・提言.....	89



## ・ 調査の実施概要



# 1. 調査の実施概要

## 1. 調査の目的

平成 25 (2013) 年度を初年度とする総合計画策定に向け、市民意識調査を実施した。本調査は、市民が本市に対して抱いているイメージや行政の現状に対する評価、今後のまちづくりの方向性への考えなどを把握することにより、市民が共感できる総合計画とすることに資するもの。

## 2. 実施概要

### 調査対象

市内在住の満 15 歳以上の市民を母集団とし、その中から 4,500 人を抽出し、調査対象とした。

### 調査方法

郵送による発送・回収を行った。また、調査期間中に、調査対象者全員に協力依頼はがきを送付した。

### 調査期間

平成 22 年 6 月 25 日 発送

平成 22 年 7 月 16 日 (回答期限：平成 22 年 7 月 9 日)

### 回収結果

図表 1-1 回収結果

発送数	未着数	実発送数	有効回答数	有効回答率
4,500	39	4,461	2,116	47.4%



## ・ 調査結果の概要



## II. 調査結果の概要

### 1. 回答者の基本属性 (P.7~15)

#### 職業、通勤・通学地 (P.8・11)

職業については、「会社等勤務」「無職」が多く、これらを合わせると全体の半数程度を占める。通勤・通学地については「尼崎市内」「勤務・通学していない」が多い。

#### 家族構成 (P.10)

家族構成については「夫婦と子ども」「夫婦ふたり」が多い。

#### 住宅の状況 (P.12・13)

住宅の所有形態としては「持ち家(本人または家族)」が最も多く、居住開始時期別にみると、平成6年以前からの居住者は「持ち家」が多く、平成7年以降の居住者は「民間賃貸」が多い。また、住宅の形態については「一戸建て」が最も多い。

#### 居住開始時期 (P.14)

現在の住所に居住を開始した時期は「平成7年~平成16年」が最も多い。また、15年以上前(平成6年以前)から居住している回答者は全体の約6割を占める。

### 2. 尼崎市への居留意向と市のイメージ (P.16~33)

#### 居留意向 (P.18・21・24)

居住継続の意向については、居住継続の意向を示す回答者が全体の約7割を占める。今後居住継続を希望する理由は、親(子)と同居しているまたは近くに住んでいること、ふだんの買い物や生活の利便性が主に挙げられている。また、今後居住継続を希望しない理由としては現在住んでいる住宅、自然や空気などの環境面、治安などに対する不満が主に挙げられている。

#### 市のイメージ (P.26・28)

市のイメージについては「便利で住みよいまち」が最も多く、次に「マナーのよくないまち」が続く一方、「気さくで、人情にあふれたまち」も多い。また、市政への関心が高い、近所付き合いが親しい場合ほどよいイメージを持つ傾向がある。

10年前や居住前と比較した市のイメージについては、どちらも半数以上が以

前のイメージよりもよくなったと回答している。居住地区別にみると、小田地区、立花地区の回答者によくなったとする回答が多い。

### **3. 尼崎市の現状に対する評価 (P.34～37)**

#### **市の取組の現状に対する評価 (P.34)**

市の取組の現状に対する評価については、「環境に配慮したまちづくり」「便利で快適な都市環境」に対して満足とする回答が多い一方、「学校教育」「働きやすい環境づくり」に対して不満足とする回答が多い。また、市への居住意向が高い回答者は現状に満足度が高く、市外への移住意向を持つ回答者は現状への満足度が低い。

#### **10年前と比較した市の取組の現状に対する評価 (P.36)**

10年前と取組の現状を比較した評価をみると、「環境に配慮したまちづくり」「便利で快適な都市環境」について改善したとする回答が多く、「学校教育」「働きやすい環境づくり」について悪化したとする回答が多い。

### **4. 市政への関心と市民参画 (P.38～45)**

#### **市政への関心 (P.38・40)**

市政への関心については関心があるとする回答者は全体の約7割を占める。

関心のある分野については、子育てや介護などの生活サービスの制度紹介が最も多いが、予算の内容や将来の構想・計画といった生活に直結して考えにくい分野についても関心が高い。また、市政への関心が高い回答者ほどこれらの分野への関心が高い。

#### **市政との関わり (P.42・43)**

市政との関わりについては「関わったことはない」という回答が約7割を占め、各種審議会に委員として参画するなど自主的に参加する項目については、回答が少なくなっている。市政への関心が大いにある回答者については関わりを持つ割合が若干高くなるが、アンケートに回答すること以外の項目は回答が1割に満たない。

#### **市政への参加促進 (P.44)**

市政参加を進める上で大切と考えられていることは、市民への情報提供・情報公開が最も多く、様々なメディアを活用した市政の発信、市民自身の市政への関心向上が続く。市民が参加する機会を増やすことよりも、情報の提供・発信が求められている傾向がある。

## 5. 今後のまちづくりのあり方 (P.46～69)

### 市が注力すべき分野 (P.46・47)

今後市が特に力を入れるべきとされる分野は「安全・安心な暮らし」「地域福祉や福祉サービス」が多い。

また、他と比較して「学校教育」「地域福祉や福祉サービス」について優先度が高く満足度が低い。「学校教育」については10年前と比較した改善度もやや低い。

### 経費増大に対する取組 (P.62)

経費増大への対応としては、「優先度・緊急度に応じたメリハリのある予算配分」を求める回答が最も多く、市民負担の増加や歳入の確保に向けた取組よりも、歳出削減への要望が強い。

### 今後のまちづくりのあり方 (P.64)

まちづくりの進め方については、「市民・事業者・行政が相互に協力しながら進めること」が最も多く求められており、全体の約半数を占める。また、30歳代以下では行政中心のまちづくりよりも市民・事業者中心のまちづくりへの要望が多く、進め方の主体に対する考え方は世代によって異なっている。

### 望ましいまちの方向性 (P.66)

ほとんどの項目について7割以上の回答者が今後そうなるべきだと回答しており、望ましいまちの方向性については市民の期待と合致している。また、年齢が低いほど今後そうなるべきとする回答が多い傾向がある。

最も実現しているとする回答が多い項目は「幅広い年代・立場の人が関わりながら祭りや行事など、地域の活動が活発に行われているまち」であり、最も実現しているという回答が少ない項目は「地域の資源、人材が十分にいかされ、それをよいところとしてみんなが共感しているまち」である。また、最も今後求められている項目は「豊かな人間関係や生きがいを保ちながら、安心して老後を過ごせるまち」である。

## 6. 地域のまちづくりと近隣の関係 (P.70～88)

### 近隣住民との関係 (P.70)

近隣住民との付き合いは、「あいさつをする程度でほとんど付き合いがない」と「会えば立ち話、世間話をするところがある」がほぼ同じ割合で、合わせて全体の約8割を占めており、「家の行き来をするなど、親しく交流している」回答者は1割に満たない。また、集合住宅では付き合いがないという回答が多い。

### 「地域のまちづくり」の範囲 (P.72)

「地域のまちづくり」と聞いて思い浮かべる範囲は、「自治会・町内会の区域」が半数を占める。居住年数が長い回答者について特にその傾向が強い。一方、「尼崎市全域」とする回答者は全体の1割強である。

### 地域活動への参加状況 (P.74)

地域活動の参加状況については「社会福祉協議会や自治会の活動」が最も現在の参加が多く、「健康づくり活動」が最も今後の参加希望が多い。また、最も今後の参加意向が小さいのは「社会福祉協議会や自治会の活動」である。

参加を希望しない理由は「世話役等の負担が重い、重そう」が最も多い。また、参加意向がありながら不参加の理由としては「参加するきっかけがない」が最も多い。

### 良いまちづくりのための地域活動 (P.82)

良いまちづくりのために重視すべき地域活動は「防犯・防災活動や交通安全活動」「高齢者や障害者等への福祉活動」が多い。選択肢についていずれも「重要でない」とする回答は1.2%にとどまり、地域活動はまちづくりにとって重要であると考えられている。

地域活動の活発さについては半数が不明と回答しているが、活発であるとする回答よりも活発でないとする回答の方が多い。

地域活動の活発な理由、活発にする方法については中心的人物の存在、住民の協力、参加しやすい雰囲気などが重要とされている。

### 市民自身の取組 (P.88)

地域をよくするための市民の取組については「日々のあいさつなど近所づきあいをよくする」「自治会・町内会などの地域活動に参加する」が多い。

## ・ 調査結果

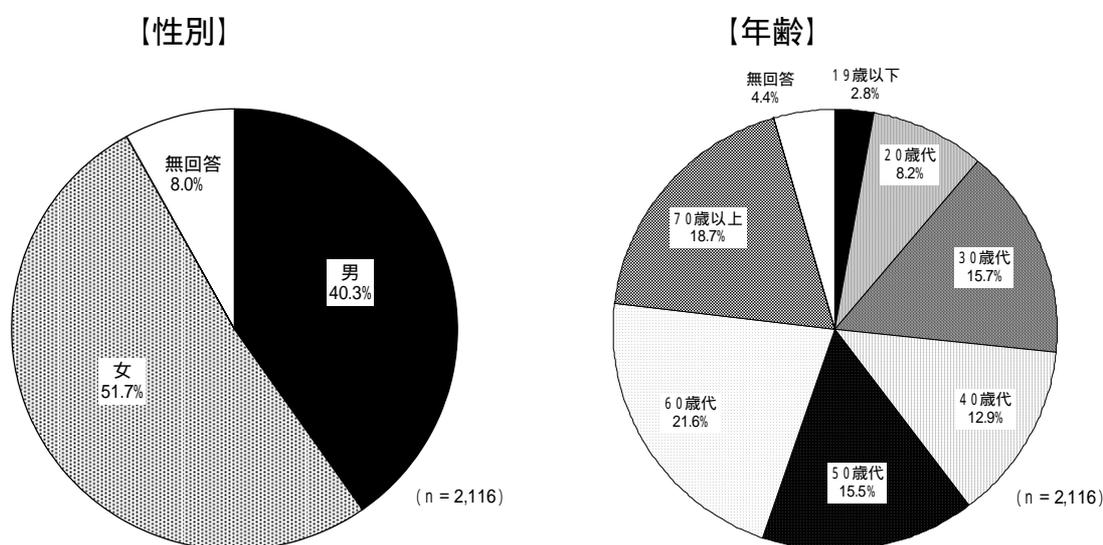


# 1. 回答者の基本属性

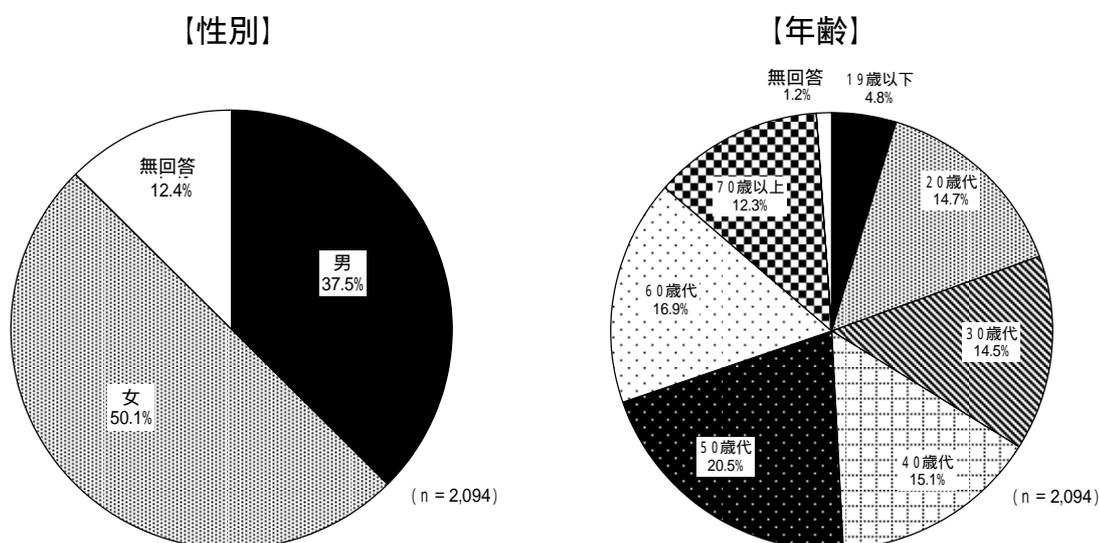
## 性別・年齢

- ・ 性別は、男性が 40.3%、女性 51.7%であり、女性の回答割合がやや高くなっている。
- ・ 年齢別にみると、最も回答が多いのは「60 歳代」(21.6%)であり、「70 歳以上」(18.7%)、「30 歳代」(15.7%)、「50 歳以上」(15.5%)、「40 歳代」(12.9%)、「20 歳以上」(8.2%)、「19 歳以下」(2.8%)が続く。
- ・ 前回調査と比較すると、回答者の年齢層は高くなっている。

図表 1-1 性別と年齢



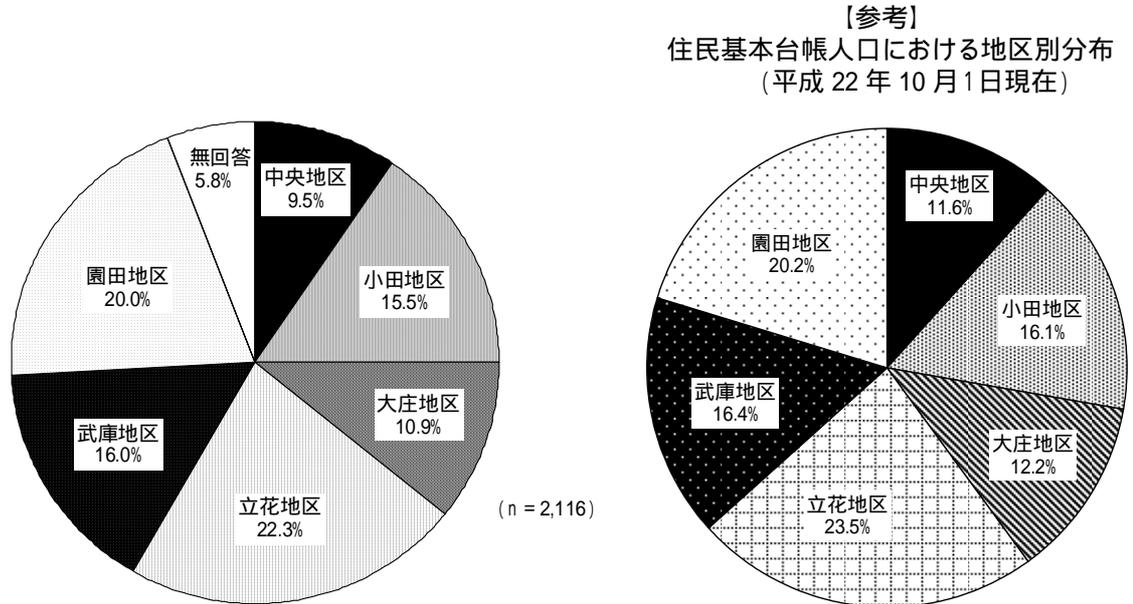
図表 1-2 【参考】前回調査の結果(平成 11 年)



## 居住地

- 居住地別の回答割合と、実際の住民基本台帳人口における居住地別の割合は概ね近似している。

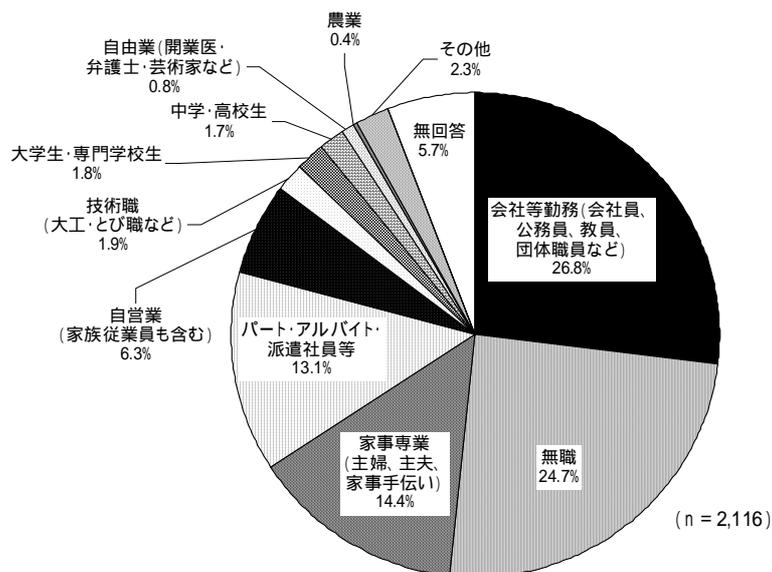
図表 1-3 居住地



## 職業

- 職業別にみると、「会社等勤務」(26.8%) が最も多く、「無職」(24.7%)、「家事専業」(14.4%) と続く。

図表 1-4 職業



属性別傾向（職業）

（性・年齢別）

- ・「会社等勤務」は男性 20～50 歳代が多い。
- ・女性 20～30 歳代は「会社等勤務」が多いが、40～50 歳代では「パート・アルバイト・派遣等」が多い。また、30 歳代・60 歳代は「家事専業」が多くなっている。

（居住地別）

- ・「会社等勤務」は武庫地区、園田地区、小田地区の順に多い。
- ・「無職」は大庄地区にやや多い。

図表 1-5 職業(属性別)

(単位：%)

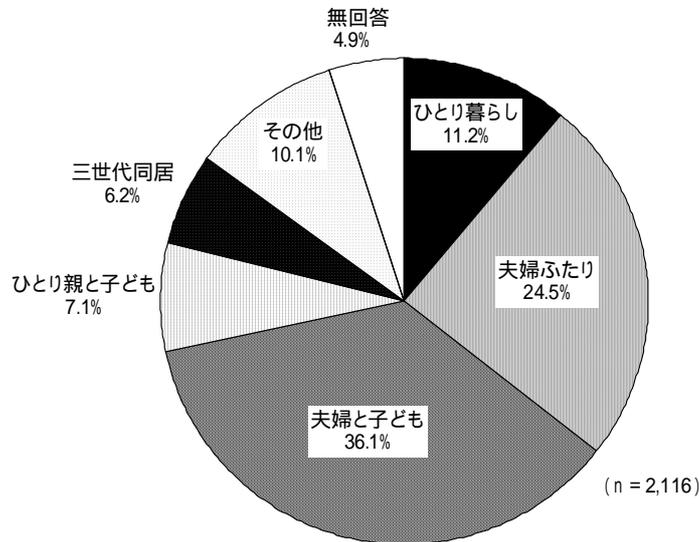
		農業	会社等勤務 (会社員、公務員、教 員、団体職員など)	自営業(家族従業 員も含む)	自由業(開業医・ 弁護士・芸術家な ど)	技術職(大工・と び職など)	パート・アルバイ ト・派遣社員等	家事専業(主婦、 主夫、家事手伝 い)	大学生・専門学 校生	中学・高校生	無職	その他	職業不明	
全体		N = 2,116	0.4	26.8	6.3	0.8	1.9	13.1	14.4	1.8	1.7	24.7	2.3	5.7
男性・ 年齢別	男性全体	N = 850	0.6	<b>43.2</b>	8.7	1.3	4.0	<i>5.6</i>	<i>0.2</i>	2.0	1.9	28.6	2.9	0.9
	男性19歳代	N = 29	0.0	<i>0.0</i>	<i>0.0</i>	0.0	0.0	10.3	<i>0.0</i>	<b>31.0</b>	<b>55.2</b>	<i>3.4</i>	0.0	0.0
	男性20歳代	N = 76	1.3	<b>65.8</b>	<i>0.0</i>	1.3	3.9	14.5	<i>0.0</i>	<b>10.5</b>	0.0	<i>1.3</i>	1.3	0.0
	男性30歳代	N = 138	0.0	<b>74.6</b>	5.8	0.7	<b>7.2</b>	<i>5.1</i>	<i>0.0</i>	0.0	0.0	<i>3.6</i>	2.2	0.7
	男性40歳代	N = 113	0.9	<b>66.4</b>	<b>14.2</b>	1.8	<b>7.1</b>	<i>1.8</i>	<i>0.9</i>	0.0	0.0	<i>2.7</i>	3.5	0.9
	男性50歳代	N = 139	0.0	<b>66.9</b>	<b>12.9</b>	0.7	3.6	<i>3.6</i>	<i>0.0</i>	0.0	0.0	<i>10.1</i>	2.2	0.0
	男性60歳代	N = 202	1.0	<i>20.8</i>	10.9	1.0	3.0	8.9	<i>0.0</i>	0.0	0.0	<b>49.5</b>	3.5	1.5
男性70歳以上	N = 153	0.7	<i>2.6</i>	6.5	2.6	1.3	<i>1.3</i>	<i>0.7</i>	0.0	0.0	<b>77.8</b>	4.6	2.0	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 1,091	0.3	<i>17.0</i>	4.9	0.5	0.3	<b>20.2</b>	<b>27.0</b>	1.6	1.8	22.6	1.8	1.9
	女性19歳以下	N = 29	0.0	<i>3.4</i>	<i>0.0</i>	0.0	0.0	<i>6.9</i>	<i>0.0</i>	<b>20.7</b>	<b>69.0</b>	<i>0.0</i>	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 93	0.0	<b>45.2</b>	<i>1.1</i>	0.0	0.0	<b>18.3</b>	<b>15.1</b>	<b>10.8</b>	0.0	<i>5.4</i>	3.2	1.1
	女性30歳代	N = 186	0.0	<b>33.9</b>	1.6	0.5	0.0	<b>20.4</b>	<b>36.6</b>	0.5	0.0	<i>3.8</i>	2.2	0.5
	女性40歳代	N = 157	0.0	<i>21.7</i>	3.2	1.3	1.3	<b>37.6</b>	<b>26.1</b>	0.0	0.0	<i>7.6</i>	1.3	0.0
	女性50歳代	N = 176	0.0	<i>21.0</i>	6.3	0.6	0.0	<b>32.4</b>	<b>26.7</b>	0.0	0.0	<i>10.8</i>	1.1	1.1
	女性60歳代	N = 231	0.0	<i>2.6</i>	11.3	0.4	0.4	<b>19.0</b>	<b>33.3</b>	0.0	0.0	29.0	2.2	1.7
女性70歳以上	N = 219	1.4	<i>0.9</i>	3.2	0.5	0.0	<i>1.4</i>	<b>21.9</b>	0.5	0.0	<b>62.6</b>	1.8	5.9	
居住 地別	中央地区	N = 200	1.0	26.0	7.5	1.0	3.0	12.5	13.5	2.0	2.5	24.0	2.0	5.0
	小田地区	N = 327	0.0	28.4	3.7	0.9	2.1	13.1	12.5	1.5	1.2	28.4	2.4	5.5
	大庄地区	N = 231	0.0	22.9	4.3	0.0	0.9	16.9	14.3	1.7	1.3	<b>31.6</b>	3.0	3.0
	立花地区	N = 472	0.2	25.8	8.7	0.8	2.3	10.4	17.8	1.9	1.5	24.6	1.7	4.2
	武庫地区	N = 339	1.5	30.1	7.4	0.9	1.2	9.7	13.3	2.9	2.9	22.4	2.1	5.6
	園田地区	N = 424	0.2	29.2	5.7	0.9	2.4	14.9	15.1	1.4	1.7	20.0	2.8	5.7

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 家族構成

- ・ 家族構成は、「夫婦と子ども」(36.1%)が最も多く、「夫婦ふたり」(24.5%)が次に多い。

図表 1-6 家族構成



図表 1-7 家族構成(属性別)

(単位: %)

### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- ・ 男女ともに「夫婦と子ども」は 50 歳代以下が多く、「夫婦ふたり」は 60 歳代以上が多い。
- ・ 女性 70 歳以上では、「ひとり暮らし」が多い。

#### (居住地別)

- ・ 「ひとり暮らし」は中央地区にやや多く、「三世代同居」は大庄地区にやや多い。

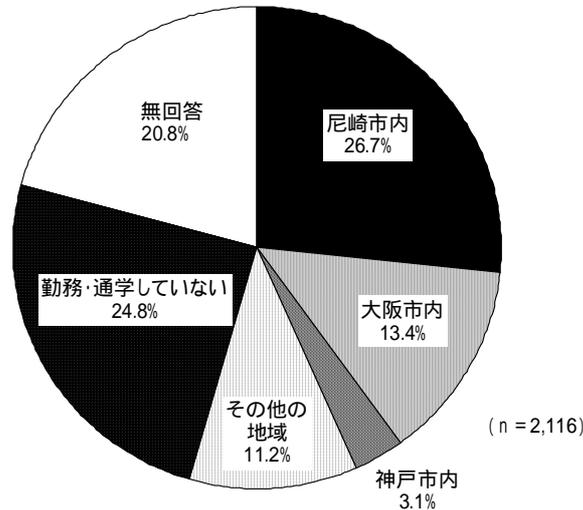
		ひとり暮らし	夫婦ふたり	夫婦と子ども	ひとり親と子ども	三世代同居	その他	家族構成不明	
全体	N = 2,116	11.2	24.5	36.1	7.1	6.2	10.1	4.9	
男性・年齢別	男性全体	N = 850	9.5	26.8	<b>41.2</b>	3.9	5.5	12.5	0.6
	男性19歳以下	N = 29	0.0	0.0	<b>65.5</b>	3.4	<b>13.8</b>	17.2	0.0
	男性20歳代	N = 76	9.2	<i>9.2</i>	39.5	9.2	7.9	25.0	0.0
	男性30歳代	N = 138	8.0	<i>15.2</i>	<b>47.8</b>	2.9	<i>0.0</i>	23.9	2.2
	男性40歳代	N = 113	9.7	<i>8.0</i>	<b>50.4</b>	5.3	9.7	16.8	0.0
	男性50歳代	N = 139	10.1	<i>17.3</i>	<b>47.5</b>	7.2	5.8	12.2	0.0
	男性60歳代	N = 202	9.4	<b>41.1</b>	35.1	<i>0.5</i>	6.9	6.4	0.5
	男性70歳以上	N = 153	12.4	<b>54.9</b>	<i>26.8</i>	2.6	2.6	0.0	0.7
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	13.1	23.8	36.0	9.7	7.2	9.5	0.5
	女性19歳以下	N = 29	0.0	0.0	<b>79.3</b>	3.4	10.3	6.9	0.0
	女性20歳代	N = 93	6.5	<i>15.1</i>	40.9	9.7	9.7	17.2	1.1
	女性30歳代	N = 186	7.5	<i>12.9</i>	<b>52.2</b>	7.0	9.1	11.3	0.0
	女性40歳代	N = 157	<i>5.7</i>	<i>15.3</i>	<b>48.4</b>	9.6	7.6	12.1	1.3
	女性50歳代	N = 176	10.8	<i>15.9</i>	<b>45.5</b>	11.4	7.4	9.1	0.0
	女性60歳代	N = 231	12.1	<b>40.3</b>	<i>23.8</i>	10.8	6.1	6.1	0.9
	女性70歳以上	N = 219	<b>30.6</b>	<b>35.2</b>	<i>11.0</i>	10.5	5.0	7.3	0.5
居住地別	中央地区	N = 200	14.0	21.5	34.5	5.0	9.5	11.5	4.0
	小田地区	N = 327	12.5	23.5	33.6	8.0	5.5	12.2	4.6
	大庄地区	N = 231	10.8	21.2	34.2	6.1	10.0	13.4	4.3
	立花地区	N = 472	10.8	26.5	36.4	6.8	5.3	10.6	3.6
	武庫地区	N = 339	9.7	26.5	39.5	8.3	5.6	6.2	4.1
	園田地区	N = 424	9.7	24.3	39.2	7.8	5.2	9.2	4.7

(注) 全体の割合を 5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 通勤・通学地

- 通勤地・通学地については、「尼崎市内」(26.7%)が最も多く、「勤務・通学していない」(24.8%)が次に多い。

図表 1-8 通勤・通学地



図表 1-9 通勤・通学地(属性別) (単位: %)

### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- 「尼崎市内」は男女 19 歳以下、男性 30~40 歳代、女性 40~50 歳代で多い。
- 「大阪市内」「その他の地域」といった市外への通勤・通学は男性 19 歳以下~50 歳代、女性 19 歳以下~20 歳代に多い。

#### (居住地別)

- 「尼崎市内」は中央地区が多く、「通勤・通学していない」は大庄地区が多い。

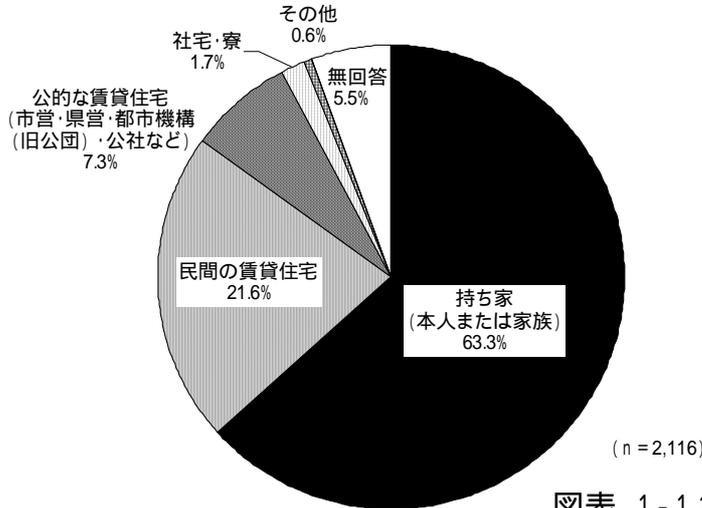
		ニ崎市 内	大阪 市内	神戸 市内	その 他の 地域	勤 務 ・ 通 学 し て い ない	勤 務 先 ・ 通 学 先 不 明	
全体		N = 2,116	26.7	13.4	3.1	11.2	24.8	20.8
男性・ 年齢別	男性全体	N = 850	26.7	<b>18.6</b>	3.8	16.1	<i>18.8</i>	16.0
	男性19歳以下	N = 29	<b>51.7</b>	<b>20.7</b>	3.4	<b>20.7</b>	<i>3.4</i>	0.0
	男性20歳代	N = 76	22.4	<b>30.3</b>	<b>11.8</b>	<b>28.9</b>	<i>3.9</i>	2.6
	男性30歳代	N = 138	<b>37.0</b>	<b>29.7</b>	3.6	<b>21.0</b>	<i>2.2</i>	6.5
	男性40歳代	N = 113	<b>43.4</b>	<b>19.5</b>	6.2	<b>21.2</b>	<i>5.3</i>	4.4
	男性50歳代	N = 139	27.3	<b>27.3</b>	6.5	<b>20.9</b>	<i>9.4</i>	8.6
	男性60歳代	N = 202	<i>20.3</i>	12.9	0.5	11.9	<b>37.1</b>	17.3
男性70歳以上	N = 153	<i>10.5</i>	<i>1.3</i>	0.0	<i>2.0</i>	<b>38.6</b>	47.7	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 1,091	27.0	10.0	2.8	7.8	<b>30.3</b>	22.0
	女性19歳以下	N = 29	<b>48.3</b>	<i>6.9</i>	<b>17.2</b>	<b>27.6</b>	<i>0.0</i>	0.0
	女性20歳代	N = 93	23.7	<b>28.0</b>	7.5	<b>19.4</b>	<i>15.1</i>	6.5
	女性30歳代	N = 186	26.3	17.2	5.9	9.7	<b>33.9</b>	7.0
	女性40歳代	N = 157	<b>36.9</b>	14.6	1.9	13.4	26.8	6.4
	女性50歳代	N = 176	<b>39.2</b>	10.8	2.3	<i>5.7</i>	29.5	12.5
	女性60歳代	N = 231	26.8	2.2	0.4	<i>3.9</i>	<b>38.1</b>	28.6
女性70歳以上	N = 219	<i>9.6</i>	<i>0.9</i>	0.0	<i>0.5</i>	<b>32.9</b>	56.2	
居住 地別	中央地区	N = 200	<b>32.5</b>	11.5	5.0	10.0	25.5	15.5
	小田地区	N = 327	28.7	15.0	2.8	9.2	23.5	20.8
	大庄地区	N = 231	27.3	10.0	1.3	13.4	<b>30.7</b>	17.3
	立花地区	N = 472	26.1	12.3	3.8	11.2	29.0	17.6
	武庫地区	N = 339	24.2	16.2	3.5	15.9	25.7	14.5
	園田地区	N = 424	30.4	17.0	3.1	10.6	22.9	16.0

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以下下回る値を**斜体字**で表している。

## 住宅の所有形態

- 住宅の所有形態をみると、「持ち家（本人または家族）」（63.3%）が最も多い。

図表 1-10 住宅の所有形態



図表 1-11 住宅の所有形態(属性別) (単位: %)

		持ち家	公的賃貸	民間賃貸	社宅・寮	その他	無回答	
全体		N = 2,116	63.3	7.3	21.6	1.7	0.6	5.5
男性・年齢別	男性全体	N = 850	65.2	6.5	22.5	1.5	0.5	3.9
	男性19歳以下	N = 29	<b>69.0</b>	10.3	<i>13.8</i>	3.4	0.0	3.4
	男性20歳代	N = 76	<i>57.9</i>	7.9	<b>28.9</b>	2.6	1.3	1.3
	男性30歳代	N = 138	<i>53.6</i>	3.6	<b>34.1</b>	3.6	0.0	5.1
	男性40歳代	N = 113	62.8	5.3	26.5	0.9	0.9	3.5
	男性50歳代	N = 139	67.6	8.6	17.3	2.9	0.7	2.9
	男性60歳代	N = 202	<b>73.8</b>	4.5	17.3	0.0	0.5	4.0
男性70歳以上	N = 153	66.7	9.2	19.0	0.0	0.0	5.2	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	63.0	7.9	21.4	1.6	0.6	5.5
	女性19歳以下	N = 29	<b>75.9</b>	10.3	<i>10.3</i>	3.4	0.0	<i>0.0</i>
	女性20歳代	N = 93	<i>52.7</i>	6.5	<b>32.3</b>	3.2	1.1	4.3
	女性30歳代	N = 186	<i>54.3</i>	6.5	<b>32.8</b>	3.8	0.5	2.2
	女性40歳代	N = 157	63.7	5.7	23.6	2.5	0.0	4.5
	女性50歳代	N = 176	<b>68.8</b>	9.1	17.0	1.1	0.0	4.0
	女性60歳代	N = 231	66.2	8.7	18.2	0.0	0.9	6.1
女性70歳以上	N = 219	64.4	9.1	<i>13.7</i>	0.5	1.4	<b>11.0</b>	
居住地別	中央地区	N = 200	<b>75.5</b>	3.0	<i>14.5</i>	3.5	1.5	2.0
	小田地区	N = 327	66.1	10.4	21.1	0.6	0.9	0.9
	大庄地区	N = 231	<b>72.7</b>	4.3	19.5	1.7	1.3	<i>0.4</i>
	立花地区	N = 472	66.1	6.1	25.0	1.3	0.2	1.3
	武庫地区	N = 339	<i>57.5</i>	<b>12.4</b>	26.0	2.7	0.6	0.9
	園田地区	N = 424	66.5	6.8	23.1	1.7	0.2	1.7
形態別	一戸建て	N = 983	<b>92.8</b>	<i>0.0</i>	<i>5.8</i>	0.2	0.5	0.7
	集合住宅	N = 834	<i>40.4</i>	<b>16.9</b>	<b>37.6</b>	3.8	0.2	1.0
	長屋建て	N = 162	<i>48.8</i>	<i>0.0</i>	<b>46.3</b>	0.0	1.9	3.1
居住開始時期別	昭和19年(1944)以前	N = 69	<b>73.9</b>	8.7	<i>14.5</i>	0.0	0.0	2.9
	昭和20年(1945)代	N = 108	<b>85.2</b>	<i>1.9</i>	<i>8.3</i>	1.9	0.9	1.9
	昭和30年(1955)代	N = 180	<b>80.0</b>	7.8	<i>10.0</i>	0.0	0.6	1.7
	昭和40年(1965)代	N = 320	<b>75.9</b>	3.8	17.8	0.3	0.0	2.2
	昭和50年(1975)代	N = 340	<b>72.1</b>	7.6	18.2	0.9	0.3	0.9
	昭和60(1985)年～平成6(1994)	N = 291	<b>68.4</b>	11.7	16.8	0.3	1.4	1.4
	平成7(1995)年～平成16(2004)	N = 393	60.6	7.9	<b>27.5</b>	2.5	0.8	0.8
	平成17年(2005)以降	N = 308	<i>37.7</i>	8.4	<b>46.4</b>	5.8	1.0	0.6

### 属性別傾向 (性・年齢別)

- 「持ち家」は男女 19 歳以下、男性 60 歳代、女性 50 歳代が多く、「民間の賃貸住宅」は男女 20～30 歳代が多い。

### (居住地別)

- 「持ち家」は中央地区、大庄地区が多い。

### (住宅形態別)

- 「持ち家」の形態は一戸建てが多く、「民間の賃貸住宅」の形態は集合住宅、長屋建てが多い。

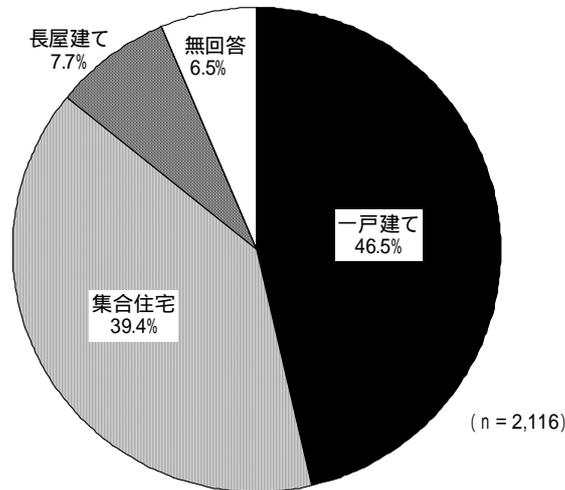
### (居住開始時期別)

- 「持ち家」は平成 6 年以前からの居住に多く、「民間の賃貸住宅」は平成 7 年以降の居住に多い。

## 住宅の形態

- 住宅の形態をみると、「一戸建て」(46.5%)が最も多く、「集合住宅」(39.4%)が次に多い。

図表 1-12 住宅の形態



### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- 「一戸建て」は男女19歳以下・70歳以上が多く、「集合住宅」は男性20～40歳代、女性19歳以下～40歳代が多い。
- 「長屋建て」は男性30～40歳代、女性40歳代以下が少なく、女性70歳以上が多い。

#### (居住地別)

- 「一戸建て」は立花地区、「集合住宅」は武庫地区、「長屋建て」は大庄地区が多い。

図表 1-13 住宅の形態(属性別) (単位: %)

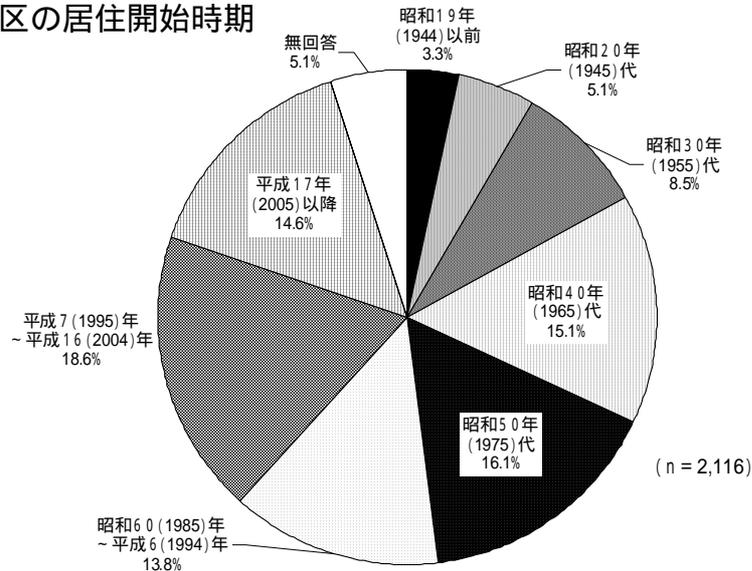
		一戸建て	集合住宅	長屋建て	住宅形態不明	
全体		N = 2,116	46.5	39.4	7.7	6.5
男性・年齢別	男性全体	N = 850	47.8	40.2	7.1	4.9
	男性19歳以下	N = 29	<b>58.6</b>	37.9	3.4	0.0
	男性20歳代	N = 76	44.7	<b>48.7</b>	5.3	1.3
	男性30歳代	N = 138	<i>38.4</i>	<b>55.8</b>	2.2	3.6
	男性40歳代	N = 113	46.9	<b>46.0</b>	1.8	5.3
	男性50歳代	N = 139	47.5	39.6	7.9	5.0
	男性60歳代	N = 202	50.5	<i>33.7</i>	11.4	4.5
男性70歳以上	N = 153	<b>52.9</b>	<i>27.5</i>	10.5	9.2	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	45.8	40.8	7.4	6.0
	女性19歳以下	N = 29	<b>51.7</b>	<b>48.3</b>	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 93	43.0	<b>50.5</b>	1.1	5.4
	女性30歳代	N = 186	<i>37.1</i>	<b>56.5</b>	2.7	3.8
	女性40歳代	N = 157	<i>40.1</i>	<b>52.9</b>	2.5	4.5
	女性50歳代	N = 176	47.2	42.0	6.3	4.5
	女性60歳代	N = 231	49.8	<i>33.8</i>	10.0	6.5
女性70歳以上	N = 219	<b>52.5</b>	<i>20.1</i>	<b>16.9</b>	10.5	
居住地別	中央地区	N = 200	51.0	37.5	9.5	2.0
	小田地区	N = 327	45.9	41.6	9.8	2.8
	大庄地区	N = 231	51.1	<i>31.6</i>	<b>15.6</b>	1.7
	立花地区	N = 472	<b>52.5</b>	38.8	6.8	1.9
	武庫地区	N = 339	42.2	<b>50.1</b>	4.1	3.5
	園田地区	N = 424	49.5	43.4	5.4	1.7

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を*斜体字*で表している。

## 居住開始時期

- ・ 現在の地区に住むようになった時期については、「平成7年～平成16年」(18.6%)が最も多い。
- ・ 15年以上前(平成6年以前)から居住している回答者が全体の約6割を占める。

図表 1-14 現在の地区の居住開始時期



### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- ・ 「平成7年～平成16年」は男性19歳以下・30歳代、女性19歳以下・30～40歳代が多く、男女20歳代・70歳以上が少ない。

#### (居住地別)

- ・ 立花地区、武庫地区、園田地区は「昭和30年代」以前がやや少ない。

図表 1-15 現在の地区の居住開始時期(属性別)(単位:%)

		(昭和19年以前)	(昭和45年)	(昭和55年)	(昭和65年)	(昭和75年)	(昭和85年)	(昭和95年)	(平成15年)	(平成17年以降)	居住時期不明
全体		N = 2,116	3.3	5.1	8.5	15.1	16.1	13.8	18.6	14.6	5.1
男性・年齢別	男性全体	N = 850	2.4	6.9	9.4	15.4	14.7	15.1	18.7	13.9	3.5
	男性19歳以下	N = 29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>48.3</b>	<b>41.4</b>	0.0	0.0
	男性20歳代	N = 76	0.0	1.3	0.0	0.0	21.1	<b>35.5</b>	<b>9.2</b>	<b>31.6</b>	1.3
	男性30歳代	N = 138	0.0	0.0	0.0	11.6	16.7	<b>3.6</b>	<b>29.0</b>	<b>34.8</b>	4.3
	男性40歳代	N = 113	0.9	1.8	<b>15.9</b>	<b>23.0</b>	<b>7.8</b>	14.2	23.0	16.8	2.7
	男性50歳代	N = 139	0.0	8.6	12.2	<b>8.6</b>	16.5	<b>19.4</b>	22.3	<b>6.5</b>	5.8
	男性60歳代	N = 202	3.0	<b>14.4</b>	4.0	<b>20.3</b>	19.8	12.4	17.8	<b>5.4</b>	3.0
男性70歳以上	N = 153	<b>8.5</b>	<b>9.8</b>	<b>24.2</b>	<b>23.5</b>	13.7	9.2	<b>4.6</b>	<b>2.6</b>	3.9	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	3.7	3.7	7.9	14.8	16.6	13.1	19.2	16.1	5.0
	女性19歳以下	N = 29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>44.8</b>	<b>48.3</b>	<b>6.9</b>	0.0
	女性20歳代	N = 93	0.0	0.0	0.0	0.0	18.3	<b>32.3</b>	<b>8.6</b>	<b>35.5</b>	5.4
	女性30歳代	N = 186	0.5	0.0	0.0	<b>9.1</b>	18.8	<b>6.5</b>	<b>25.8</b>	<b>37.1</b>	2.2
	女性40歳代	N = 157	1.9	0.0	8.3	15.3	<b>4.5</b>	<b>19.1</b>	<b>28.7</b>	17.8	4.5
	女性50歳代	N = 176	0.6	5.1	8.5	<b>7.4</b>	<b>27.3</b>	18.2	19.9	9.7	3.4
	女性60歳代	N = 231	3.5	4.3	6.5	<b>28.1</b>	20.8	<b>6.5</b>	16.0	<b>7.8</b>	6.5
女性70歳以上	N = 219	<b>12.3</b>	9.6	<b>19.6</b>	19.2	11.9	<b>5.0</b>	<b>10.0</b>	<b>4.1</b>	8.2	
居住地別	中央地区	N = 200	3.5	<b>11.5</b>	11.0	11.5	13.0	13.0	17.5	18.5	0.5
	小田地区	N = 327	4.9	7.6	11.0	14.7	15.0	12.2	17.7	15.3	1.5
	大庄地区	N = 231	6.5	10.0	6.9	13.9	16.5	15.2	17.7	13.0	0.4
	立花地区	N = 472	1.9	3.8	9.7	18.2	18.0	15.0	19.3	13.3	0.6
	武庫地区	N = 339	2.1	1.8	8.3	17.1	15.9	15.9	21.2	17.1	0.6
	園田地区	N = 424	2.8	2.8	6.6	16.7	19.1	14.4	20.0	16.5	0.9

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

前回調査との比較（居住開始時期）

- ・ 前回調査と今回調査の結果には概ね同じ傾向が見られるが、前回調査ほど年齢が高くなるほど居住開始時期が早いという傾向が明確でない。

図表 1-16 【参考】前回調査の結果(平成 11 年)

(単位：%)

		(1944)以前	(昭和45)代	(昭和55)代	(昭和65)代	(昭和75)代	(昭和85)年	(昭和60)年以降	居住時期不明	
全体		N = 2,094	4.8	6.4	10.3	16.4	23.4	19.3	17.3	2.1
年齢別	19歳以下	N = 100	0.0	0.0	1.0	0.0	<b>56.0</b>	20.0	<b>23.0</b>	0.0
	20歳代	N = 307	0.3	0.0	0.0	17.6	26.4	18.6	<b>36.2</b>	1.0
	30歳代	N = 303	0.0	0.0	9.9	12.2	<b>8.9</b>	<b>37.0</b>	<b>32.0</b>	0.0
	40歳代	N = 316	0.6	9.2	9.2	<b>7.3</b>	<b>31.3</b>	<b>25.3</b>	16.1	0.9
	50歳代	N = 432	3.9	7.4	8.6	<b>24.5</b>	<b>28.9</b>	15.7	<b>8.8</b>	2.1
	60歳代	N = 354	9.6	5.9	<b>20.3</b>	<b>23.7</b>	18.4	<b>11.3</b>	<b>7.1</b>	3.7
	70歳以上	N = 257	<b>16.0</b>	<b>19.5</b>	<b>17.1</b>	15.2	<b>12.8</b>	<b>9.7</b>	<b>5.1</b>	4.7
居住地別	本庁地区	N = 256	<b>10.2</b>	<b>13.7</b>	14.1	<b>10.9</b>	20.3	17.2	<b>11.7</b>	2.0
	小田地区	N = 358	4.7	6.7	12.3	19.8	<b>17.6</b>	20.7	15.9	2.2
	大庄地区	N = 280	6.8	11.4	13.9	11.4	20.7	17.9	15.4	2.5
	立花地区	N = 487	3.9	4.5	9.2	18.1	26.7	17.0	19.3	1.2
	武庫地区	N = 369	2.4	1.9	6.8	18.2	27.9	20.9	19.2	2.7
	園田地区	N = 344	2.9	4.1	7.6	16.9	24.7	22.1	19.8	2.0

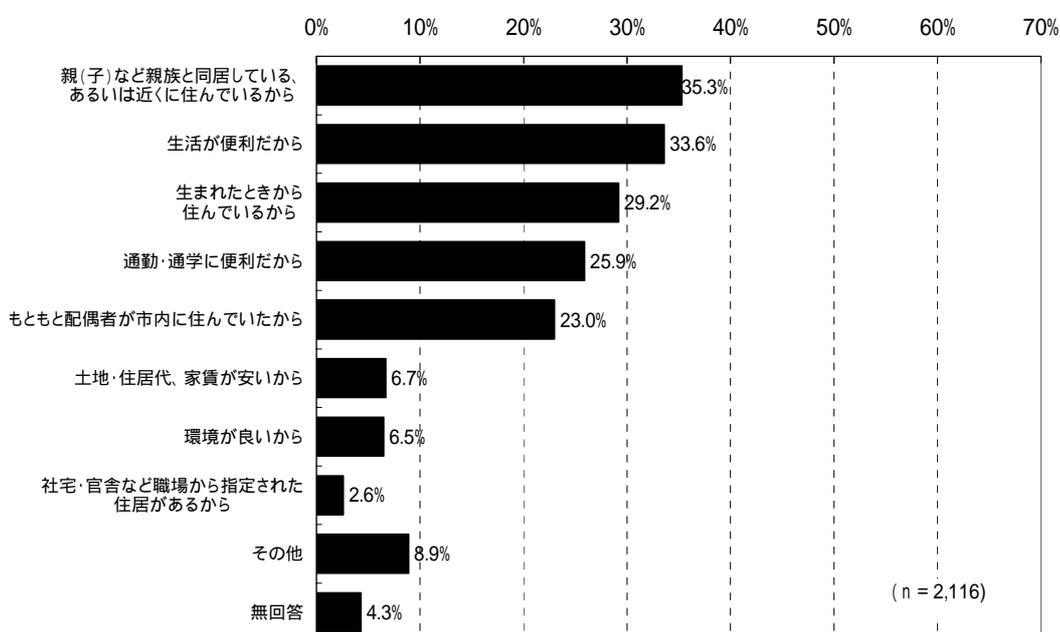
(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 2. 尼崎市への居住意向と市のイメージ

### 居住理由（問1、複数回答）

- ・ 居住理由は「親（子）など親族と同居している、あるいは近くに住んでいるから」（35.3%）が最も多く、「生活が便利だから」（33.6%）が次に多い。

図表 2-1 尼崎に現在居住している理由



属性別傾向（居住理由）

（性・年齢別）

- ・「親(子)など親族と同居している、あるいは近くに住んでいるから」は男女 19 歳以下・20 歳代・40 歳代が多い。
- ・「生活が便利だから」は男性 60 歳代・70 歳以上、女性 60 歳代が多い。
- ・「生まれたときから住んでいるから」は男女 19 歳以下～40 歳代が多い。

（居住地別）

- ・「親(子)など親族と同居している、あるいは近くに住んでいるから」、「生活が便利だから」は大庄地区がやや多い。
- ・「環境が良いから」は園田地区が多い。

図表 2-2 尼崎に現在居住している理由(属性別)

(単位: %)

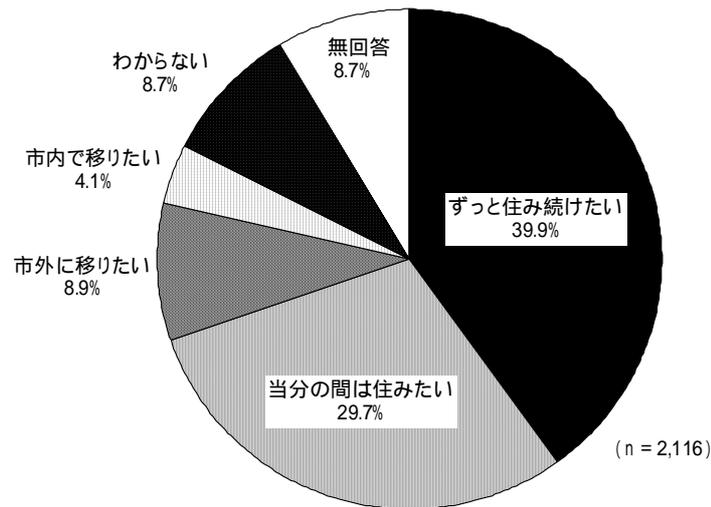
		近居親 くして に住 んで いる か ら は 同	生 活 が 便 利 だ か ら	で 生 ま れ た と き か ら 住 ん で い る か ら	ら 通 勤 ・ 通 学 に 便 利 だ か	に も と と 配 偶 者 が 市 内 に 住 ん で い た か ら	安 土 地 ・ 住 居 代 ・ 家 賃 が 安 い か ら	環 境 が 良 い か ら	ら 社 宅 ・ 官 舎 な ど 職 場 か ら 指 定 さ れ た 住 居 場 あ る か ら	そ の 他	無 回 答	
全体	N = 2,116	35.3	33.6	29.2	25.9	23.0	6.7	6.5	2.6	8.9	4.3	
男性・ 年齢別	男性全体	N = 850	36.8	34.6	31.9	<b>31.4</b>	16.2	8.8	7.1	6.4	3.1	2.8
	男性19歳以下	N = 29	<b>48.3</b>	3.4	<b>72.4</b>	3.4	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0
	男性20歳代	N = 76	<b>56.6</b>	21.1	<b>47.4</b>	30.3	6.6	1.3	2.6	1.3	3.9	3.9
	男性30歳代	N = 138	34.1	31.2	<b>37.7</b>	<b>53.6</b>	13.8	5.8	2.9	3.6	2.9	2.2
	男性40歳代	N = 113	<b>42.5</b>	27.4	<b>42.5</b>	<b>37.2</b>	13.3	6.2	6.2	1.8	5.3	0.9
	男性50歳代	N = 139	40.3	33.8	33.8	<b>32.4</b>	21.6	8.6	5.0	5.8	7.9	0.7
	男性60歳代	N = 202	30.7	<b>45.5</b>	23.8	28.2	19.8	7.4	8.9	2.5	13.4	3.5
男性70歳以上	N = 153	28.1	<b>41.8</b>	9.8	19.0	18.3	7.2	<b>13.7</b>	2.0	<b>15.7</b>	7.2	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 1,091	35.8	34.0	28.0	28.0	22.5	7.3	5.8	2.5	8.9	4.3
	女性19歳以下	N = 29	<b>72.4</b>	24.1	<b>79.3</b>	17.2	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0
	女性20歳代	N = 93	<b>50.5</b>	17.2	<b>43.0</b>	24.7	12.9	6.5	2.2	2.2	6.5	3.2
	女性30歳代	N = 186	39.2	28.5	<b>39.8</b>	<b>31.7</b>	20.4	10.8	7.0	4.3	6.5	1.6
	女性40歳代	N = 157	<b>43.3</b>	35.0	<b>35.0</b>	30.6	22.9	3.8	3.8	2.5	7.0	3.8
	女性50歳代	N = 176	34.1	33.0	26.7	23.9	<b>31.3</b>	4.5	5.1	1.1	10.2	3.4
	女性60歳代	N = 231	30.3	<b>42.9</b>	16.9	20.3	<b>35.1</b>	8.7	6.1	1.7	11.7	7.4
女性70歳以上	N = 219	23.7	37.9	12.8	9.6	<b>37.4</b>	9.1	8.2	3.2	10.5	5.5	
居住地別	中央地区	N = 200	35.3	33.6	29.2	25.9	23.0	6.7	6.5	2.6	8.9	4.5
	小田地区	N = 327	37.0	38.0	30.0	21.5	24.5	6.5	2.5	4.0	7.5	4.9
	大庄地区	N = 231	40.1	<b>40.1</b>	32.4	26.3	22.6	8.9	3.1	1.5	5.2	1.7
	立花地区	N = 472	36.4	30.7	32.9	22.1	27.7	10.4	1.3	3.0	9.5	4.7
	武庫地区	N = 339	34.7	38.1	30.9	26.9	24.2	5.3	7.2	2.5	10.2	5.9
	園田地区	N = 424	29.2	28.0	25.1	26.0	16.2	7.4	11.2	1.5	10.0	3.1

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 居住継続の意向（問2）

- ・ 居住継続の意向をみると、「ずっと住みたい」（39.9%）が最も多く、「当分の間は住みたい」（29.7%）と合わせると回答者全体の約7割が居住を継続する意向を示している。

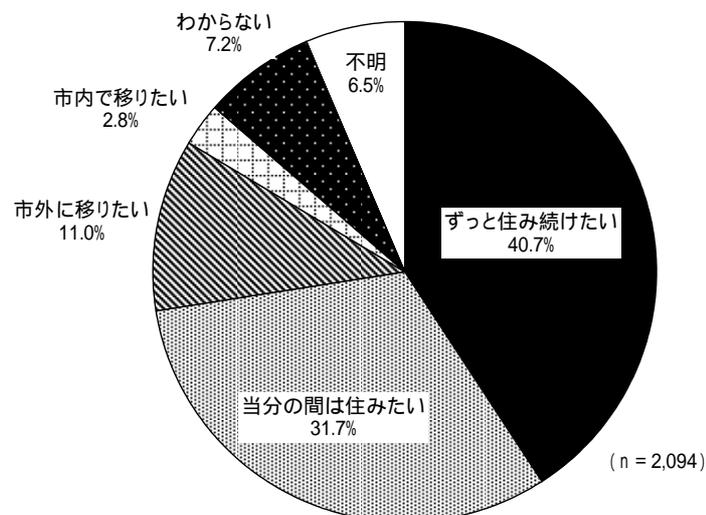
図表 2-3 居住継続の意向



### 前回調査との比較

- ・ 前回調査と今回調査の結果には概ね同じ傾向が見られる。

図表 2-4 【参考】前回調査の結果(平成11年)

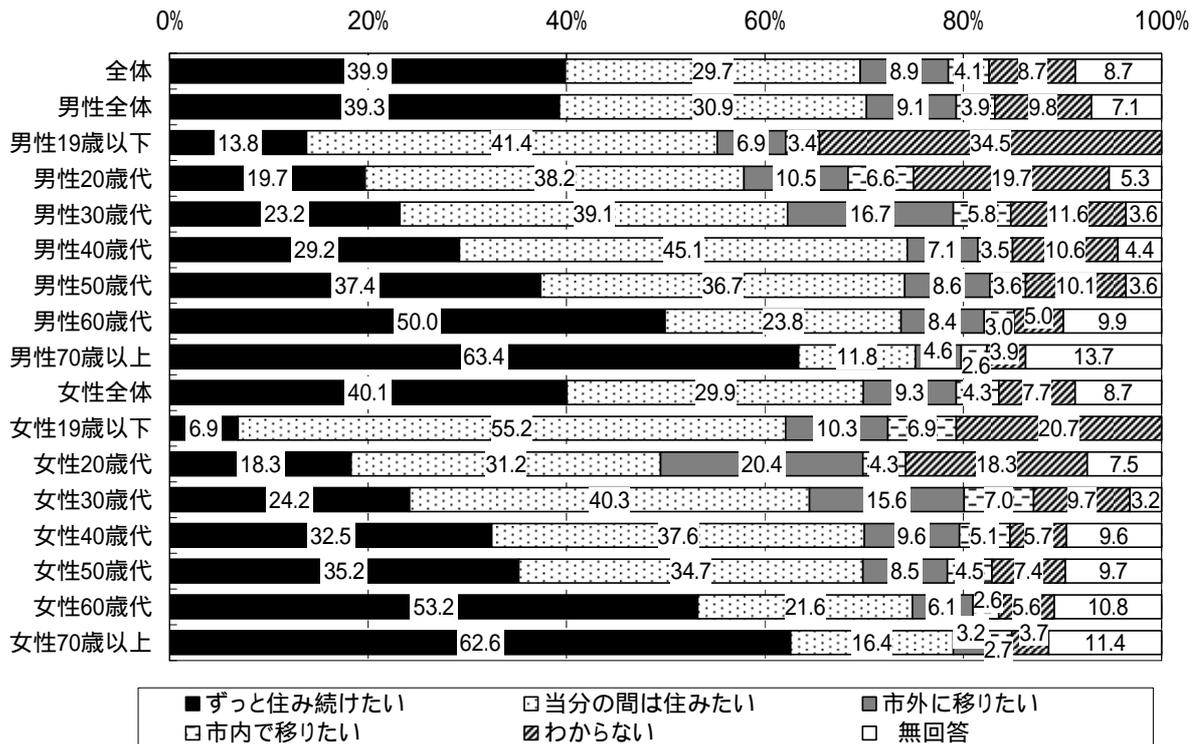


属性別傾向（居住継続の意向）

（性・年齢別）

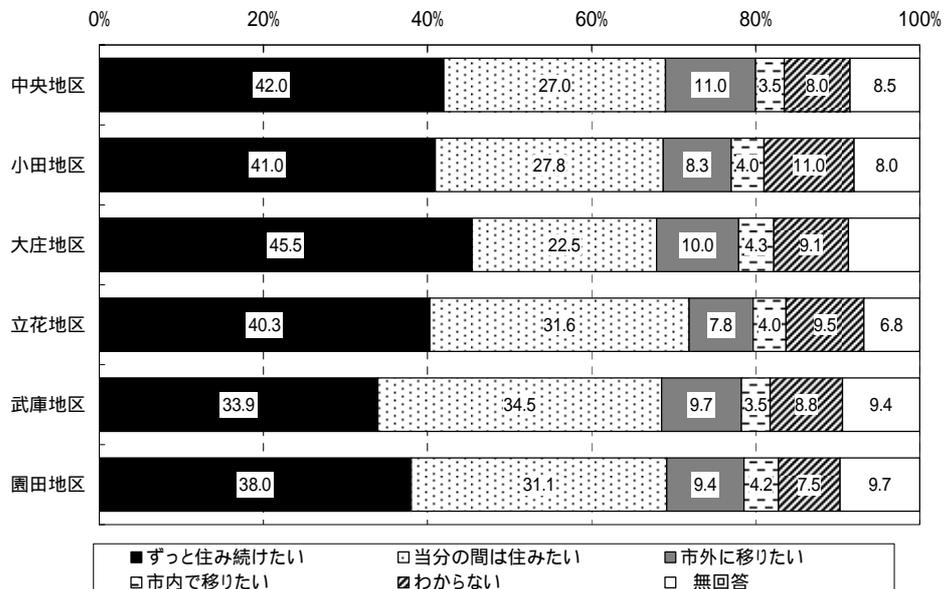
- ・「ずっと住み続けたい」は男女ともに年齢が上がるにつれて多くなっている。
- ・「当分の間は住みたい」は男女ともに年齢が上がるにつれて少なくなる傾向にある。
- ・「市外に移りたい」は男性 30 歳代、女性 20～30 歳代が多い。

図表 2-5 居住継続の意向(属性別)



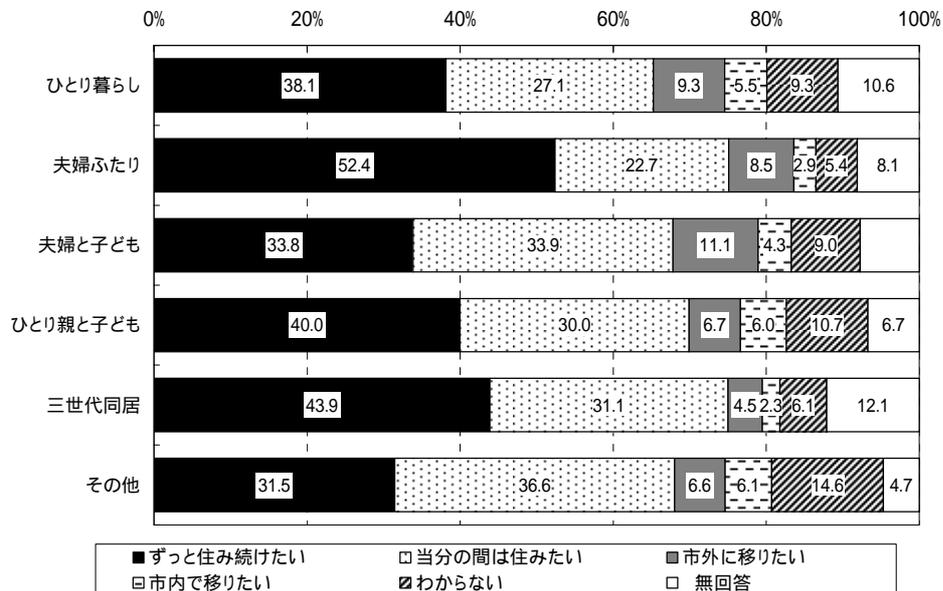
（居住地別）

- ・「ずっと住み続けたい」は大庄地区が多く、武庫地区が少ない。



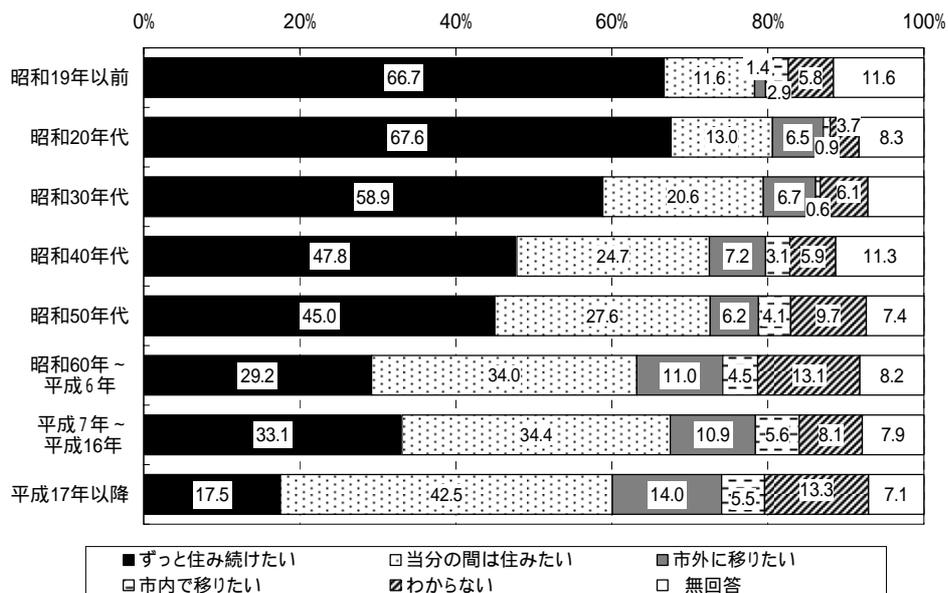
(家族構成別)

- ・「ずっと住みたい」は夫婦ふたりが多く、夫婦と子どもが少ない。
- ・「当分の間は住みたい」は夫婦二人が少ない。



(居住開始時期別)

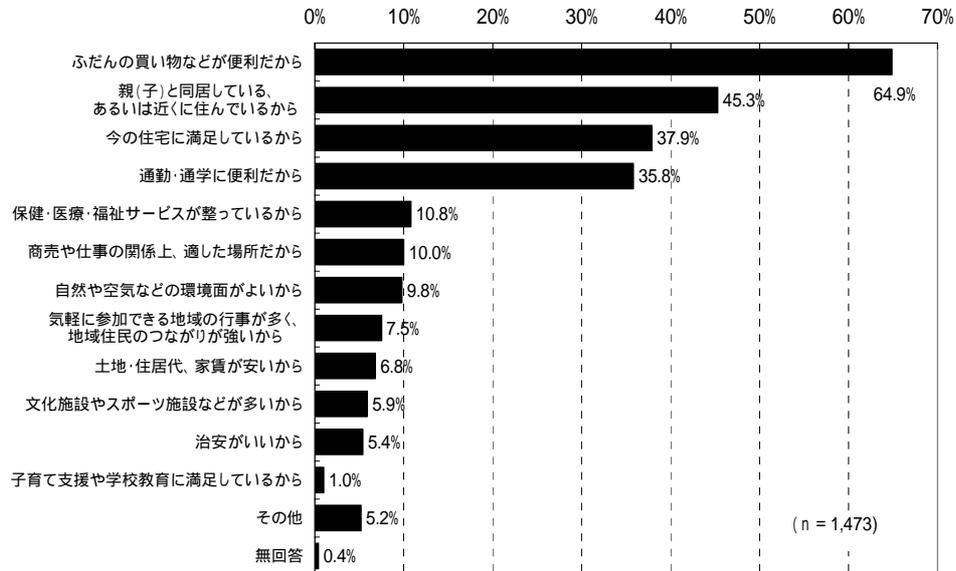
- ・「ずっと住みたい」は居住期間が長いほど多くなる傾向にある。
- ・「当分の間は住みたい」は居住期間が短いほど、多くなっている。
- ・「市外に移りたい」は昭和 60 年以降の居住者が多い。



## 居住の継続を希望する理由（問3 - A、3つ以内で回答）

- ・ 居住継続を希望する理由は、「ふだんの買い物などが便利だから」（64.9%）が最も多く、「親（子）と同居している、あるいは近くに住んでいるから」（45.3%）が次に多い。

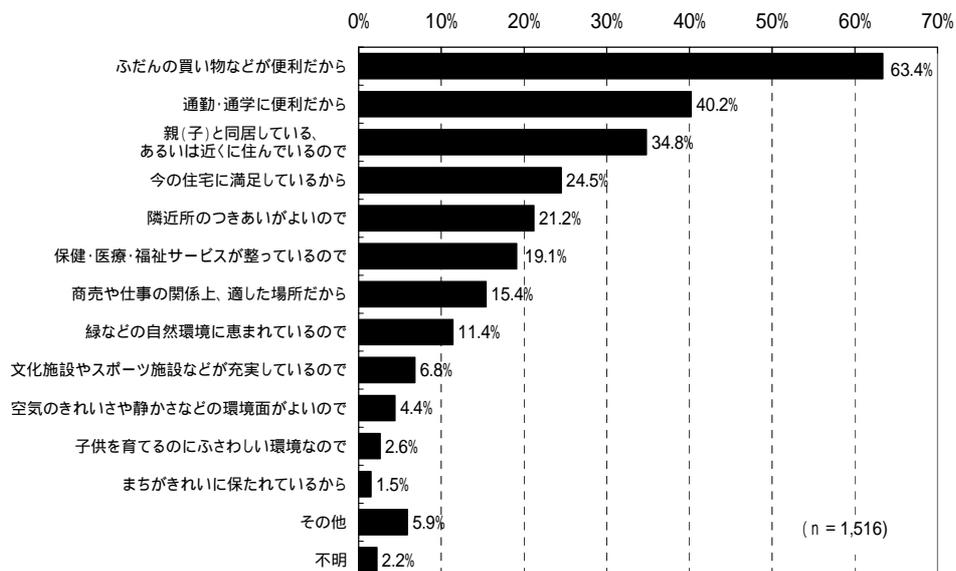
図表 2-6 居住継続を希望する理由



### 前回調査との比較

- ・ 前回調査と今回調査の結果には概ね同じ傾向が見られるが、「今の住宅に満足しているから」の回答割合が増加した（24.5%から37.9%）。
- ・ 「保健・医療・福祉サービスが整っているから」「商売や仕事の関係上、適した場所だから」の回答割合が減少した（19.1%から10.8%、15.4%から10.0%）。

図表 2-7 【参考】前回調査の結果（平成 11 年）



属性別傾向（居住の継続を希望する理由）

（性・年齢別）

- ・「ふだんの買い物などが便利だから」「今の住宅に満足しているから」「保健・医療・福祉サービスが整っているから」は男女ともに年齢が上がるにつれて多くなる傾向にある。特に「保健・医療・福祉サービスが整っているから」は70歳以上になると大きく増える。
- ・「親（子）と同居している、あるいは近くに住んでいるから」「通勤・通学に便利だから」は男女ともに年齢が上がるにつれて少なくなる傾向にある。
- ・「商売や仕事の関係上、適した場所だから」は男性60歳代・70歳以上が多い。
- ・「文化施設やスポーツ施設などが多いから」は男性19歳以下・70歳以上が多い。

（居住地別）

- ・「ふだんの買い物などが便利だから」は中央地区が多く、武庫地区、園田地区が少ない。
- ・「親（子）と同居している、あるいは近くに住んでいるから」は大庄地区が多い。
- ・「今の住宅に満足しているから」は園田地区が多い。

（家族構成別）

- ・「ふだんの買い物などが便利だから」はひとり暮らしが多く、ひとり親と子どもが少ない。
- ・「親（子）と同居している、あるいは近くに住んでいるから」はひとり親と子ども、三世代同居が多く、ひとり暮らし、夫婦ふたりが少ない。
- ・「今の住宅に満足しているから」はひとり暮らし、夫婦ふたりが多く、ひとり親と子ども、三世代同居が少ない。

図表 2-8 居住継続を希望する理由(属性別)

(単位:%)

		ふだんの 買物などが 便利だから	親、子 と同居し ているか ら	今の住宅 に満足し ているか ら	通勤・ 通学に 便利だ から	保健・ 医療・ 福祉サ ービスが 整って いるか ら	商売や 仕事の 関係上、 適した 場所だ から	自然や 空気の 環境が よいか ら	民の行 事が多 く、強 い地域 が住ま うから	気軽な 参加で できる 地域が 多いか ら	土地・ 住居代、 家賃が 安いか ら	文化施設 やスポ ーツ施 設など が多い から	治安が いいか ら	子育て 支援や 学校教 育に 満足し ている から	その他	無回答
全体	N = 1,473	64.9	45.3	37.9	35.8	10.8	10.0	9.8	7.5	6.8	5.9	5.4	1.0	5.2	0.4	
男性・ 年齢別	男性全体	N = 597	60.1	42.4	36.5	<b>41.9</b>	10.9	12.9	10.6	7.0	6.0	7.2	3.9	1.0	5.7	0.2
	男性19歳以下	N = 16	25.0	<b>68.8</b>	25.0	31.3	0.0	0.0	12.5	6.3	0.0	<b>12.5</b>	0.0	0.0	6.3	0.0
	男性20歳代	N = 44	36.4	<b>54.5</b>	25.0	<b>65.9</b>	2.3	9.1	0.0	2.3	4.5	4.5	2.3	0.0	4.5	2.3
	男性30歳代	N = 86	47.7	47.7	27.9	<b>68.6</b>	2.3	10.5	9.3	7.0	5.8	1.2	2.3	3.5	7.0	0.0
	男性40歳代	N = 84	60.7	44.0	33.3	<b>60.7</b>	6.0	10.7	4.8	6.0	6.0	9.5	3.6	1.2	6.0	0.0
	男性50歳代	N = 103	68.0	47.6	36.9	<b>47.6</b>	5.8	13.6	7.8	4.9	5.8	4.9	2.9	1.9	3.9	0.0
	男性60歳代	N = 149	67.8	32.9	38.9	31.5	13.4	<b>15.4</b>	10.7	6.7	5.4	7.4	4.7	0.0	6.7	0.0
男性70歳以上	N = 115	66.1	36.5	<b>47.8</b>	<b>8.7</b>	<b>27.0</b>	<b>15.7</b>	<b>21.7</b>	12.2	8.7	<b>12.2</b>	6.1	0.0	5.2	0.0	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 763	68.9	48.8	39.8	31.7	10.0	7.6	9.2	7.9	6.8	5.0	5.5	0.8	5.2	0.4
	女性19歳以下	N = 18	27.8	<b>83.3</b>	44.4	<b>77.8</b>	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 46	47.8	<b>69.6</b>	<b>47.8</b>	<b>63.0</b>	0.0	13.0	0.0	2.2	4.3	4.3	2.2	0.0	2.2	2.2
	女性30歳代	N = 120	65.8	<b>55.0</b>	28.3	<b>48.3</b>	2.5	11.7	2.5	4.2	5.8	3.3	5.8	1.7	8.3	0.0
	女性40歳代	N = 110	69.1	<b>54.5</b>	35.5	<b>48.2</b>	5.5	7.3	3.6	2.7	3.6	3.6	2.7	1.8	4.5	0.0
	女性50歳代	N = 123	<b>70.7</b>	49.6	33.3	37.4	6.5	7.3	8.9	6.5	9.8	8.1	4.1	0.0	4.9	0.0
	女性60歳代	N = 173	<b>77.5</b>	43.9	39.9	17.3	9.2	9.8	<b>15.0</b>	10.4	5.2	4.6	6.9	0.6	7.5	0.0
女性70歳以上	N = 173	<b>71.1</b>	35.2	<b>52.6</b>	<b>6.9</b>	<b>24.9</b>	<b>2.3</b>	<b>15.0</b>	<b>13.9</b>	10.4	5.8	8.1	0.6	2.9	1.2	
居住 地別	中央地区	N = 138	<b>73.3</b>	43.5	38.4	34.1	10.9	14.5	2.9	8.0	6.5	8.0	4.3	0.0	2.9	0.0
	小田地区	N = 225	69.3	43.6	36.9	<b>42.2</b>	14.7	9.3	2.7	7.1	10.2	6.2	7.6	0.9	4.0	0.0
	大庄地区	N = 157	63.7	<b>51.0</b>	40.1	<b>24.2</b>	<b>17.2</b>	7.6	10.8	8.3	7.0	5.1	1.3	1.3	4.5	0.6
	立花地区	N = 339	67.0	46.0	34.2	34.8	9.7	10.3	7.4	8.8	5.6	7.1	6.2	1.8	5.3	0.6
	武庫地区	N = 232	<b>56.5</b>	46.6	36.2	37.9	7.8	<b>9.1</b>	<b>18.5</b>	3.9	6.9	5.2	8.6	0.9	6.9	1.3
	園田地区	N = 293	<b>59.7</b>	46.8	<b>45.4</b>	39.9	6.8	10.6	12.6	7.2	4.8	3.1	4.1	0.7	6.8	0.0
家族 構成 別	ひとり暮らし	N = 154	<b>70.8</b>	24.7	<b>45.5</b>	<b>28.6</b>	15.6	8.4	13.0	9.7	<b>17.5</b>	3.2	9.7	0.0	3.2	0.6
	夫婦ふたり	N = 390	69.0	<b>33.8</b>	<b>43.8</b>	<b>28.2</b>	<b>17.4</b>	11.3	13.1	9.0	7.7	8.7	5.6	0.8	4.9	0.3
	夫婦と子ども	N = 517	63.2	47.2	36.6	<b>44.3</b>	6.2	11.2	7.9	7.4	2.3	6.2	3.5	1.4	5.4	0.4
	ひとり親と子ども	N = 105	<b>56.2</b>	<b>66.7</b>	29.5	31.4	11.4	9.5	10.5	4.8	10.5	3.8	8.6	0.0	4.8	0.0
	三世代同居	N = 99	65.7	<b>73.7</b>	37.3	35.4	2.0	7.1	11.1	9.1	7.0	3.0	3.0	2.0	8.1	0.0
	その他	N = 145	<b>57.2</b>	<b>57.2</b>	37.7	<b>45.5</b>	9.0	9.0	5.5	3.4	7.6	2.8	4.1	0.7	6.9	0.0

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜き**、5%以下回る値を**斜体**で表している。

前回調査との比較（居住の継続を希望する理由）

- ・ 前回調査では「商売や仕事の関係上、適した場所だから」の回答が多かったのは40歳代・50歳代だったが、今回は60歳代・70歳以上が多くなっている。

図表 2-9 【参考】前回調査の結果(平成 11 年)

(単位：%)

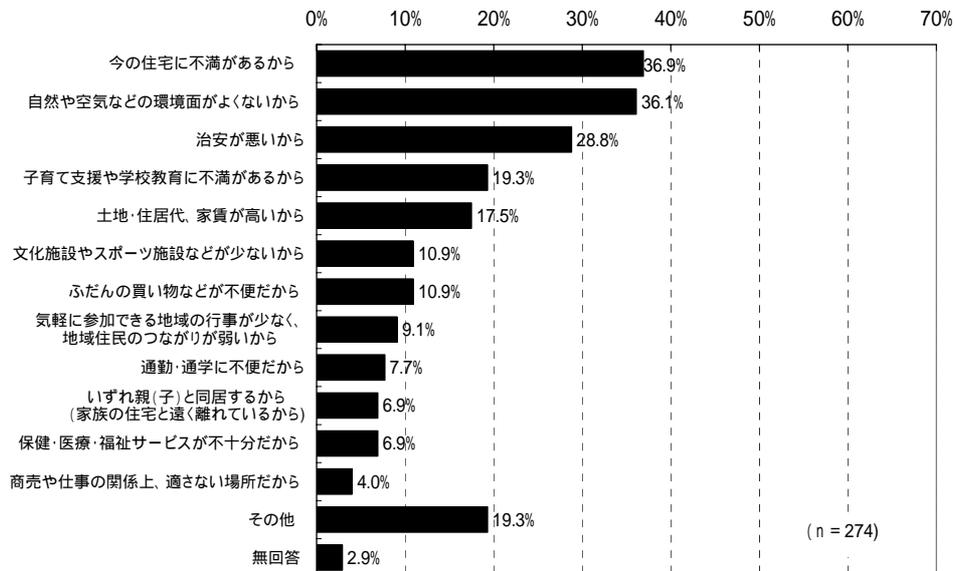
		便 利 だ か ら	ら 通 勤 ・ 通 学 に 便 利 だ か	ある の は 近 く に 住 ん で	親 、 ( 子 )と 同 居 し て い	今 の 住 宅 に 満 足 し て い	い 隣 近 所 の つ き あ い が よ	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 サ ー ビ ス が 整 つ て い る の で	適 商 売 や 仕 事 の 関 係 上 、 適 し た 場 所 だ か ら	ま 緑 な ど の 自 然 環 境 に 恵 ま れ て い る の で	の 設 文 化 施 施 が 充 実 し て い る 施 設	の さ 空 気 の ま れ い さ や 静 い か	わ 子 供 を 育 て る の に ふ さ	て ま ち が ま れ い に 保 た れ
全体	N = 1,516	63.4	40.2	34.8	24.5	21.2	19.1	15.4	11.4	6.8	4.4	2.6	1.5	
年 齢 別	19歳以下	N = 61	55.7	<b>54.1</b>	<b>41.0</b>	<b>31.1</b>	18.0	<i>3.3</i>	<i>3.3</i>	6.6	6.6	1.6	6.6	0.0
	20歳代	N = 213	62.0	<b>58.7</b>	<b>43.7</b>	21.1	<i>9.9</i>	<i>7.0</i>	17.8	7.5	4.7	2.8	3.3	1.9
	30歳代	N = 208	55.8	<b>56.6</b>	<b>47.1</b>	<i>18.8</i>	<i>15.9</i>	<i>10.1</i>	13.9	11.1	6.7	3.8	4.3	1.0
	40歳代	N = 233	64.4	<b>51.9</b>	37.3	19.7	18.0	<i>9.9</i>	<b>21.5</b>	9.9	6.0	3.4	3.0	0.9
	50歳代	N = 315	67.0	39.0	29.8	22.2	23.5	19.0	<b>20.6</b>	13.3	6.3	4.4	2.5	1.6
	60歳代	N = 273	64.8	<i>23.1</i>	<i>25.6</i>	<b>32.2</b>	<b>27.5</b>	<b>28.6</b>	12.8	12.8	8.4	7.0	1.8	1.5
	70歳以上	N = 196	67.3	<i>12.2</i>	<i>27.6</i>	28.6	<b>31.6</b>	<b>45.4</b>	<i>6.6</i>	14.3	8.7	5.6	0.0	2.6

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を*斜体字*で表している。

## 居住の継続を希望しない理由（問3 - B、3つ以内で回答）

- ・ 居住継続を希望しない理由は、「今の住宅に不満があるから」（36.9%）が最も多く、「自然や空気などの環境面がよくないから」（36.1%）が次に多い。

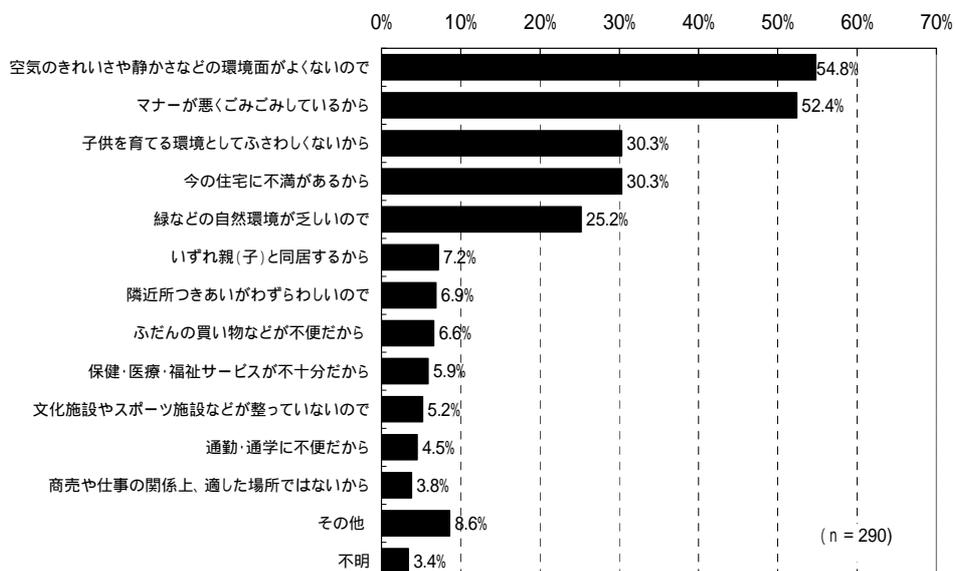
図表 2-10 居住継続を希望しない理由



### 前回調査との比較

- ・ 「環境面がよくないから」という理由が大きく減少した（54.8%から36.1%）
- ・ 「今の住宅に不満があるから」が増加した（30.3%から36.9%）

図表 2-11 【参考】前回調査の結果(平成11年)



属性別傾向（居住の継続を希望しない理由）

（性・年齢別）

- ・「今の住宅に不満があるから」は男性 50～70 歳以上、女性 40～50 歳代が多い。
- ・「自然や空気などの環境面がよくないから」は男性 20 歳代・50 歳代、女性 30 歳代が多い。

（居住地別）

- ・「今の住宅に不満があるから」は大庄地区、立花地区に多く、中央地区、園田地区が少ない。
- ・「自然や空気などの環境面がよくないから」は中央地区が多く、武庫地区が少ない。

（家族構成別）

- ・「今の住宅に不満があるから」はひとり暮らし、ひとり親と子どもが多く、三世同居が少ない。
- ・「自然や空気などの環境面がよくないから」は夫婦ふたりが多く、ひとり親と子どもが少ない。

図表 2-12 居住継続を希望しない理由(属性別)

(単位：%)

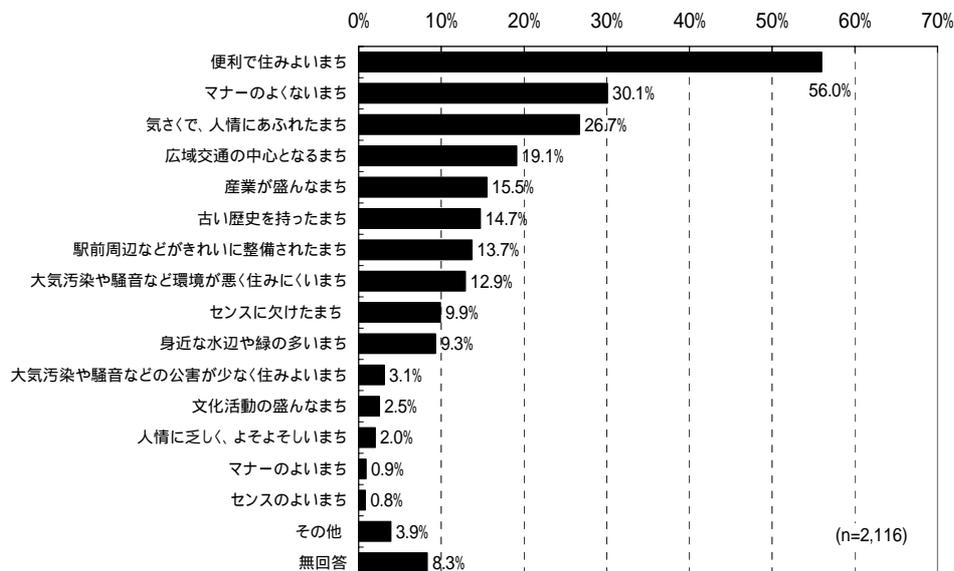
		今の住宅に不満があるから	自然や空気などの環境面がよくないから	治安が悪いから	子育てや支援や学校教育に不満があるから	土地・住居代、家賃が高いから	文化施設やスポーツ施設が少ないから	ふだんの買い物などが不便だから	住民のつながらず、地域が弱いから	気軽に参加できる地域活動に参加できないから	通勤・通学に不便だから	すぐ離れていくから(親(子)と同居)	保健・医療・福祉サービスが不十分だから	商業や仕事関係の場所が少ないから	その他	無回答
全体	N = 274	36.9	36.1	28.8	19.3	17.5	10.9	10.9	9.1	7.7	6.9	6.9	4.0	19.3	2.9	
男性・年齢別	男性全体	N = 110	36.4	31.8	18.2	20.9	11.8	8.2	10.9	11.8	6.4	10.9	6.4	17.3	3.6	
	男性19歳以下	N = 3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
	男性20歳代	N = 13	15.4	46.2	30.8	23.1	30.8	7.7	7.7	0.0	15.4	0.0	7.7	15.4	23.1	
	男性30歳代	N = 31	35.5	35.5	48.4	29.0	12.9	12.9	3.2	6.5	9.7	3.2	16.1	3.2	16.1	
	男性40歳代	N = 12	25.0	25.0	33.3	50.0	8.3	25.0	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	
	男性50歳代	N = 17	47.1	41.2	41.2	5.9	29.4	0.0	11.8	11.8	29.4	11.8	11.8	11.8	23.5	
	男性60歳代	N = 23	43.5	39.1	17.4	0.0	34.8	13.0	13.0	21.7	4.3	8.7	4.3	0.0	17.4	
女性・年齢別	女性全体	N = 149	36.9	35.6	26.2	20.1	13.4	10.7	12.8	8.7	4.7	7.4	4.7	2.7	21.5	
女性19歳以下	N = 5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0		
女性20歳代	N = 23	34.8	34.8	34.8	26.1	4.3	17.4	8.7	8.7	13.0	8.7	8.7	0.0	17.4		
女性30歳代	N = 42	31.0	50.0	42.9	31.0	19.0	7.1	9.5	2.4	4.8	9.5	2.4	2.4	19.0		
女性40歳代	N = 23	52.2	26.1	13.0	17.4	13.0	8.7	17.4	8.7	4.3	0.0	4.3	4.3	26.1		
女性50歳代	N = 23	43.5	30.4	8.7	21.7	0.0	13.0	4.3	8.7	4.3	8.7	4.3	0.0	26.1		
女性60歳代	N = 20	30.0	35.0	25.0	5.0	20.0	15.0	20.0	20.0	0.0	10.0	5.0	5.0	20.0		
女性70歳以上	N = 13	38.5	23.1	15.4	0.0	23.1	7.7	23.1	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4		
居住地別	中央地区	N = 29	24.7	55.2	44.8	24.1	6.9	17.2	6.9	3.4	0.0	3.4	10.3	3.4	13.8	
	小田地区	N = 40	35.0	40.0	30.0	22.5	27.5	7.5	5.0	7.5	10.0	7.5	2.5	0.0	12.5	
	大庄地区	N = 33	54.5	39.4	39.4	21.2	12.1	12.1	15.2	9.1	0.0	6.1	0.0	3.0	12.1	
	立花地区	N = 56	42.9	35.7	23.2	16.1	21.4	10.7	5.4	8.9	5.4	5.4	3.6	3.6	25.0	
	武庫地区	N = 45	35.6	26.7	22.2	24.4	13.3	11.1	4.4	15.6	15.6	11.1	11.1	4.4	17.8	
	園田地区	N = 58	29.3	32.8	25.9	15.5	13.8	12.1	24.1	8.6	10.3	5.2	13.8	8.6	25.9	
家族構成別	ひとり暮らし	N = 35	42.9	37.1	28.6	11.4	25.7	5.7	8.6	11.4	2.9	8.6	2.9	2.9	17.1	
	夫婦ふたり	N = 59	35.6	50.8	20.3	11.9	18.6	10.2	8.5	13.6	3.4	8.5	1.7	27.1		
	夫婦と子ども	N = 118	33.9	33.1	34.7	28.8	15.3	11.9	11.9	7.6	11.0	9.3	7.6	3.4		
	ひとり親と子ども	N = 19	47.4	21.1	26.3	15.8	10.5	10.5	15.8	10.5	0.0	5.3	0.0	10.5		
	三世同居	N = 9	22.2	33.3	33.3	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2		
	その他	N = 27	44.4	25.9	25.9	7.4	18.5	18.5	14.8	3.7	7.4	0.0	11.1	11.1		

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を白抜字、5%以下下回る値を斜体字で表している。

## 尼崎市のイメージ（問4、3つ以内で回答）

- ・ 尼崎市のイメージは、「便利で住みよいまち」(56.0%)が最も多い。次に「マナーのよくないまち」(30.1%)が多いが、その一方「気さくで、人情にあふれたまち」(26.7%)という回答も多い。

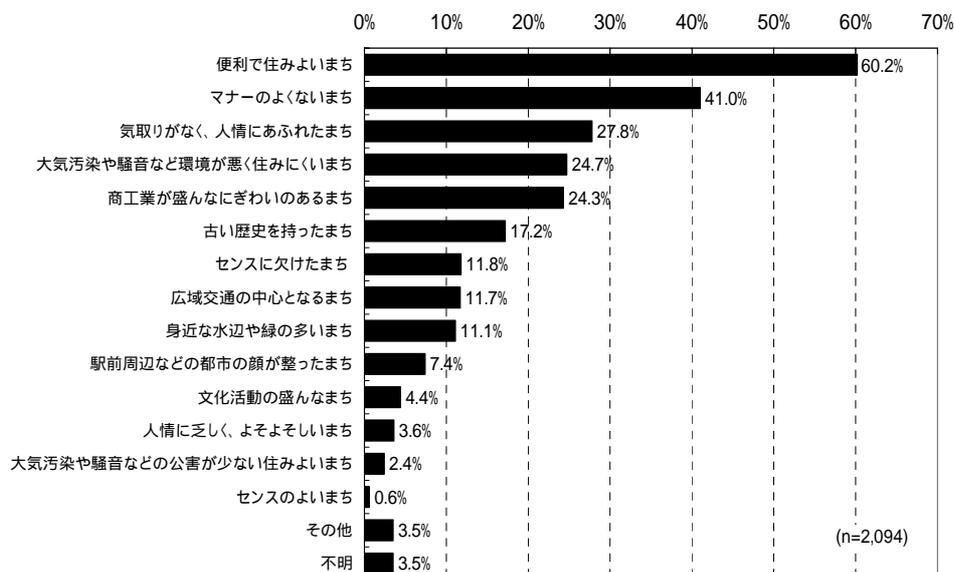
図表 2-13 尼崎市のイメージ



### 前回調査との比較

- ・ 前回調査と今回調査の結果には概ね同じ傾向が見られるが、駅前周辺が整備されているというイメージの回答が増加し(7.4%から13.7%)、「大気汚染や騒音など環境が悪く住みにくいまち」は減少している(24.7%から12.9%)。

図表 2-14 【参考】前回調査の結果(平成11年)



属性別傾向(尼崎市のイメージ)

(性・年齢別)

- ・ 「便利で住みよいまち」は女性 60～70 歳以上が多く、男性 20～30 歳代、女性 19 歳以下・30 歳代が少ない。
- ・ 「マナーのよくないまち」は男性 20～30 歳代、女性 19 歳以下～30 歳代が多く、男性 70 歳以上、女性 60～70 歳以上が少ない。男女ともに 40 歳代以降年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がある。
- ・ 「気さくで、人情にあふれたまち」は男性 40 歳代、女性 19 歳以下～30 歳代が多く、男性 30 歳代・50 歳代・60 歳代が少ない。

(居住地別)

- ・ 「便利で住みよいまち」は小田地区、立花地区が多く、武庫地区が少ない。
- ・ 「マナーのよくないまち」は中央地区が多い。
- ・ 「気さくで、人情にあふれたまち」は大庄地区が多い。

(市政への関心別)

- ・ 「便利で住みよいまち」「気さくで、人情にあふれたまち」は「まったく関心がない」が少ない。
- ・ 「マナーのよくないまち」は「まったく関心がない」が多い。

(近所付き合い別)

- ・ 「便利で住みよいまち」「気さくで、人情にあふれたまち」は近隣住民と親しいほど多くなっている。
- ・ 「マナーのよくないまち」は近隣住民と親しいほど少なくなっている。

図表 2-15 尼崎市のイメージ(属性別)

(単位：%)

		全体	便利で住みよいまち	マナーのよくないまち	気さくで、人情にあふれたまち	広域交通の中心となるまち	産業が盛んなまち	古い歴史を持ったまち	駅前周辺などがきれいに整備されたまち	境が美しく住みやすい環境	大気汚染や騒音など環境に欠けたまち	センスに欠けたまち	身近な水辺や緑の多いまち	公害が少なく住みやすいまち	文化活動の盛んなまち	人情に乏しく、よそよそしいまち	マナーのよいまち	センスのよいまち	その他	無回答
全体		N = 2,116	56.0	30.1	26.7	19.1	15.5	14.7	13.7	12.9	9.9	9.3	3.1	2.5	2.0	0.9	0.8	3.9	8.0	
男性 年齢別	男性全体	N = 850	54.6	32.1	22.6	21.8	18.2	14.1	12.6	12.9	10.4	7.9	3.8	3.1	2.1	0.8	1.1	1.4	3.2	
	男性19歳以下	N = 29	58.6	31.0	27.6	10.3	10.3	10.3	20.7	10.3	6.9	6.9	10.3	0.0	0.0	6.9	3.4	0.0		
	男性20歳代	N = 76	42.1	50.0	25.0	23.7	13.2	7.9	9.2	26.3	17.1	2.6	0.0	1.3	0.0	0.0	1.3	2.6	10.5	
	男性30歳代	N = 138	50.7	50.0	14.5	21.0	26.1	11.6	10.9	19.6	10.1	6.5	0.0	1.4	0.7	0.0	0.0	3.6	5.1	
	男性40歳代	N = 113	58.4	33.6	31.9	23.0	15.9	11.5	6.2	8.0	10.6	8.0	2.7	3.5	1.8	0.0	1.8	7.1	6.2	
	男性50歳代	N = 139	56.8	29.5	19.4	28.1	20.9	13.7	12.2	10.8	12.9	3.6	0.7	2.2	2.9	1.4	0.0	5.0	5.8	
	男性60歳以上	N = 202	57.4	26.2	27.3	19.3	16.8	16.8	12.9	10.4	9.4	11.4	4.0	2.0	3.5	0.5	1.5	1.5	9.9	
女性 年齢別	女性全体	N = 1,091	58.0	28.0	30.3	18.4	14.2	15.0	13.9	13.0	8.9	9.8	2.5	2.4	1.6	0.9	0.6	2.4	4.2	
女性19歳以下	N = 29	44.8	37.9	41.4	20.7	13.8	27.6	13.8	17.2	6.9	3.4	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4	0.0	6.9		
女性20歳代	N = 93	51.6	40.9	32.3	18.3	15.1	10.8	6.5	22.6	15.1	3.2	1.1	1.1	1.1	0.0	0.0	6.5	5.4		
女性30歳代	N = 186	48.4	47.8	32.3	14.5	22.0	9.7	5.9	22.6	9.1	7.0	0.5	1.1	0.5	0.5	0.5	6.5	2.7		
女性40歳代	N = 157	58.6	28.0	28.0	21.0	17.2	12.7	7.6	14.6	7.6	6.4	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	4.5	10.8		
女性50歳代	N = 176	56.8	31.3	30.1	15.9	13.1	13.1	15.3	11.4	11.4	6.8	1.7	2.8	1.1	0.6	1.1	5.7	6.8		
女性60歳以上	N = 231	64.1	17.3	27.3	20.3	14.7	17.3	15.6	6.5	9.1	16.0	2.6	2.6	1.3	1.7	0.4	2.6	11.3		
女性70歳以上	N = 219	64.8	13.2	31.5	19.6	5.5	20.5	25.6	7.3	5.0	14.2	6.8	4.6	4.1	1.8	0.9	4.1	9.6		
居住地別	中央地区	N = 200	55.5	38.0	27.5	20.0	13.0	17.0	12.5	15.5	12.5	2.0	2.5	3.0	1.5	0.5	1.0	3.0	12.0	
	小田地区	N = 327	61.2	30.0	23.9	25.1	16.2	16.5	25.7	13.1	11.0	2.8	2.1	1.5	1.5	1.5	0.6	2.8	7.6	
	大庄地区	N = 231	54.1	33.3	33.3	19.0	12.6	15.6	11.3	13.0	10.0	12.6	3.0	2.6	2.6	0.0	1.3	1.7	6.9	
	立花地区	N = 472	64.6	27.1	27.5	22.7	13.6	15.0	12.5	10.4	8.9	8.1	2.8	2.8	2.8	1.1	0.6	4.7	7.0	
	武庫地区	N = 339	48.1	27.1	23.9	15.3	18.6	11.8	9.1	18.9	10.0	12.4	4.4	2.4	1.2	1.2	3.2	12.1		
	園田地区	N = 424	51.9	29.2	26.7	15.1	18.6	14.9	10.6	9.9	9.7	14.4	3.5	2.8	1.4	0.7	0.5	4.7	6.8	
市政への関心別	大いに関心がある	N = 477	56.0	31.4	29.8	18.7	16.8	15.9	16.4	12.8	10.7	9.0	3.6	3.6	3.1	1.5	1.0	4.6	7.3	
	少しは関心がある	N = 1025	58.0	29.1	27.6	22.3	15.8	15.6	13.8	11.8	9.1	8.9	2.7	2.3	1.3	0.8	0.6	4.4	7.3	
	あまり関心がない	N = 402	53.7	32.1	24.9	14.9	15.9	13.2	10.7	14.7	10.7	10.2	4.0	1.2	1.0	0.7	0.5	2.0	9.0	
	まったく関心がない	N = 63	36.5	50.8	9.5	3.2	9.5	6.3	7.9	33.3	22.2	4.8	0.0	0.0	7.9	0.0	1.6	3.2	9.5	
近所付き合い別	家の行き来をするなど、親しく交流している	N = 174	63.2	19.0	43.7	21.8	11.5	15.5	15.5	6.9	6.3	13.8	5.2	5.2	1.1	0.6	0.6	2.3	8.6	
	会話は立ち話、世間話をする程度	N = 875	59.5	24.7	31.3	18.9	14.4	17.7	15.2	11.3	7.8	10.1	3.9	2.9	1.8	1.1	0.5	3.0	8.3	
	あいさつをする程度でほとんど付き合いがない	N = 900	53.1	36.7	19.1	20.4	17.7	12.7	12.1	15.1	12.0	7.8	1.6	1.6	2.1	0.6	1.0	4.6	7.4	
	まったく付き合いがない	N = 70	38.6	50.0	15.7	12.9	15.7	5.7	7.1	17.1	20.0	4.3	1.4	1.4	2.9	1.4	2.9	10.0	10.0	

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を白抜字、5%以下下回る値を斜体字で表している。

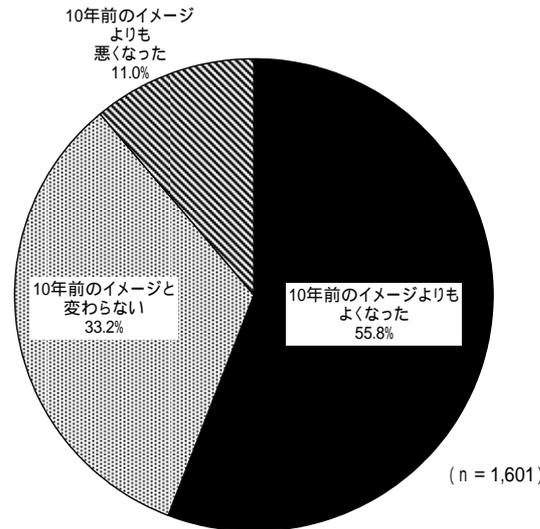
## 尼崎市に対するイメージの変化（問5、無回答除く）

10年前と比較した尼崎市のイメージ（居住10年以上の住民）

全体傾向

- ・ 10年前と比べて「10年前のイメージよりもよくなった」(55.8%)が半数を超えて最も多く、「10年前のイメージと変わらない」(33.2%)が次に多い。

図表 2-16 10年前と比較した尼崎市のイメージ(居住10年以上の住民)



図表 2-17 10年前と比較した尼崎市のイメージ（居住10年以上の住民、属性別）(単位:%)

属性別傾向

(性・年齢別)

- ・ 「10年前のイメージよりもよくなった」は男女ともに年齢が上がるにつれて多くなる傾向がある。
- ・ 「10年前のイメージと変わらない」は男女とも19歳以下～40歳代が多い。
- ・ 20代以下は「10年前のイメージと変わらない」とする回答割合のほうが、「10年前のイメージよりもよくなった」とする回答割合よりも高くなる。
- ・ 「10年前のイメージと変わらない」は男女ともに年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がある。

(居住地別)

- ・ 「10年前のイメージよりもよくなった」は小田地区が多く、武庫地区が少ない。

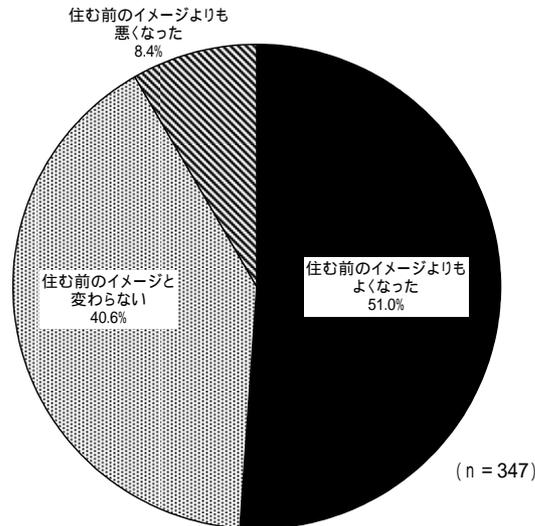
		10年前のイメージよくなった	10年前のイメージと変わらない	10年前のイメージも悪くなった	
全体		N = 1,601	55.8	33.2	11.0
男性・年齢別	男性全体	N = 655	55.3	33.1	11.6
	男性19歳以下	N = 26	26.9	<b>69.2</b>	3.8
	男性20歳代	N = 49	38.8	<b>49.0</b>	12.2
	男性30歳代	N = 73	50.7	<b>43.8</b>	5.5
	男性40歳代	N = 83	44.6	<b>44.6</b>	10.8
	男性50歳代	N = 121	57.0	27.3	15.7
	男性60歳代	N = 176	60.2	26.1	13.6
男性70歳以上	N = 127	<b>68.5</b>	27.3	10.2	
女性・年齢別	女性全体	N = 813	48.6	32.9	8.5
	女性19歳以下	N = 26	30.8	<b>50.0</b>	19.2
	女性20歳代	N = 54	42.6	<b>48.1</b>	9.3
	女性30歳代	N = 102	51.0	<b>39.2</b>	9.8
	女性40歳代	N = 114	47.4	<b>42.1</b>	10.5
	女性50歳代	N = 146	57.5	33.6	8.9
	女性60歳代	N = 190	60.0	31.6	8.4
女性70歳以上	N = 181	55.7	17.4	9.6	
居住地別	中央地区	N = 151	55.6	31.8	12.6
	小田地区	N = 255	<b>70.2</b>	23.5	6.3
	大庄地区	N = 171	51.5	<b>42.1</b>	6.4
	立花地区	N = 374	55.6	33.2	11.2
	武庫地区	N = 244	46.7	<b>41.0</b>	12.3
	園田地区	N = 313	55.0	31.9	13.1

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

居住前と比較した尼崎市のイメージ（居住 10 年以内の住民）

・ 居住前と比べて「住む前のイメージよりもよくなった」(51.0%) が最も多く、「住む前のイメージと変わらない」(40.6%) が次に多い。

図表 2-18 居住前と比較した尼崎市のイメージ(居住 10 年以内の住民)



図表 2-19 居住前と比較した尼崎市のイメージ（居住 10 年以内の住民、属性別）(単位: %)

属性別傾向  
(性・年齢別)

- ・ 「住む前のイメージよりもよくなった」は男性 40～50 歳代・70 歳以上、女性 30～40 歳代が多い。
- ・ 「住む前のイメージと変わらない」は男性 19 歳以下・20・60 歳代、女性 19 歳以下・50 歳代・70 歳以上が多い。
- ・ 「住む前のイメージよりも悪くなった」は男性 50 歳代、女性 60 歳代・70 歳以上が多い。

(居住地別)

- ・ 「住む前のイメージよりもよくなった」は小田地区、立花地区が多く、園田地区が少ない。
- ・ 「住む前のイメージと変わらない」は小田地区、立花地区が少ない。
- ・ 「住む前のイメージよりも悪くなった」は中央地区が少ない。

		も住む前のイメージより	わらぬ前のイメージと変	も住む前のイメージより	
		よくなった	わらぬ前のイメージと変	悪くなった	
		51.0	40.6	8.4	
全体	N = 347	51.0	40.6	8.4	
男性・年齢別	男性全体	N = 138	52.2	41.3	6.5
	男性19歳代	N = 2	50.0	<b>50.0</b>	0.0
	男性20歳代	N = 20	<i>45.0</i>	<b>55.0</b>	0.0
	男性30歳代	N = 57	50.9	38.6	10.5
	男性40歳代	N = 26	<b>61.5</b>	38.5	0.0
	男性50歳代	N = 14	<b>57.1</b>	<i>28.6</i>	<b>14.3</b>
	男性60歳代	N = 12	<i>41.7</i>	<b>50.0</b>	8.3
男性70歳以上	N = 7	<b>57.1</b>	42.9	0.0	
女性・年齢別	女性全体	N = 191	51.3	39.8	8.9
	女性19歳以下	N = 3	0.0	<b>100.0</b>	0.0
	女性20歳代	N = 34	50.0	38.2	11.8
	女性30歳代	N = 77	<b>59.7</b>	<i>35.1</i>	5.2
	女性40歳代	N = 31	<b>58.1</b>	<i>29.0</i>	12.9
	女性50歳代	N = 20	<i>35.0</i>	<b>60.0</b>	5.0
	女性60歳代	N = 19	47.4	36.8	<b>15.8</b>
女性70歳以上	N = 7	<i>14.3</i>	<b>71.4</b>	<b>14.3</b>	
居住地別	中央地区	N = 33	54.5	42.4	<i>3.0</i>
	小田地区	N = 47	<b>63.8</b>	<i>29.8</i>	6.4
	大庄地区	N = 44	47.7	45.5	6.8
	立花地区	N = 65	<b>61.5</b>	<i>33.8</i>	4.6
	武庫地区	N = 60	50.0	40.0	10.0
	園田地区	N = 79	<i>41.8</i>	45.6	12.7

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

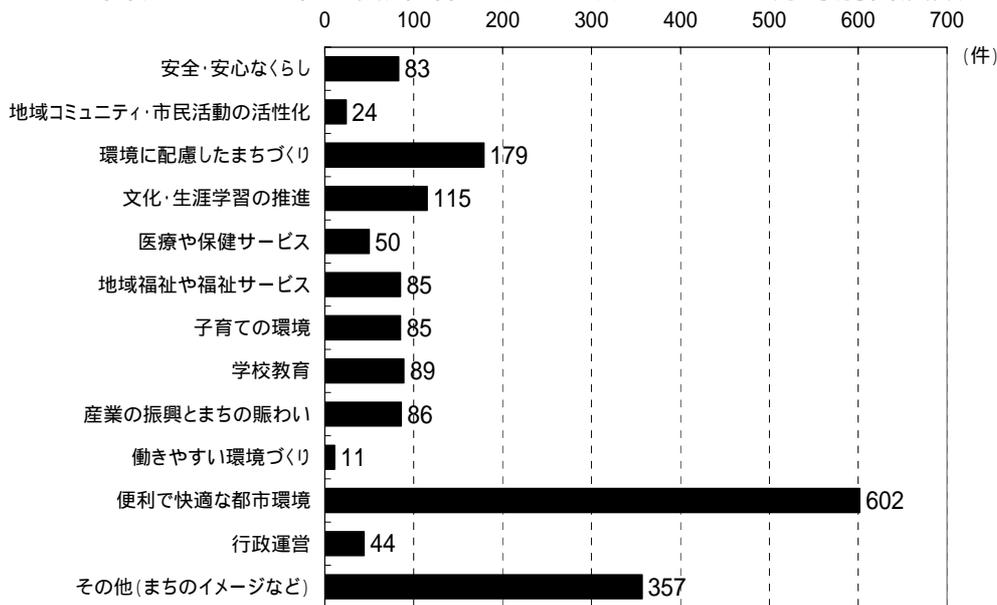
## 尼崎市の長所と今後伸ばすべき点（問6、自由記述）

問6については有効回答数全体の51.5%にあたる1,090通に記入があった。以下、問7、12で用いられている分野別に主な意見を整理して掲載する。

また、分野別に言及数を集計している。なお、複数分野に渡る回答は、該当分野すべてについてそれぞれ数えているため、言及数と回収件数は一致しない。

- ・ 分野別にみると「便利で快適な都市環境」に関する言及が最も多い。中でも交通の利便性に関するコメントが多かった。

図表 2-20 市の長所・伸ばすべき点についての分野別言及数



### < 尼崎市の長所 > 分野に関わらず、多いものから記載

交通の便がよい	295
物価、商業施設が多く買物が便利	170
気さくで人情味のあるまち	80
便利で住みやすい	58
歴史のあるまち	38
産業が盛んなまち	22
福祉が充実している	16
病院が調っている	16
平坦な土地で自転車での移動が可能	14

< 現在不足しているので伸ばすべきところ >

安全・安心なくらし

(治安)

- ・ 治安面に不安があるため、防犯対策に力を入れるべき。
- ・ 夜道が暗く危険なため、街灯を増やしてほしい。

地域コミュニティ・市民活動の活性化

(地域コミュニティ)

- ・ 最近では地域のつながりが無くなってきているため、取り戻すようにすべき。

(市民活動)

- ・ 自治会や町会が中心になり、まち全体を把握すべき。
- ・ 道路・公園の整備は市民がボランティアで行うようにすべき。

環境に配慮したまちづくり

(公害対策)

- ・ 空気が汚いので、今後少しでも緑を増やしていくべき。

(ごみ対策)

- ・ 道路や公園などに多くごみが見られるため、対策を講じるべき。

文化・生涯学習の推進

(歴史・文化)

- ・ 伝統や歴史があることをもっとアピールすべき。

(市外からの誘客)

- ・ アミューズメント施設、観光施設などを充実させることにより、市外の人々を呼び込んでいくべき。

(まちのイベント)

- ・ 地域ごとのイベント開催、市民まつりでのパレード復活など地域のイベントを盛り上げることや、体育館や美術館、公民館といった施設をもっと利用しやすくなるようにすべき。

医療や保健サービス

(医療)

- ・ 地域によっては総合病院が少ないため、小さな病院と連携を深めるべき。

(保健)

- ・ 後期高齢者医療制度の被保険者についても援助すべき。

地域福祉や福祉サービス

(住宅)

- ・ 市営住宅になかなか入ることができないため、もっと誰もが入れるようにしてほしい。

(高齢者・障害者福祉)

- ・ エレベーターがない駅もまだ存在し、今後も引き続き福祉を整えていくべき。
- ・ 高齢者等にとって必要な物を作るなど、高齢者に優しいまちになっていくべき。

(生活保護)

- ・ 生活保護の受給審査がしっかり行われているのかを確認してほしい。

## 子育ての環境

### (保育施設)

- ・ 保育所については、数が少なく整備が足りない。

### (子どもの遊び場)

- ・ 地区によって公園の多寡や、施設料金の有無が異なるので、各地区で子どもたちの遊ぶスペースを確保すべき。
- ・ 子どもにやさしいまちになっていくべき。

### (学校給食)

- ・ 他市では中学校が給食なのに対し、尼崎市では給食でないことに疑問を感じる。
- ・ 小・中学校ともに給食を無償にすべき。

## 学校教育

### (学力向上)

- ・ 学校教育にもっと力を入れて取り組み、子どもの学力を伸ばす努力をしていくべき。特に大学への進学実績の向上

### (情操教育)

- ・ マナーに欠けているため、教育面による改善が必要ではないか。

## 産業の振興とまちの賑わい

### (企業誘致)

- ・ 新たに大きな企業やショッピングパークなどを誘致し、まちが発展するようにすべき。

### (商店街・中小企業振興)

- ・ 若者向けの店が少ない。
- ・ 商店街がもっと活気のあるまちになるべき。
- ・ 地域産業をより積極的にアピールし、中小企業が活気づくまちになるべき。

## 働きやすい環境づくり

### (雇用機会)

- ・ 工場が少なくなって住みやすくなったものの、市内に働く場所が少なくなった。

## 便利で快適な都市環境

### (交通利便性)

- ・ 市内の南北方向の移動が不便なため、市バスなどの路線を改善すべき。

### (道路・公園整備)

- ・ 子育て世代などの定住を促すのであればより美しい景観づくりや、都市区画を進めるべき。

### (都市景観)

- ・ 街路樹、舗道などまちづくりに統一感がない。まちの無電柱化、サイクリングロードの設置などが必要ではないか。

## 行政運営

### (無駄の削減)

- ・ 非常に無駄が多い。

### (市民の利便性向上)

- ・ 市の産業・名所・旧跡・文化歴史等をまとめた小冊子のようなものを配るなど住民へのわかりやすい情報公開が必要。

その他（まちのイメージなど）

（まちのイメージ）

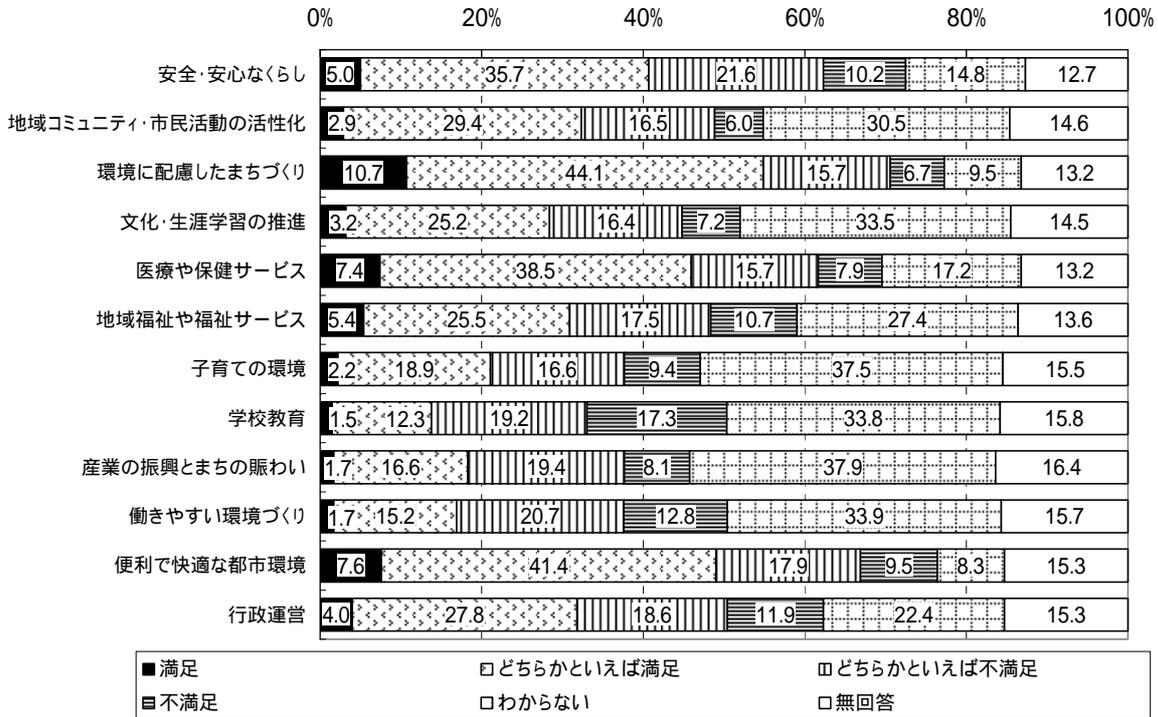
- ・ マナーやモラル、ガラが悪いため、イメージの改善が必要。
- ・ マナーやモラルについては、もっと一人一人が意識して改善していくべき。
- ・ アピールできるところが少ないが、今後アピールできるところをつくるべき。

# 3. 尼崎市の現状に対する評価

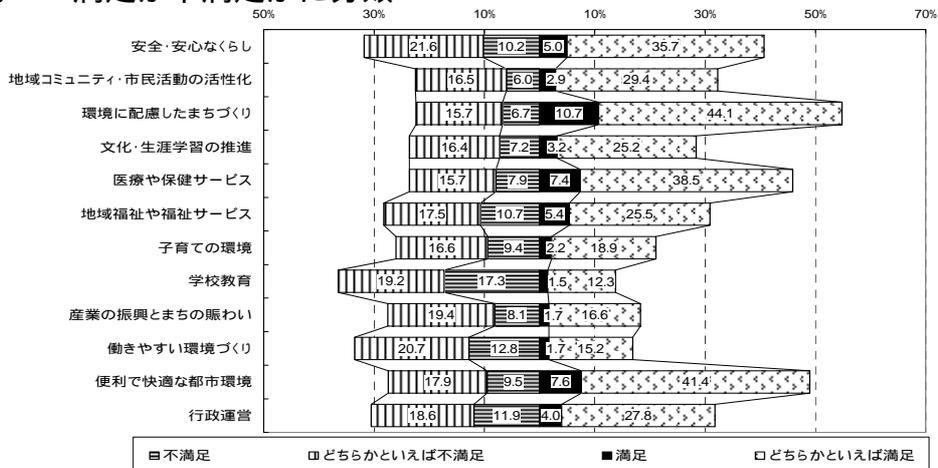
## 尼崎市の取組の現状に対する評価（問7）

- 取組の現状に対する評価についてみると、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合が最も大きいのは「環境に配慮したまちづくり」(54.8%)で、「便利で快適な都市環境」(49.0%)が次に大きい。
- 「不満足」「どちらかといえば不満足」を合わせた割合が最も大きいのは「学校教育」(36.5%)で、「働きやすい環境づくり」(33.5%)が次に大きい。

図表 3-1 尼崎市の取組の現状に対する評価



### < 参考 > 満足か不満足かに分類



属性別傾向（尼崎市の取組の現状に対する評価）

（性・年齢別）

- ・「安全・安心なくらし」「環境に配慮したまちづくり」の満足度は男女ともに年齢が上がるにつれて高くなる傾向がある。
- ・男女ともに70歳以上は全体と比べ総じて満足度が高い。

（居住地別）

- ・「地域福祉や福祉サービス」の満足度は大庄地区が高く、中央地区が低い。
- ・「子育ての環境」の満足度は中央地区が低い。
- ・「産業の振興とまちの賑わい」の満足度は大庄地区が低い。
- ・「便利で快適な都市環境」の満足度は立花地区が高く、大庄地区が低い。
- ・「行政運営」の満足度は武庫地区が低い。

（居住意向別）

- ・居住意向が強くなるほど総じて満足度が高くなる傾向がある。

満足度について

現状に対する評価について「満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満足」「不満足」の回答をそれぞれ2、1、-1、-2点、それ以外を0点として、満足度を算出した。

図表 3-2 尼崎市の取組の現状に対する満足度(属性別)

(単位：%)

		安全・安心なくらし	民活動の活性化・市	く環境に配慮したまちづ	文化・生涯学習の推進	医療や保健サービス	ス地域福祉や福祉サ	子育ての環境	学校教育	わ産業の振興とまちの賑	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	無回答	
全体		N = 2,116	3.6	6.6	36.4	0.7	21.7	-2.6	-12.2	-38.5	-15.7	-27.7	19.7	-6.6	14.6
男性・年齢別	男性全体	N = 850	1.6	-1.2	34.6	-9.1	13.4	-6.9	-17.1	-43.6	-25.5	-33.2	16.1	-15.3	11.7
	男性19歳以下	N = 29	<b>41.4</b>	<b>27.6</b>	<i>13.8</i>	-6.9	<i>0.0</i>	-10.3	<i>-24.1</i>	-31.0	<b>27.6</b>	<b>-13.8</b>	<b>31.0</b>	<b>6.9</b>	13.5
	男性20歳代	N = 76	<i>-42.1</i>	<i>-3.9</i>	<i>6.6</i>	-9.2	<i>9.2</i>	-11.8	<i>-22.4</i>	<i>-50.0</i>	-9.2	<i>-46.1</i>	<i>9.2</i>	<i>-21.1</i>	11.6
	男性30歳代	N = 138	<i>-42.8</i>	<i>-10.1</i>	<i>15.2</i>	<i>-9.4</i>	<i>-1.4</i>	-10.9	<i>-22.5</i>	<i>-58.0</i>	-23.2	<i>-27.5</i>	<i>2.2</i>	<i>-33.3</i>	<i>1.5</i>
	男性40歳代	N = 113	<i>-24.8</i>	<i>-3.5</i>	31.0	<i>-10.6</i>	12.4	-0.9	<i>-26.5</i>	<i>-65.5</i>	<i>-32.7</i>	<i>-36.3</i>	21.2	<i>-29.2</i>	<i>1.8</i>
	男性50歳代	N = 139	<b>17.3</b>	<i>-10.8</i>	35.3	<i>-24.5</i>	<i>10.1</i>	<i>-26.6</i>	-15.1	<i>-52.5</i>	<i>-43.9</i>	<i>-45.3</i>	<i>8.6</i>	<i>-33.1</i>	8.3
	男性60歳代	N = 202	<b>14.4</b>	-1.5	40.1	<i>-18.8</i>	<i>11.4</i>	<i>-17.8</i>	<i>-22.8</i>	<i>-47.0</i>	<i>-32.2</i>	<i>-38.1</i>	11.9	-9.9	15.8
男性70歳以上	N = 153	<b>44.4</b>	13.7	<b>64.7</b>	<b>19.0</b>	<b>37.9</b>	<b>27.5</b>	<b>4.6</b>	<b>-1.3</b>	-15.0	<b>-15.7</b>	<b>37.9</b>	<b>19.0</b>	<b>25.3</b>	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	4.2	13.2	39.5	8.3	28.4	1.7	-8.6	-34.5	-8.2	-22.5	22.7	0.1	14.8
	女性19歳以下	N = 29	<i>-20.7</i>	<b>37.9</b>	<i>20.7</i>	-3.4	<b>27.6</b>	<b>10.3</b>	-3.4	<i>-75.9</i>	<b>-3.4</b>	<b>-10.3</b>	13.8	<b>10.3</b>	<i>0.3</i>
	女性20歳代	N = 93	<i>-26.9</i>	<i>-3.2</i>	<i>10.8</i>	7.5	23.7	0.0	<i>-24.7</i>	<i>-48.4</i>	<b>0.0</b>	<i>-34.4</i>	24.7	<i>-30.7</i>	6.6
	女性30歳代	N = 186	<i>-73.4</i>	6.5	<i>23.1</i>	-1.1	<i>7.0</i>	-11.3	<i>-29.6</i>	<i>-40.3</i>	<b>5.4</b>	-22.6	14.0	-13.4	5.8
	女性40歳代	N = 157	-2.5	11.5	<i>25.5</i>	5.7	14.6	<i>-14.0</i>	<i>-12.7</i>	<i>-54.8</i>	-10.2	<i>-17.8</i>	19.1	-7.6	5.3
	女性50歳代	N = 176	0.6	14.8	40.9	9.1	<b>32.4</b>	-3.4	-2.3	<i>-40.9</i>	-18.8	<i>-34.1</i>	<b>30.1</b>	-2.3	11.0
	女性60歳代	N = 231	<b>17.7</b>	13.0	<b>60.2</b>	<b>12.1</b>	<b>38.5</b>	-1.3	<b>0.4</b>	<b>-22.5</b>	-16.0	<i>-27.7</i>	18.2	0.4	17.8
女性70歳以上	N = 219	<b>29.2</b>	<b>22.8</b>	<b>55.3</b>	<b>15.5</b>	<b>44.7</b>	<b>31.1</b>	<b>3.7</b>	<b>-11.0</b>	<b>-5.5</b>	<b>-7.3</b>	<b>32.0</b>	<b>30.1</b>	<b>34.7</b>	
居住地別	中央地区	N = 200	8.5	11.5	34.0	-1.0	16.0	<i>-14.5</i>	<i>-24.0</i>	-45.0	-20.0	-32.0	23.0	-9.5	13.5
	小田地区	N = 327	1.8	0.6	30.9	3.7	29.1	-0.3	-9.5	-30.3	-7.0	-18.7	24.5	-1.8	18.1
	大庄地区	N = 231	1.7	5.2	27.7	-3.9	25.1	<b>7.3</b>	-12.6	<i>-37.2</i>	<i>-26.8</i>	<i>-29.9</i>	<i>6.1</i>	-9.5	16.7
	立花地区	N = 472	9.7	12.1	40.7	5.1	22.2	-3.6	-9.3	<i>-36.7</i>	-12.1	<i>-27.8</i>	<b>29.7</b>	-0.6	12.0
	武庫地区	N = 339	-4.4	2.4	37.2	-4.7	17.4	-6.8	-13.0	<i>-45.1</i>	<i>-13.9</i>	<i>-27.4</i>	10.0	<i>-16.8</i>	14.4
	園田地区	N = 424	6.6	7.8	44.3	-0.7	21.7	-0.2	-13.0	<i>-41.7</i>	-16.5	-30.0	20.5	-0.9	12.1
居住意向別	ずっと住み続けたい	N = 844	<b>32.9</b>	<b>21.9</b>	<b>58.3</b>	<b>15.4</b>	<b>36.8</b>	<b>10.4</b>	<b>-0.7</b>	<b>-23.6</b>	-12.4	-19.4	<b>37.6</b>	<b>6.5</b>	<i>2.3</i>
	当分の間は住みたい	N = 629	2.4	5.9	38.3	0.0	28.5	-0.3	-4.8	<i>-37.7</i>	-10.5	-24.2	25.8	-8.3	<i>1.5</i>
	市外に移りたい	N = 188	<i>-64.9</i>	<i>-33.0</i>	<i>-36.2</i>	<i>-42.0</i>	<i>-22.9</i>	<i>-32.4</i>	<i>-59.0</i>	<i>-88.8</i>	<i>-35.6</i>	<i>-55.3</i>	<i>-41.5</i>	<i>-46.8</i>	5.4
	市内で移りたい	N = 86	<i>-25.6</i>	<i>-8.1</i>	<i>25.6</i>	3.5	<i>-11.6</i>	<i>-17.4</i>	<i>-37.2</i>	<i>-44.2</i>	<i>-27.9</i>	<i>-43.0</i>	<i>-25.6</i>	<i>-18.6</i>	13.6
	わからない	N = 185	<i>-27.6</i>	<i>-11.9</i>	<i>6.5</i>	<i>-13.0</i>	<i>-3.2</i>	<i>-22.7</i>	<i>-28.1</i>	<i>-49.7</i>	-17.8	<i>-37.8</i>	5.9	<i>-21.6</i>	5.2

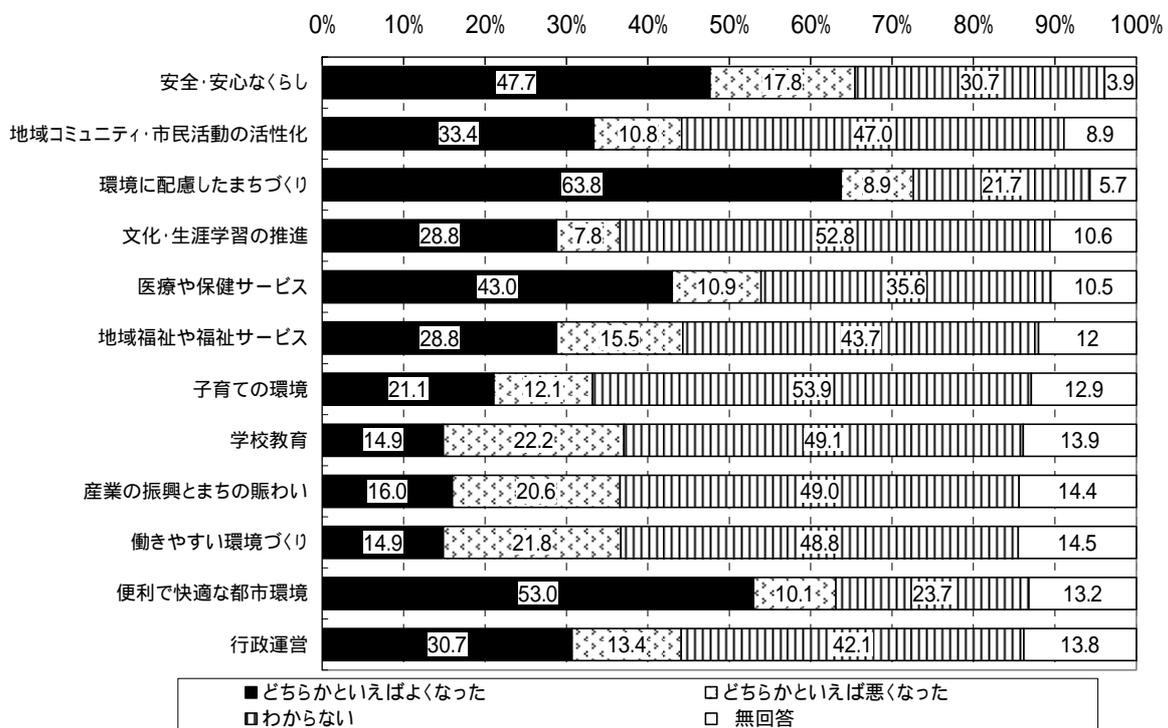
(注) 全体の割合を10点以上回る値を白抜字、10点以下回る値を斜体字で表わしている。

## 10年前と比較した市の取組の現状に対する評価（問7）

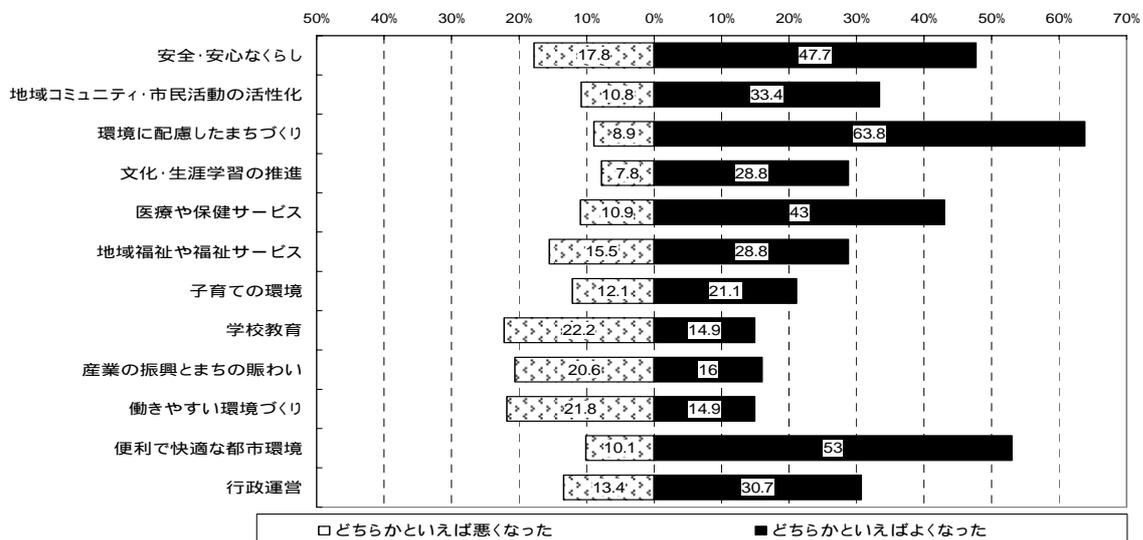
### 全体傾向

- ・ 10年前と比較した取組の現状に対する評価についてみると、現状が「どちらかといえばよくなった」とする割合が最も大きいのは「環境に配慮したまちづくり」(63.8%)で、「便利で快適な都市環境」(53.0%)が次に大きい。
- ・ 10年前と比較した取組の現状が「どちらかといえば悪くなった」とする回答割合が最も大きい分野は「学校教育」(22.2%)で、「働きやすい環境づくり」(21.8%)が次に大きい。

図表 3-3 10年前と比較した尼崎市の取組の現状に対する評価



### <参考> 10年前と比較して良くなったか悪くなったかについて



属性別傾向（10年前と比較した尼崎市の取組の現状に対する評価）

（性・年齢別）

- ・「安全・安心なくらし」「地域コミュニティ・市民活動の活性化」は年齢が上がるにつれて10年前よりよくなったという回答が多い。
- ・「環境に配慮したまちづくり」は男性50～60歳代、女性30・50～60歳代はよくなったという回答が多く、男性19歳以下・20歳代、女性19歳以下・20・40歳代は悪くなったという回答が多い。
- ・「文化・生涯学習の推進」は男性のみ年齢が上がるにつれてよくなったという回答が多くなる。
- ・「学校教育」は男性70歳以上、女性60～70歳以上はよくなったという回答が多く、男性19歳以下・40～60歳代、女性19歳以下は悪くなったという回答が多い。

（居住地別）

- ・「環境に配慮したまちづくり」は園田地区ではよくなったという回答が多く、大庄地区、武庫地区では悪くなったという回答が多い。
- ・「学校教育」は小田地区ではよくなったという回答が多く、園田地区では悪くなったという回答が多い。
- ・小田地区では全体と比べ、よくなったという回答が多い。

改善度について

10年前と比較した現状に対する評価について、「どちらかといえばよくなった」の回答割合から「どちらかといえば悪くなった」の回答割合を減算し、改善度を算出した。

図表 3-4 尼崎市の取組の改善度(属性別)

(単位：%)

		安全・安心なくらし	地域コミュニティ・市民活動の活性化	環境に配慮したまちづくり	文化・生涯学習の推進	医療や保健サービス	地域福祉や福祉サービス	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	無回答	
全体		N = 1,520	29.9	22.6	54.9	21.0	32.1	13.3	9.0	-7.3	-4.6	-6.9	42.9	17.3	11.2
男性・年齢別	男性全体	N = 625	29.0	20.8	52.6	17.8	29.8	13.0	7.0	-9.8	-5.0	-8.5	39.8	14.4	10.6
	男性19歳以下	N = 26	3.8	19.2	3.8	-7.7	11.5	-3.8	0.0	-19.3	11.6	-15.4	3.8	7.7	1.6
	男性20歳代	N = 45	-2.2	0.0	33.3	0.0	22.2	15.5	15.5	-8.8	0.0	-2.3	48.9	2.2	3.1
	男性30歳代	N = 72	12.5	16.7	51.4	7.0	22.3	11.1	12.5	-4.1	-4.1	-11.1	44.4	16.7	4.4
	男性40歳代	N = 82	20.7	10.9	52.4	14.6	28.0	19.5	-1.3	-15.8	-18.3	-6.0	36.6	4.8	4.9
	男性50歳代	N = 116	26.7	15.5	60.4	21.6	28.5	0.9	-1.7	-17.3	-8.6	-17.2	42.2	6.9	7.1
	男性60歳代	N = 170	37.6	23.5	62.4	21.8	33.6	8.8	3.6	-15.3	-9.4	-15.3	38.8	21.2	10.0
男性70歳以上	N = 114	52.6	40.4	50.0	29.8	38.6	30.7	22.0	8.8	8.7	9.7	43.0	23.7	28.1	
女性・年齢別	女性全体	N = 775	29.5	23.9	58.5	23.7	33.7	13.0	10.5	-5.7	-4.6	-5.5	46.8	20.3	10.5
	女性19歳以下	N = 23	13.0	8.7	30.5	21.7	21.8	13.1	0.0	-4.3	-8.7	4.4	21.8	17.4	0.0
	女性20歳代	N = 52	11.5	-9.6	44.2	11.5	15.4	7.7	5.7	-19.3	0.0	-11.5	34.6	3.9	1.4
	女性30歳代	N = 96	24.0	22.9	60.4	21.9	31.2	9.4	15.7	-11.5	-1.0	-3.1	49.0	18.7	1.7
	女性40歳代	N = 112	26.8	19.7	46.5	28.5	20.5	-1.8	6.2	-7.1	-4.5	-4.4	44.6	10.7	2.6
	女性50歳代	N = 146	19.9	25.4	62.4	21.9	36.3	11.0	12.4	-6.2	-6.2	-10.3	47.3	21.9	4.5
	女性60歳代	N = 183	35.0	22.9	69.4	24.0	39.4	12.6	10.9	-2.2	-5.5	-2.7	51.9	20.2	14.2
女性70歳以上	N = 163	45.4	39.9	58.3	27.0	43.0	29.5	11.0	-0.6	-5.6	-6.1	48.4	31.9	26.7	
居住地別	中央地区	N = 145	29.0	20.0	56.6	25.6	29.7	19.4	5.5	-6.9	-10.3	-10.3	46.2	24.8	13.1
	小田地区	N = 244	39.7	26.6	55.3	20.9	37.3	18.0	15.6	1.6	0.4	-0.8	44.3	19.6	14.1
	大庄地区	N = 160	31.3	26.2	46.2	18.7	37.5	21.2	9.3	-5.0	-8.7	-13.7	34.4	10.6	9.6
	立花地区	N = 351	33.9	24.2	56.6	20.0	28.5	10.0	6.2	-8.8	-4.2	-9.4	43.3	24.5	9.9
	武庫地区	N = 250	18.0	21.2	49.2	20.8	34.0	4.8	7.2	-9.2	-4.8	-4.0	39.6	12.8	8.2
	園田地区	N = 295	28.8	18.7	63.0	20.3	30.6	14.6	9.8	-13.2	-3.4	-5.1	48.5	12.3	11.1

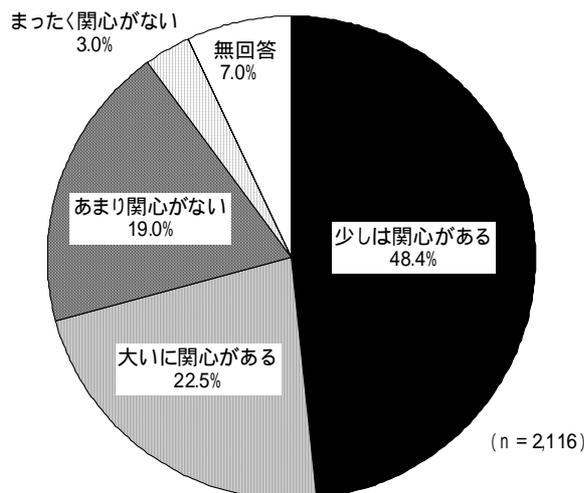
(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜き**、5%以下下回る値を**斜体**で表している。

## 4. 市政への関心と市民参画

### 尼崎市の業務・計画に対する関心（問8）

- ・ 尼崎市の業務・計画に対する関心についてみると、「少しは関心がある」（48.4%）が最も多く、「大いに関心がある」（22.5%）と合わせると、関心がある回答者は全体の約7割である。

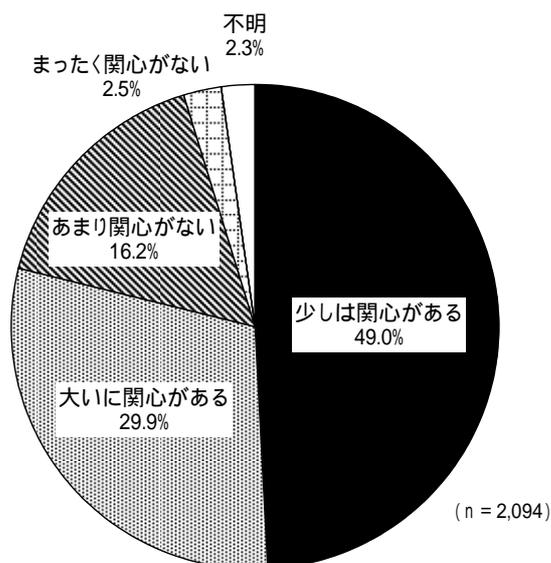
図表 4-1 尼崎市の業務・計画に対する関心



### 前回調査との比較

- ・ 前回調査と比べ、市政への関心はやや低くなっている（「大いに関心がある」「少しは関心がある」を合わせた割合が78.9%から70.9%に減少した）。

図表 4-2 【参考】前回調査の結果（平成11年）

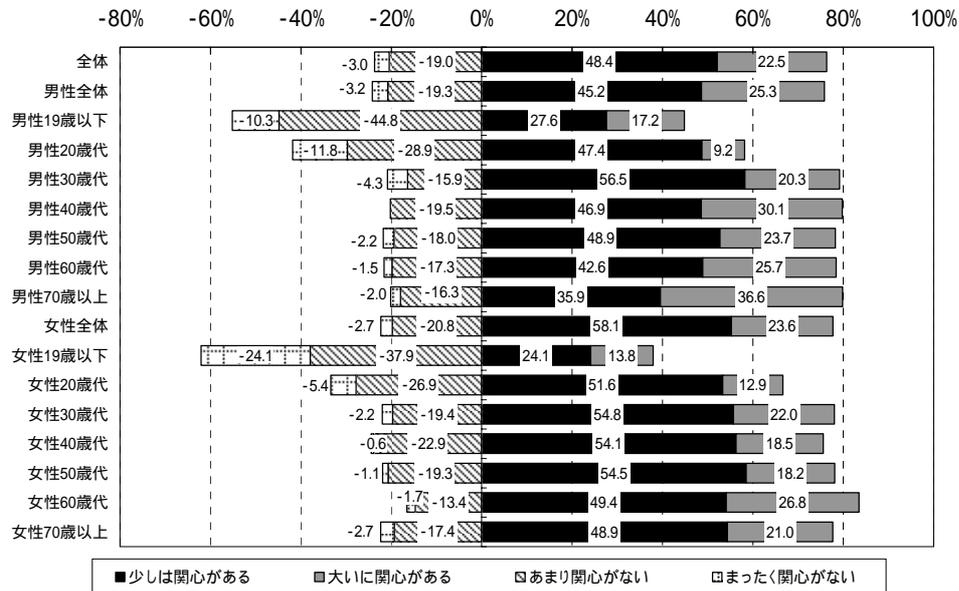


属性別傾向（尼崎市の業務・計画に対する関心）

（性・年齢別）

- ・「大いに関心がある」は男性 40 歳代・70 歳以上が多く、男女 19 歳以下・20 歳代が少ない。
- ・「少しは関心がある」は男性 30 歳代、女性 30～50 歳代が多く、男性 19 歳以下・60 歳代・70 歳以上、女性 19 歳以下が少ない。
- ・「まったく関心がない」は男性 19 歳以下・20 歳代、女性 19 歳以下が多い。
- ・「大いに関心がある」「少しは関心がある」を合わせた割合が最も大きいのは女性 60 歳代である。

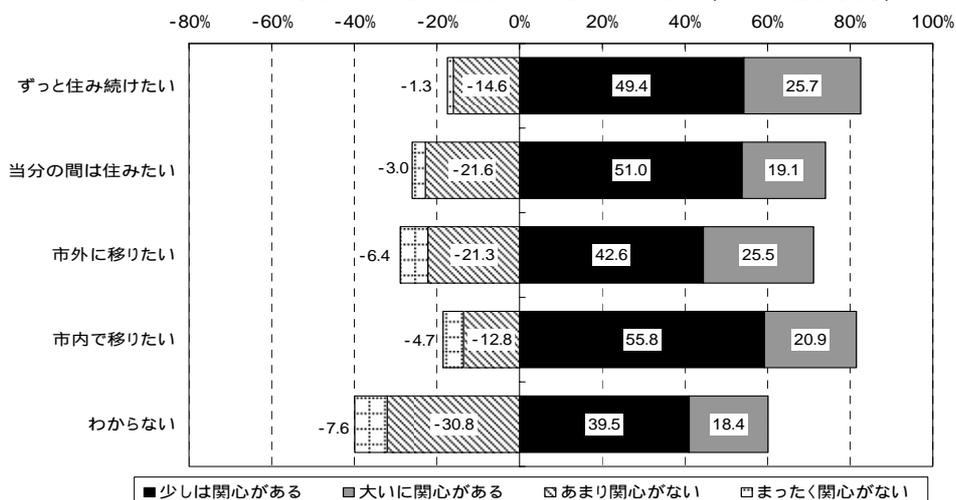
図表 4-3 尼崎市の業務・計画に対する関心(性・年齢別)



（居留意向別）

- ・「大いに関心がある」「少しは関心がある」を合わせた割合が 8 割を超えるのは「ずっと住み続けたい」「市内で移りたい」と考えている回答者である。
- ・「大いに関心がある」「少しは関心がある」を合わせた割合が最も小さいのは今後の居留意向については「わからない」と考えている回答者である。

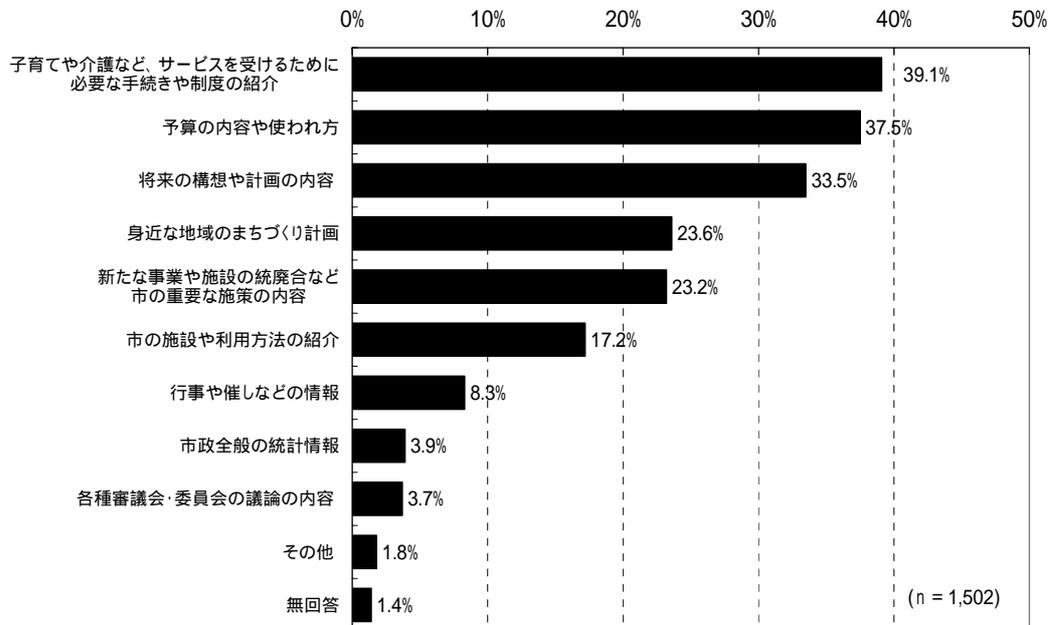
図表 4-4 尼崎市の業務・計画に対する関心(居留意向別)



## 市政に関心のある分野（問9、2つ以内で回答）

- ・ 市政に関心のある分野についてみると、「子育てや介護など、サービスを受けるために必要な手続きや制度の紹介」（39.1%）が最も多く、次いで「予算の内容や使われ方」（37.5%）、「将来の構想や計画の内容」（33.5%）が続く。

図表 4-5 市政に関心のある分野



(注)問8で「大いに関心がある」「少しは関心がある」のいずれかを答えた者のみ回答。

### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- ・ 「子育てや介護など、サービスを受けるために必要な手続きや制度の紹介」への関心は男性より女性が高い（男性全体：31.1%、女性全体：51.0%）。
- ・ 「予算の内容や使われ方」への関心は男性19歳以下・20・50歳代、女性19歳以下・20歳代が高く、女性30・60歳代が低い。
- ・ 「将来の構想や計画の内容」への関心は女性より男性が高い（男性全体：42.1%、女性全体：31.2%）。
- ・ 「予算の内容や使われ方」「将来の構想や計画の内容」への関心については、年齢が下がるほど高くなる傾向がある。

#### (居住地別)

- ・ 「子育てや介護など、サービスを受けるために必要な手続きや制度の紹介」への関心は武庫地区がやや高く、小田地区、大庄地区がやや低い。
- ・ 「予算の内容や使われ方」への関心は武庫地区が高く、園田地区が低い。
- ・ 「将来の構想や計画の内容」への関心は小田地区がやや高く、大庄地区がやや低い。
- ・ 「身近な地域のまちづくり計画」への関心は大庄地区、園田地区が高い。

(居住意向別)

- ・「予算の内容や使われ方」への関心は、全体と比べ、居住意向が「わからない」という回答者が高い。
- ・「身近な地域のまちづくり計画」への関心は、全体とくらべ、「市内で移りたい」と考えている回答者が低い。

(市政への関心別)

- ・市政に「大いに関心がある」と回答している者は「予算の内容や使われ方」「将来の構想や計画の内容」への関心が高く、「子育てや介護など、サービスを受けるために必要な手続きや制度の紹介」が低い。
- ・市政に「少しは関心がある」回答者は「子育てや介護など、サービスを受けるために必要な手続きや制度の紹介」への関心が高い。

図表 4-6 市政に関心のある分野(属性別)

(単位：%)

		子育てや介護など、 必要な手続きや制度 の紹介	予算の内容や使われ方	将来の構想や計画の内 容	身近な地域のまちづく り計画	新たな事業や施設の統 廃合など市の重要な施 策の内容	市の施設や利用方法の 紹介	行事や催しなどの情報	市政全般の統計情報	各種の審議会・委員会の 内容	その他	無回答	
全体		N = 1,502	39.1	37.5	33.5	23.6	23.2	17.2	8.3	3.9	3.7	1.8	1.4
男性・ 年齢別	男性全体	N = 599	31.1	40.4	42.1	24.4	25.5	14.2	7.7	4.5	4.8	2.2	0.5
	男性19歳以下	N = 13	7.7	46.2	61.5	23.1	7.7	15.4	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0
	男性20歳代	N = 43	32.6	51.2	48.8	18.6	18.6	11.6	9.3	7.0	0.0	2.3	0.0
	男性30歳代	N = 106	42.5	38.7	39.6	20.8	20.8	15.1	4.7	2.8	1.9	2.8	0.0
	男性40歳代	N = 87	33.3	41.4	50.6	21.8	25.3	12.6	6.9	3.4	5.7	4.6	0.0
	男性50歳代	N = 101	24.8	46.5	48.5	23.8	27.7	6.9	5.9	4.0	5.0	2.0	0.0
	男性60歳代	N = 138	31.2	33.3	39.1	29.0	30.4	13.0	12.3	4.3	5.8	0.7	0.0
男性70歳以上	N = 111	26.7	39.6	30.6	27.0	27.0	23.4	4.5	7.2	8.1	0.9	2.7	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 785	51.0	40.1	31.2	26.4	24.7	21.7	9.9	3.8	3.4	1.8	2.3
	女性19歳以下	N = 11	18.2	54.5	54.5	9.1	9.1	36.4	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 60	48.3	48.3	26.7	20.0	11.7	15.0	8.3	1.7	5.0	1.7	1.7
	女性30歳代	N = 143	59.4	30.8	30.1	27.3	14.7	18.2	11.9	0.7	1.4	1.4	0.7
	女性40歳代	N = 114	45.6	35.1	29.8	21.9	21.9	18.4	9.6	2.6	1.8	2.6	0.9
	女性50歳代	N = 128	44.5	35.2	29.7	21.9	21.9	21.1	8.6	4.7	2.3	2.3	0.0
	女性60歳代	N = 176	38.1	32.4	26.7	24.4	27.8	20.5	6.8	4.5	4.5	1.1	1.1
女性70歳以上	N = 153	42.5	35.9	21.6	20.9	20.3	19.0	10.5	2.6	2.0	0.7	5.9	
居住 地別	中央地区	N = 136	41.2	39.7	33.1	21.3	28.7	18.4	8.8	4.4	5.1	1.5	0.0
	小田地区	N = 234	35.5	38.0	36.8	20.9	26.9	17.9	9.0	2.6	4.3	1.7	2.1
	大庄地区	N = 164	35.4	40.2	30.5	29.9	18.3	17.7	8.5	3.0	3.7	2.4	0.6
	立花地区	N = 351	39.6	35.0	31.1	19.7	24.8	18.8	8.5	4.6	4.0	1.4	2.3
	武庫地区	N = 232	43.1	44.0	34.5	20.7	17.2	16.4	7.3	3.4	4.3	0.9	0.9
	園田地区	N = 308	40.3	30.5	35.4	31.2	22.7	15.3	7.5	3.9	2.3	2.6	1.6
市政への 関心別	大いに関心がある	N = 477	30.4	43.2	43.8	26.0	24.9	13.2	4.2	5.2	5.9	3.6	0.6
	少しは関心がある	N = 1,025	43.2	34.8	28.7	22.4	22.3	19.1	10.2	3.2	2.7	1.0	1.8
居住 意向別	ずっと住み続けた	N = 634	37.4	35.6	31.2	23.0	26.0	15.5	8.8	3.9	3.5	0.9	1.9
	当分の間は住み	N = 441	39.2	35.4	37.4	23.4	23.1	17.0	6.8	3.4	2.5	1.6	0.7
	市外に移りたい	N = 128	38.3	38.3	38.3	22.7	18.8	17.2	7.0	3.9	3.9	3.1	0.0
	市内で移りたい	N = 66	37.9	39.4	34.8	16.7	21.2	19.7	4.5	4.5	4.5	3.0	1.5
	わからない	N = 107	40.2	47.7	31.8	23.4	18.7	13.1	9.3	1.9	4.7	0.9	0.0

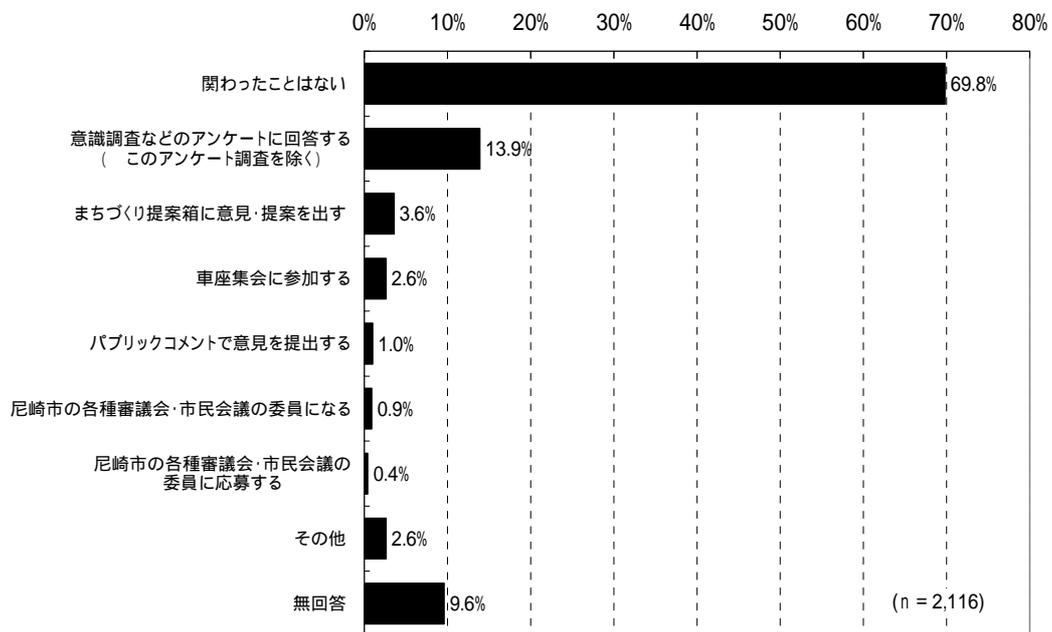
(注1) 問8で「大いに関心がある」「少しは関心がある」のいずれかを答えた者のみ回答。

(注2) 全体の割合を5%以上上回る値を白抜き、5%以下下回る値を斜体字で表している。

## 市政との関わり（問 10・複数回答）

- ・ 市政との関わりについてみると、「関わったことはない」(69.8%)が最も多く、「意識調査などのアンケートに回答する」(13.9%)が次に多い。
- ・ 「まちづくり提案箱に意見・提案を出す」(3.6%)、「車座集會に参加する」(2.6%)、「パブリックコメントで意見を出す」(1.0%)、「尼崎市の各種審議会の委員に応募する」(0.4%)のように、自主的に参加する形の関わり方は少ない。

図表 4-7 市政との関わり



属性別傾向（市政との関わり）

（性・年齢別）

- ・ 男女ともに年齢が上がるにつれて市政と何らかの関わりを持つことが多い傾向がある。

（居住地別）

- ・ 「関わったことはない」は小田地区が少ない。
- ・ 「意識調査などのアンケートに回答する」は中央地区が多い。

（市政への関心別）

- ・ 市政への関心が高いほど市政と何らかの関わりを持つことが多い傾向がある。

図表 4-8 市政との関わり(属性別)

(単位：%)

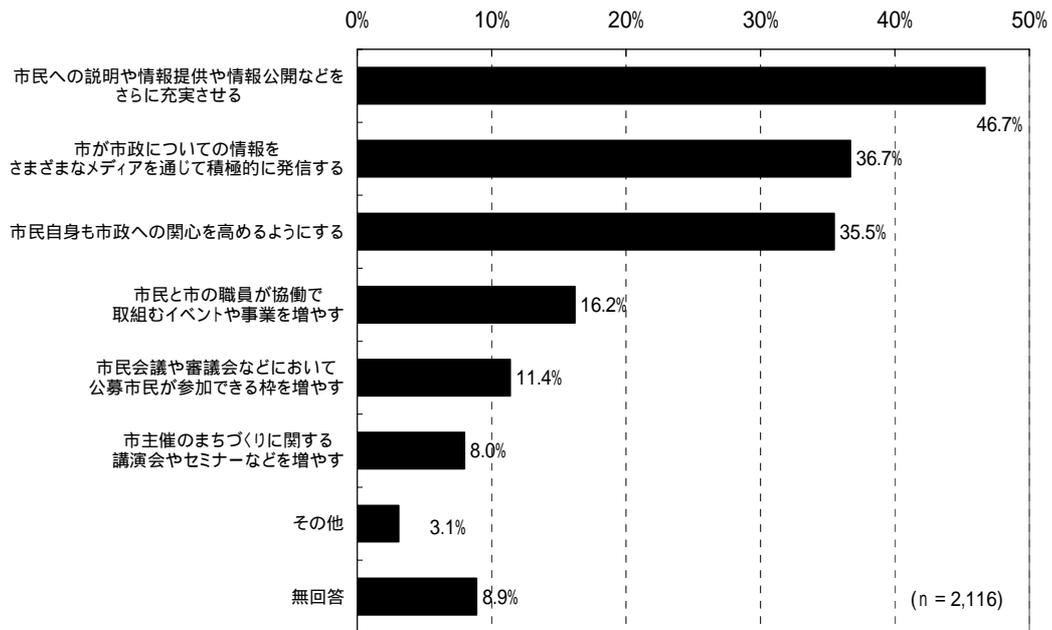
		関わったことはない	このアンケートに回答する(除く)	意識調査などのアンケートに回答する	まちづくり提案箱に意見・提案を出す	車座集会に参加する	パブリックコメントで意見を提出する	市議員の各種審議会・市民会議の委員になる	尼崎市の各種審議会・市民会議の委員に応募する	その他	無回答
全体		N = 2,116	69.8	13.9	3.6	2.6	1	0.9	0.4	2.6	9.6
男性・年齢別	男性全体	N = 850	72.8	12.8	4.4	3.3	1.8	1.3	0.4	2.4	6.5
	男性19歳以下	N = 29	<b>93.1</b>	<i>0.0</i>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	0.0
	男性20歳代	N = 76	<b>86.8</b>	<i>7.9</i>	3.9	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	2.6
	男性30歳代	N = 138	<b>87.0</b>	<i>5.8</i>	1.4	1.4	1.4	0.7	0.0	1.4	2.2
	男性40歳代	N = 113	<b>81.4</b>	<i>7.1</i>	3.5	2.7	1.8	2.7	0.0	2.7	3.5
	男性50歳代	N = 139	68.3	18.7	5.8	2.2	4.3	0.0	0.0	2.9	4.3
	男性60歳代	N = 202	66.3	16.3	5.0	4.5	0.0	1.5	1.0	3.0	8.9
男性70歳以上	N = 153	<i>55.6</i>	18.3	6.5	7.2	2.6	2.0	0.7	2.0	14.4	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	70.2	14.8	3.0	1.7	0.5	0.6	0.3	2.2	10.0
	女性19歳以下	N = 29	<b>82.8</b>	10.3	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9
	女性20歳代	N = 93	<b>89.2</b>	<i>5.4</i>	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	3.2
	女性30歳代	N = 186	<b>80.6</b>	12.4	2.2	1.1	0.0	0.0	0.0	1.6	3.2
	女性40歳代	N = 157	<b>77.7</b>	<i>8.3</i>	3.2	0.6	0.0	0.6	0.0	3.8	7.6
	女性50歳代	N = 176	70.5	15.9	2.8	1.7	1.1	0.0	0.0	2.8	8.0
	女性60歳代	N = 231	<i>64.5</i>	<b>19.9</b>	2.2	2.2	0.9	0.9	0.0	2.2	11.3
女性70歳以上	N = 219	<i>52.1</i>	<b>19.6</b>	5.0	3.7	0.9	1.8	1.4	1.8	21.0	
居住地別	中央地区	N = 200	66.5	<b>19.5</b>	5.0	1.5	1.0	2.0	0.5	2.0	8.5
	小田地区	N = 327	<i>63.9</i>	13.5	6.7	2.4	0.3	0.9	0.0	2.4	14.4
	大庄地区	N = 231	72.7	16.0	2.2	1.7	0.4	0.9	0.0	2.2	6.9
	立花地区	N = 472	72.9	13.1	2.1	2.5	0.8	0.8	0.2	3.8	7.0
	武庫地区	N = 339	71.7	13.3	3.5	1.8	1.5	0.9	0.9	1.5	9.4
	園田地区	N = 424	70.3	13.2	3.1	4.2	1.7	0.5	0.5	2.6	9.4
市政への関心別	大いに関心がある	N = 477	<i>58.5</i>	<b>21.6</b>	7.1	5.2	2.5	2.5	1.0	5.2	6.5
	少しは関心がある	N = 1025	73.8	14.2	3.0	2.1	0.7	0.3	0.1	2.2	6.5
	あまり関心がない	N = 402	<b>81.1</b>	<i>7.0</i>	1.5	0.2	0.5	0.5	0.0	1.5	9.2
	まったく関心がない	N = 63	<b>82.5</b>	<i>4.8</i>	1.6	3.2	1.6	1.6	1.6	0.0	11.1

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を*斜体字*で表している。

## 市政への参加促進について（問 11、2つ以内で回答）

- ・ 市政参加を進める上で大切だと思うことは、「市民への説明や情報提供や情報公開などをさらに充実させる」(46.7%)が最も多く、「市が市政についての情報をさまざまなメディアを通じて積極的に発信する」(36.7%)が次に多い。

図表 4-9 市民参加を進める上で大切だと思うこと



## 属性別傾向（市政への参加促進について）

### （性・年齢別）

- ・「市民への説明や情報提供や情報公開などをさらに充実させる」は男性 20・40 歳代、女性 30～40 歳代が多く、男性 70 歳以上、女性 19 歳以下・70 歳以上が少ない。
- ・「市が市政についての情報をさまざまなメディアを通じて積極的に発進する」は男性 50 歳代、女性 40 歳代が多く、男性 19 歳以下が少ない。
- ・「市民自身も市政への関心を高めるようにする」は男性 70 歳以上、女性 19 歳以下が多い。

### （居住地別）

- ・居住地による差は大きくないが、「市民自身も市政への関心を高めるようにする」については中央地区が多い。

図表 4-10 市民参加を進める上で大切だと思うこと(属性別)

(単位：%)

		ら供市 にや民 充情へ 実報の させ公説 せる開明 なや情 を報 さ提	信ア報市 すをが るを通さ してま 積まじ 極ない 的にメ 発イ情	心市 を民 高自 め身 るも よ市 う政 にへ する関	業で市 を取民 増組と やすむ市 すイの ベ職 ン員 トが や協 事働	加に市 で市民 おの議 けるて 枠を公 増募や やす民 が参	ナ関市 する主 ！の催 な講の を演ま を増ち やすや すセ ミ	その他	無 回 答	
全体	N = 2,116	46.7	36.7	35.5	16.2	11.4	8.0	3.1	8.9	
男性・ 年齢別	男性全体	N = 850	47.5	36.9	34.7	16.7	13.1	9.1	4.4	6.8
	男性19歳以下	N = 29	48.3	31.0	31.0	<b>27.6</b>	10.3	6.9	6.9	0.0
	男性20歳代	N = 76	<b>53.9</b>	40.8	23.7	17.1	11.8	3.9	2.6	7.9
	男性30歳代	N = 138	48.6	32.6	32.6	<b>22.5</b>	15.2	4.3	6.5	3.6
	男性40歳代	N = 113	<b>54.9</b>	35.4	34.5	15.0	11.5	8.8	<b>9.7</b>	1.8
	男性50歳代	N = 139	48.2	<b>43.2</b>	30.9	18.7	<b>16.5</b>	10.1	3.6	2.2
	男性60歳代	N = 202	45.5	35.1	38.6	15.8	11.4	<b>13.9</b>	3.0	10.4
	男性70歳以上	N = 153	39.9	37.9	<b>41.2</b>	9.8	12.4	9.2	1.3	13.7
女性・ 年齢別	女性全体	N = 1,091	<b>52.7</b>	41.4	37.3	17.6	11.7	8.4	2.3	11.4
	女性19歳以下	N = 29	34.5	37.9	<b>51.7</b>	<b>31.0</b>	6.9	0.0	3.4	3.4
	女性20歳代	N = 93	51.6	35.5	37.6	<b>29.0</b>	4.3	3.2	2.2	6.5
	女性30歳代	N = 186	<b>55.4</b>	37.1	32.3	<b>23.1</b>	9.7	4.8	3.8	4.3
	女性40歳代	N = 157	<b>52.9</b>	<b>45.2</b>	31.8	12.1	14.0	4.5	3.2	3.2
	女性50歳代	N = 176	47.7	40.3	38.6	16.5	14.2	8.5	1.7	5.7
	女性60歳代	N = 231	49.8	37.7	38.5	9.5	9.1	10.0	1.3	8.2
	女性70歳以上	N = 219	30.1	35.6	37.0	9.1	9.6	10.5	0.9	23.3
居住地別	中央地区	N = 200	48.0	36.0	<b>41.0</b>	14.0	11.5	6.5	3.5	8.5
	小田地区	N = 327	46.8	37.3	34.3	12.8	9.5	9.2	4.9	12.5
	大庄地区	N = 231	43.7	34.2	37.2	17.7	12.6	10.4	1.7	9.1
	立花地区	N = 472	44.5	38.3	35.0	17.2	11.7	8.3	1.5	8.3
	武庫地区	N = 339	48.1	40.1	36.9	17.7	10.3	7.7	2.7	5.9
	園田地区	N = 424	50.5	35.6	33.7	16.7	12.5	5.7	4.5	7.8

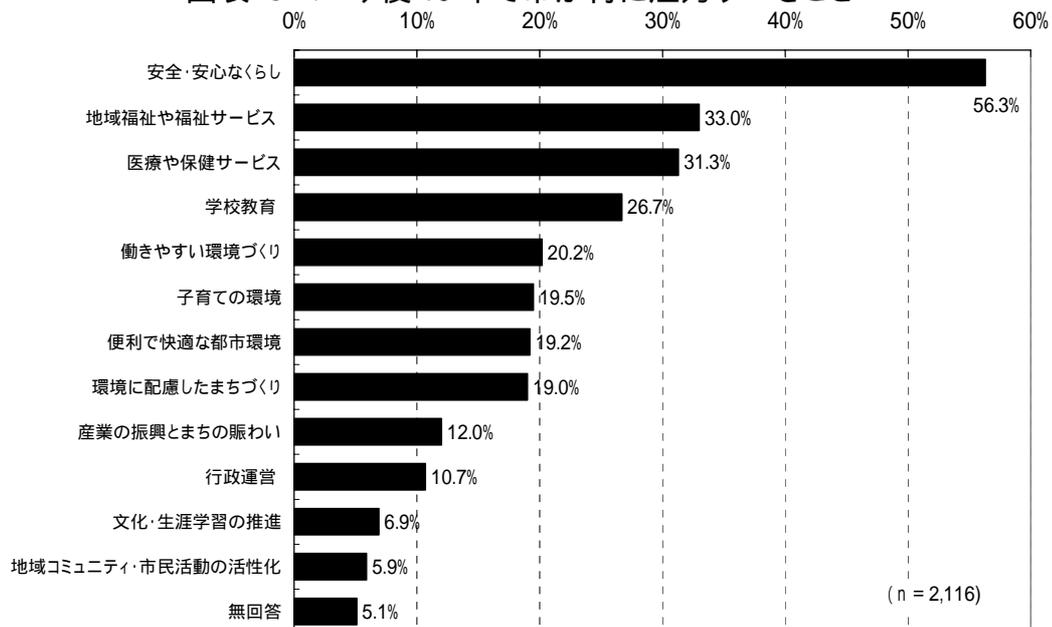
(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 5. 今後のまちづくりのあり方

### 尼崎市が注力すべき分野（問 12、3つ以内で回答）

- ・ 今後 10 年程度の間、市が特に力を入れるべきだと思うことは、「安全・安心なくらし」(56.3%) が最も多く、「地域福祉や福祉サービス」(33.0%) が次に多い。

図表 5-1 今後 10 年で市が特に注力すべきこと



#### 属性別傾向

##### (性・年齢別)

- ・ 「安全・安心なくらし」は男性 30 歳代、女性 19 歳以下が多く、男性 19 歳以下、女性 40 歳代が少ない。
- ・ 「地域福祉や福祉サービス」は男女ともに年齢が上がるにつれて多くなる。
- ・ 「医療や保健サービス」は男性 70 歳以上、女性 19 歳以下が多く、男性 19 歳以下、女性 20 歳代が少ない。
- ・ 「学校教育」は男女 19 歳以下・30・40 歳代が多く、男女とも 50 歳代以降は少ない傾向がある。
- ・ 「産業の振興とまちの賑わい」は男性 40・50 歳代が多い。

##### (居住地別)

- ・ 「安全・安心なくらし」は大庄地区が多い。
- ・ 「地域福祉や福祉サービス」は小田地区、大庄地区がやや多い。
- ・ 「医療や保健サービス」は小田地区が多い。
- ・ 「学校教育」は小田地区が少ない。
- ・ 「産業の振興とまちの賑わい」は中央地区が多い。

(家族構成別)

- ・「安全・安心な暮らし」はひとり暮らしが多い。
- ・「地域福祉や福祉サービス」は夫婦ふたりが多く、夫婦と子どもが少ない。
- ・「医療や保健サービス」はひとり親と子どもが多い。
- ・「学校教育」は夫婦と子ども、三世同居が多く、ひとり暮らし、夫婦ふたりが少ない。

(通勤・通学地別)

- ・「安全・安心な暮らし」は神戸市内が多い。
- ・「地域福祉や福祉サービス」は大阪市内、神戸市内が少ない。
- ・「医療や保健サービス」は神戸市が多い。
- ・「働きやすい環境づくり」は尼崎市内が多い。

図表 5-2 今後 10 年で市が特に注力すべきこと(属性別)

(単位：%)

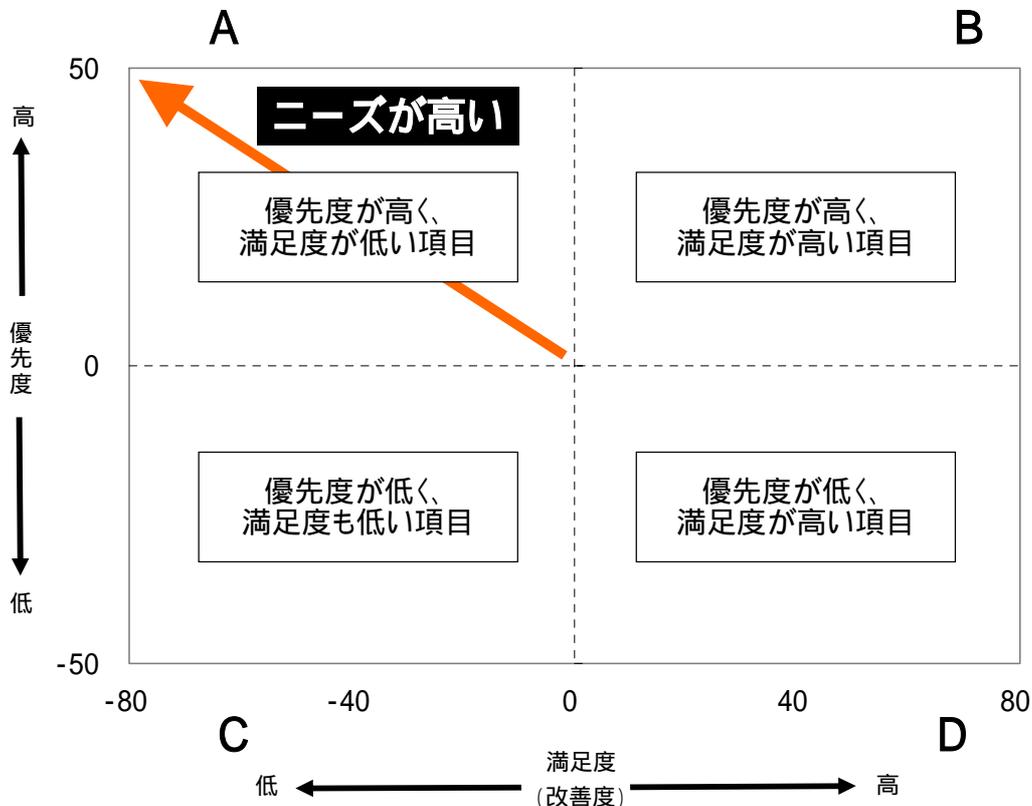
		安全・安心な暮らし	地域福祉や福祉サービス	医療や保健サービス	学校教育	働きやすい環境づくり	子育ての環境	便利で快適な都市環境	環境に配慮したまちづくり	産業の振興とまちの賑わい	行政運営	文化・生涯学習の推進	地域活動の活性化	無回答	
全体		N = 2,116	56.3	33.0	31.3	26.7	20.2	19.5	19.2	19.0	12.0	10.7	6.9	5.9	5.1
男性・年齢別	男性全体	N = 850	56.7	32.0	31.2	28.1	20.0	19.1	20.7	19.2	14.5	10.8	6.5	6.4	4.5
	男性19歳以下	N = 29	41.4	17.2	20.7	<b>41.4</b>	<b>41.4</b>	17.2	17.2	<b>37.9</b>	3.4	6.9	3.4	6.9	6.9
	男性20歳代	N = 76	59.2	18.4	26.3	25.0	<b>30.3</b>	<b>38.2</b>	18.4	21.1	10.5	5.3	3.9	5.3	5.3
	男性30歳代	N = 138	<b>62.3</b>	19.6	31.2	<b>41.3</b>	15.9	<b>37.7</b>	22.5	16.7	8.0	10.1	4.3	4.3	2.2
	男性40歳代	N = 113	56.6	19.5	27.4	<b>45.1</b>	<b>28.3</b>	22.1	14.2	18.6	<b>18.6</b>	7.1	4.4	6.2	2.7
	男性50歳代	N = 139	59.7	35.3	29.5	27.3	23.0	<b>10.1</b>	20.9	<b>13.7</b>	<b>22.3</b>	12.9	10.8	8.6	3.6
	男性60歳代	N = 202	51.5	<b>42.6</b>	31.7	19.8	16.8	15.3	23.3	18.8	15.8	13.9	8.4	5.4	4.5
男性70歳以上	N = 153	57.5	<b>45.1</b>	<b>39.2</b>	14.4	<b>9.8</b>	<b>3.9</b>	22.2	22.9	12.4	11.8	5.2	7.8	7.8	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	<b>63.2</b>	<b>38.9</b>	35.3	28.7	23.0	22.2	20.6	21.2	11.8	12.2	8.2	6.3	6.2
	女性19歳以下	N = 29	<b>65.5</b>	<b>10.3</b>	<b>44.8</b>	<b>41.4</b>	24.1	<b>27.6</b>	<b>20.7</b>	<b>27.6</b>	3.4	<b>3.4</b>	<b>0.0</b>	3.4	3.4
	女性20歳代	N = 93	57.0	20.4	24.7	26.9	21.5	<b>38.7</b>	<b>25.8</b>	21.5	9.7	7.5	5.4	2.2	4.3
	女性30歳代	N = 186	53.8	22.0	34.4	<b>37.6</b>	15.1	<b>43.0</b>	17.7	18.3	11.3	10.8	4.8	5.4	1.6
	女性40歳代	N = 157	50.3	30.6	31.2	<b>38.2</b>	23.6	19.1	15.3	15.9	10.8	9.6	10.2	2.5	5.1
	女性50歳代	N = 176	58.5	37.5	30.1	19.9	23.9	<b>12.5</b>	17.0	16.5	12.5	10.8	9.1	9.1	2.8
	女性60歳代	N = 231	56.3	37.2	31.2	19.0	<b>25.5</b>	14.7	19.0	21.2	11.7	12.1	8.2	6.1	2.6
女性70歳以上	N = 219	58.9	<b>48.4</b>	35.6	15.5	16.0	<b>7.8</b>	17.8	19.2	8.7	11.4	4.1	4.1	9.6	
居住地別	中央地区	N = 200	58.5	28.0	27.0	30.0	24.5	19.0	18.5	21.0	<b>18.5</b>	8.0	4.0	6.0	6.0
	小田地区	N = 327	54.7	36.7	<b>36.7</b>	20.5	22.3	18.3	20.2	17.7	11.9	10.7	6.1	6.7	6.1
	大庄地区	N = 231	<b>63.2</b>	36.4	26.4	25.5	19.0	18.2	23.8	23.8	8.7	10.0	4.3	2.6	3.9
	立花地区	N = 472	55.1	32.2	29.7	28.8	20.6	20.1	17.6	16.5	12.7	11.7	8.3	7.2	4.7
	武庫地区	N = 339	52.5	33.0	33.3	28.9	17.4	19.2	20.9	18.6	10.9	12.4	8.6	5.6	5.0
	園田地区	N = 424	58.5	30.7	32.8	28.1	18.6	22.4	16.7	18.9	11.3	9.7	6.4	6.4	3.8
家族構成別	ひとり暮らし	N = 236	<b>62.7</b>	34.3	28.8	14.8	17.8	11.0	22.5	19.9	13.6	10.2	4.7	5.1	8.1
	夫婦ふたり	N = 519	58.8	<b>39.5</b>	35.8	18.5	12.9	15.4	21.8	22.0	12.3	11.2	7.7	5.8	4.4
	夫婦と子ども	N = 763	54.0	27.9	29.1	<b>36.4</b>	22.5	<b>26.6</b>	18.3	17.0	11.3	8.0	7.2	5.6	3.9
	ひとり親と子ども	N = 150	58.7	32.7	<b>37.3</b>	24.0	<b>32.7</b>	<b>13.3</b>	14.0	17.3	12.0	<b>16.0</b>	6.0	<b>11.3</b>	3.3
	三世同居	N = 132	51.5	31.8	29.5	<b>44.7</b>	24.2	<b>25.8</b>	13.6	14.4	9.8	12.9	7.6	4.5	1.5
	その他	N = 213	56.8	37.1	30.5	18.8	23.5	15.5	20.2	22.5	13.1	14.1	6.6	4.7	4.7
通勤・通学地別	尼崎市内	N = 566	56.2	28.8	29.2	30.9	<b>26.7</b>	20.0	18.0	19.4	15.4	8.7	6.5	5.8	3.5
	大阪市内	N = 283	58.3	27.2	32.2	26.1	15.9	23.3	21.6	19.4	13.4	11.3	9.5	5.7	6.7
	神戸市内	N = 65	<b>61.5</b>	18.5	<b>36.9</b>	29.2	23.1	<b>13.8</b>	20.0	21.5	12.3	15.4	4.6	9.2	1.5
	その他の地域	N = 237	59.1	30.4	35.4	31.2	19.8	<b>28.3</b>	21.1	<b>13.9</b>	10.1	10.1	7.2	5.5	2.5
	勤務・通学していない	N = 525	53.3	37.5	30.3	25.9	20.0	21.0	17.3	21.0	11.8	11.8	5.9	5.9	4.8

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜き**、5%以上下回る値を**斜体**で表している。

## 市に対する評価の分析

### 分析方法

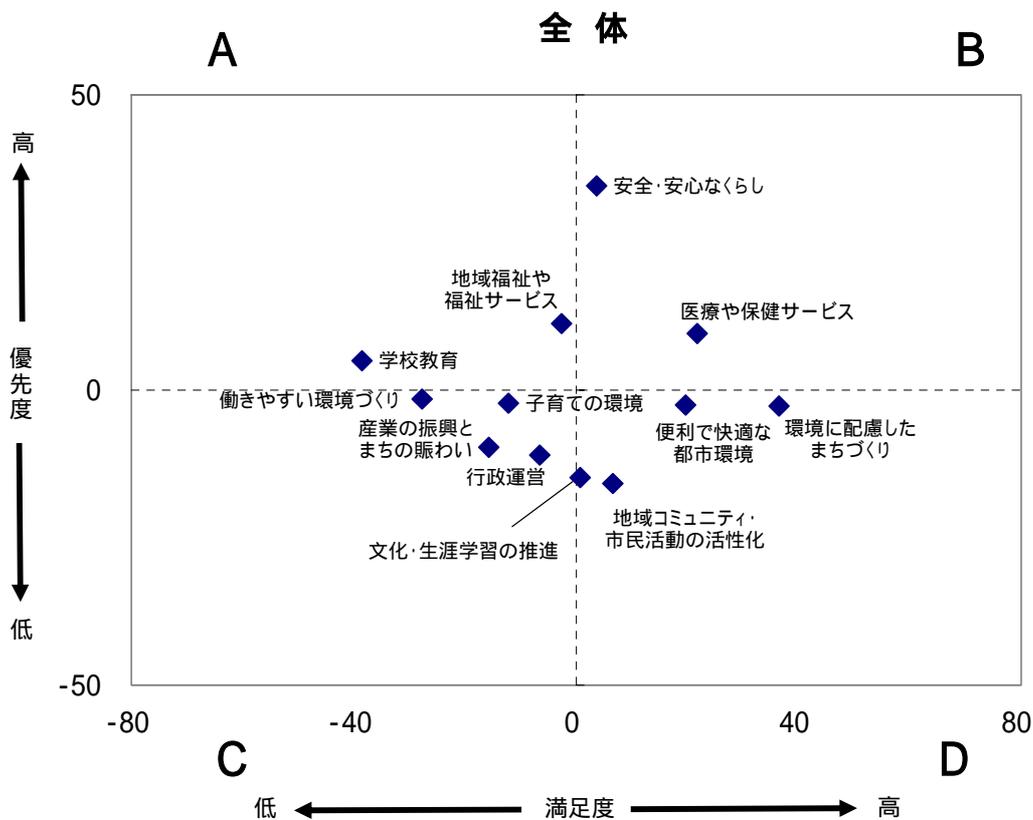
- ・ 優先度を満足度(改善度)と掛け合わせて図表化し、市民ニーズを視覚的に捉える。
- ・ 優先度は、5.(1)の各項目についての回答割合の平均値とその回答割合の差とした。
- ・ 満足度は、3.(1)の回答「満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満足」「不満足」をそれぞれ2、1、-1、-2点、それ以外は0点として算出した。
- ・ 改善度は、3.(2)の回答「どちらかといえばよかった」の割合から「どちらかといえば悪くなった」の割合を減じて算出した。
- ・ 領域についてはそれぞれ
  - A：優先度が高く満足度が低い
  - B：優先度が高く満足度が高い
  - C：優先度が低く満足度が低い
  - D：優先度が低く満足度が高い を表している。
- ・ 領域Aに当たる項目は、市民が重要視しているにもかかわらず満足度(改善度)が低い項目であり、今後、重点的な取組について検討していくことが求められる分野といえる。



### 優先度（注力すべき分野）と現状の満足度

- ・ 優先度が高く、満足度が低い項目は「地域福祉や福祉サービス」「学校教育」である。
- ・ 優先度が低く、満足度が高い項目は「環境に配慮したまちづくり」「便利で快適な都市環境」「地域コミュニティ・市民活動の活性化」「文化・生涯学習の推進」である。

図表 5-3 優先度と満足度(現状評価)の関係



今後、市が力を入れるべき分野における各項目の回答割合の平均値(=21.725%)を算出。この値を0として、各項目の回答割合との差を縦軸に記載した。**具体的には、安全・安心な暮らしでは、56.3% - 21.725% = 34.6のように算出。**  
 満足度は、「尼崎市の取組に対する評価」において、「満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満足」「不満足」の回答割合にそれぞれ2、1、-1、-2点、それ以外に0点を乗じて合算したもの。**具体的には、安心・安全な暮らし (5.0%×2) + (35.7%×1) + {21.6%×(-1)} + {10.2%×(-2)} + (14.8%×0) + (12.7%×0) = 3.7のように算出。**

属性別傾向（優先度（注力すべき分野）と現状の満足度）

（性・年齢別）

- ・ 男女ともに 20～30 歳代では「子育ての環境」、「安全・安心な暮らし」の優先度が高く、満足度が低い。
- ・ 男女ともに 50 歳代以下では「学校教育」の優先度が高く、満足度が低い傾向。
- ・ 男性 50 歳代以下、女性 60 歳代以下では、30 歳代を除いて「働きやすい環境づくり」の優先度が高く、満足度が低い傾向。
- ・ 男性 50～60 歳代、女性 30～60 歳代では「地域福祉や福祉サービス」の優先度が高く、満足度が低い。
- ・ 他の年齢、性別と比較して、男性 30 歳代では「医療や保健サービス」の満足度が低く、男性 50 歳代では「産業の振興とまちの賑わい」の優先度が高い。

< 優先度が高く、満足度が低いと考えられている分野について >

	男 性	女 性
19 歳以下	学校教育 働きやすい環境づくり	学校教育 働きやすい環境づくり（30 歳代除く） 安全・安心な暮らし 子育ての環境
20 歳代	学校教育 働きやすい環境づくり（30 歳代除く） 安全・安心な暮らし 子育ての環境	
30 歳代		学校教育 働きやすい環境づくり 安全・安心な暮らし 子育ての環境
40 歳代	学校教育 働きやすい環境づくり 安全・安心な暮らし 子育ての環境	学校教育 働きやすい環境づくり 安全・安心な暮らし 地域福祉や福祉サービス
50 歳代	学校教育 働きやすい環境づくり 地域福祉や福祉サービス	働きやすい環境づくり 地域福祉や福祉サービス
60 歳代	地域福祉や福祉サービス	
70 歳以上		

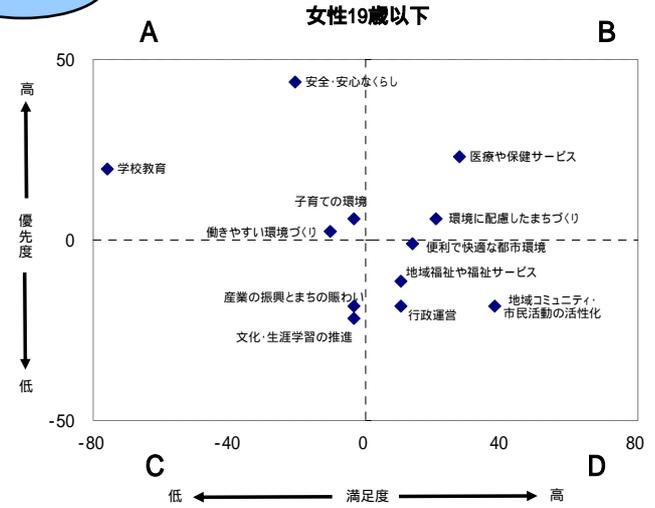
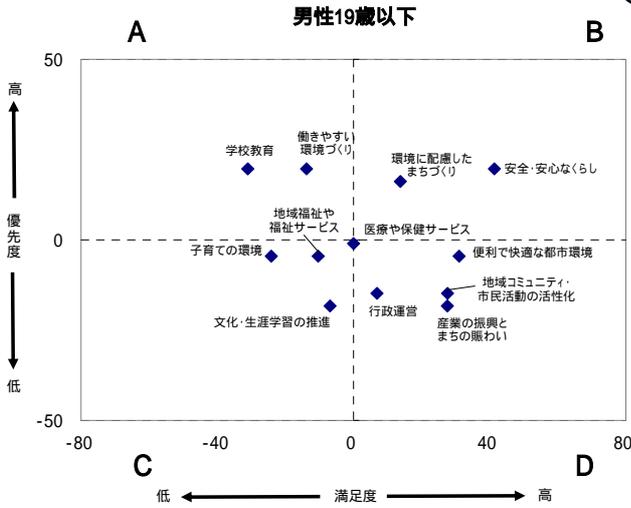
	男性										女性										合計									
	安全・安心な暮らし	医療や保健サービス	地域福祉や福祉サービス	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	安全・安心な暮らし	医療や保健サービス	地域福祉や福祉サービス	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	安全・安心な暮らし	医療や保健サービス	地域福祉や福祉サービス	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営			
19歳以下																														
20歳代																														
30歳代																														
40歳代																														
50歳代																														
60歳代																														
70歳以上																														

（注）「 」は領域 A に該当する項目、合計欄では男女ともに が表示されているものを「 」とし、どちらか一方が「 」の場合には、「 」とした。

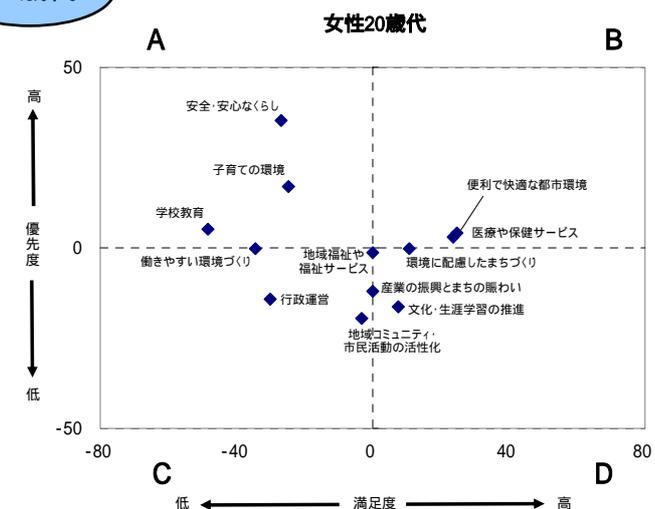
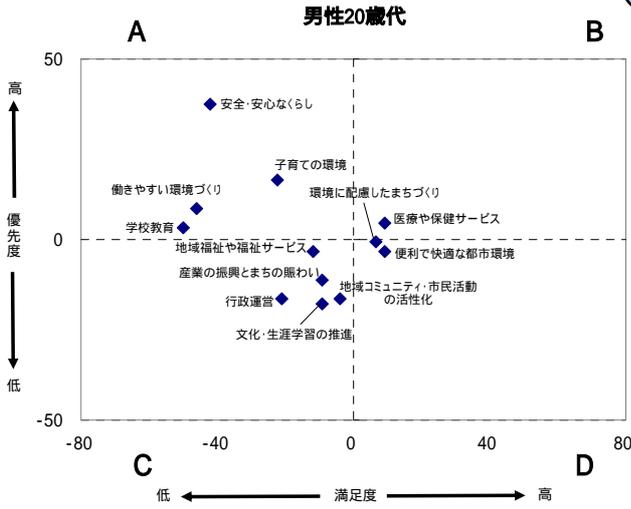
【男性】

【女性】

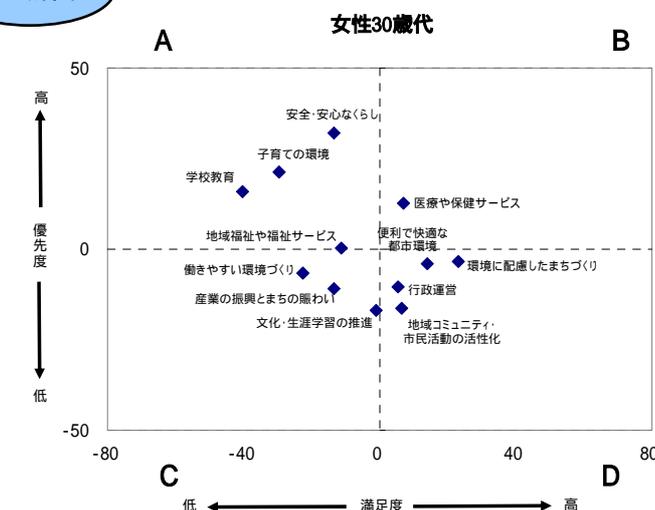
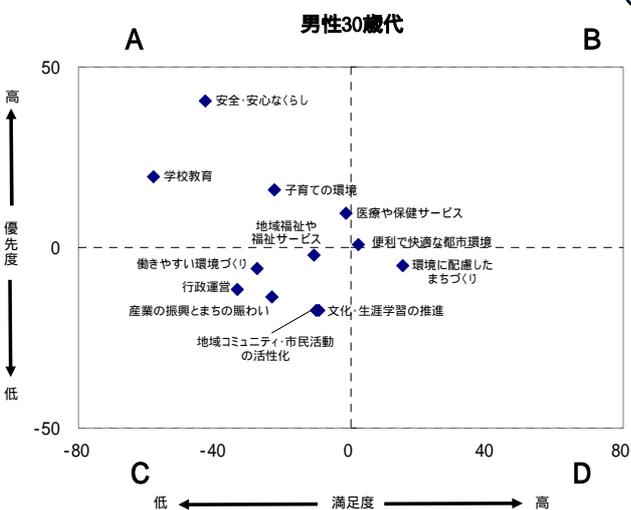
19歳以下



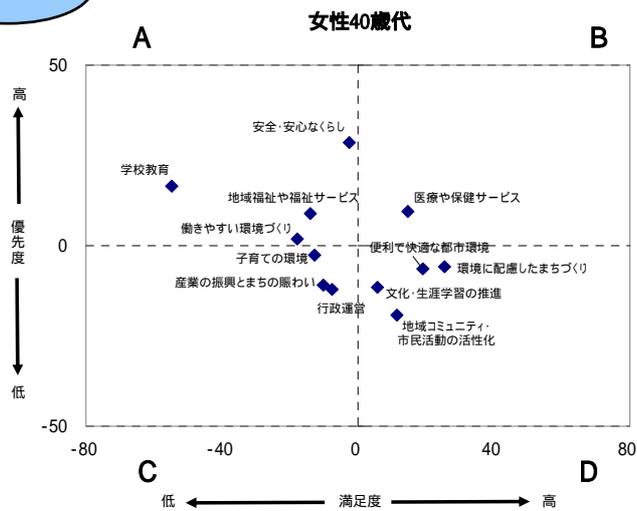
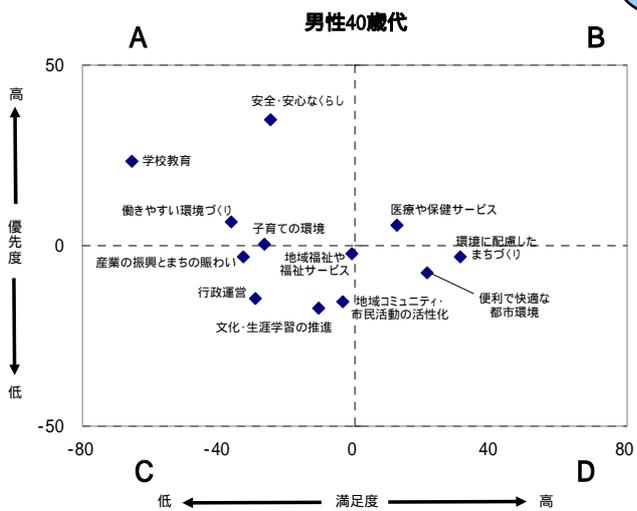
20歳代



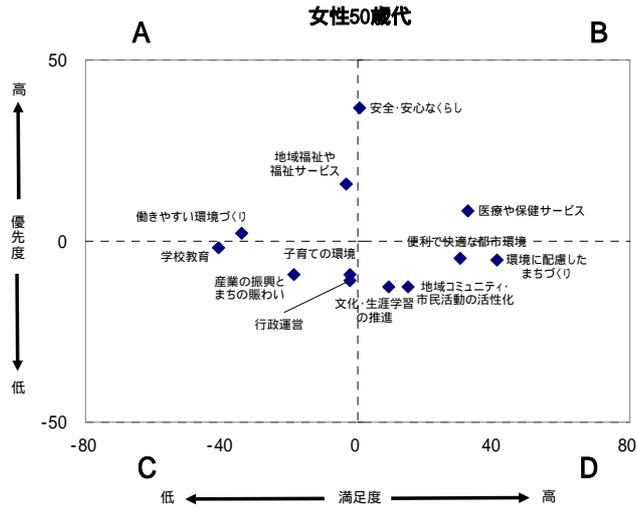
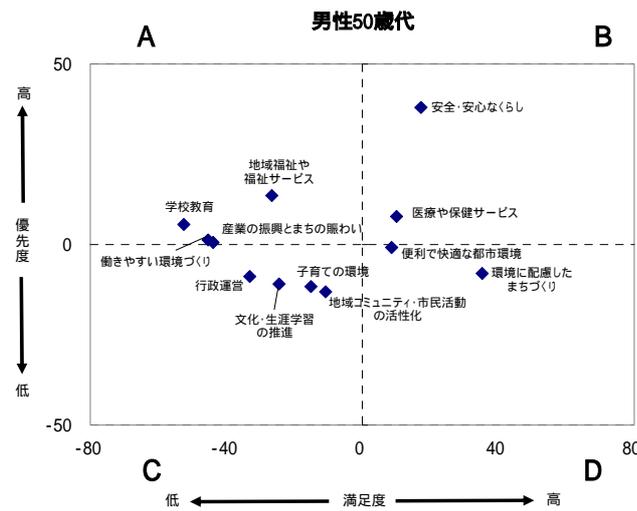
30歳代



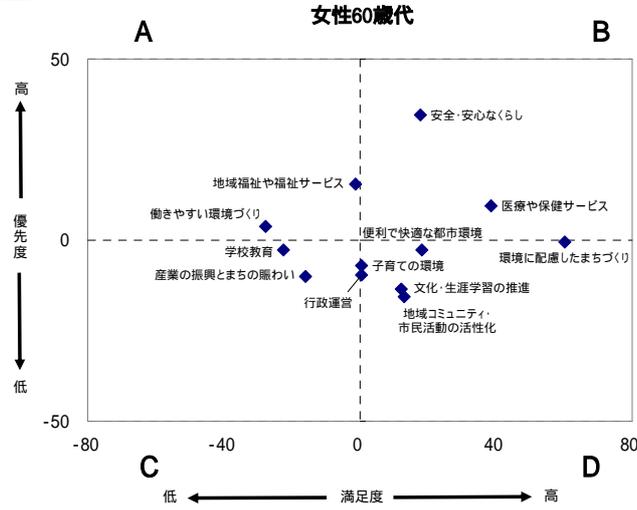
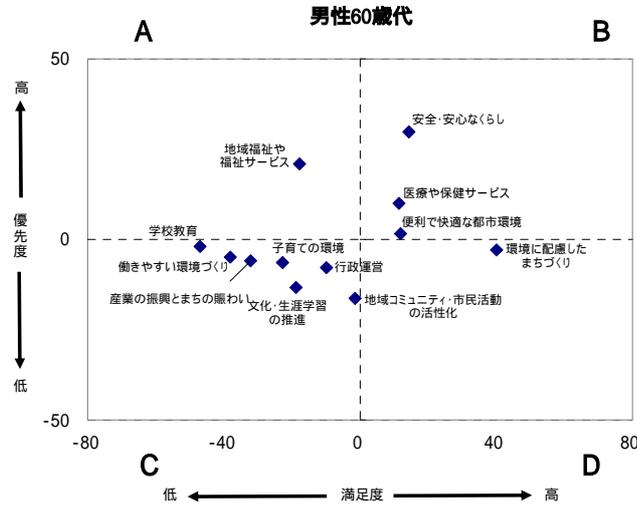
40 歳代



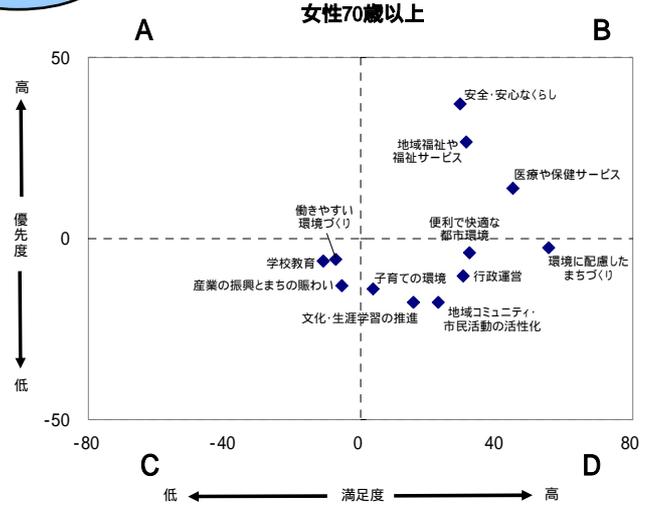
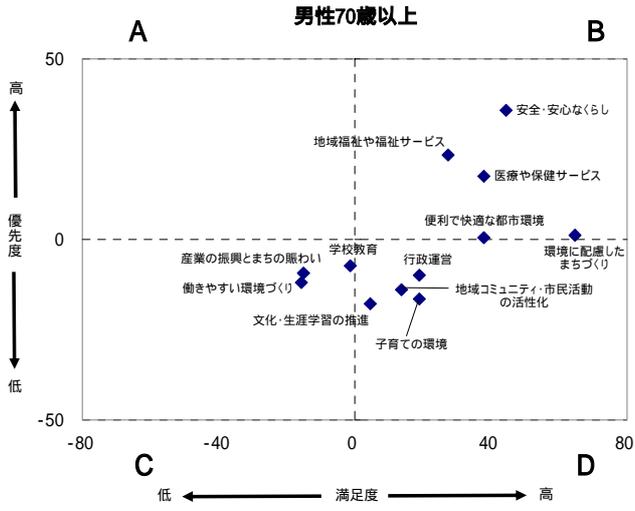
50 歳代



60 歳代



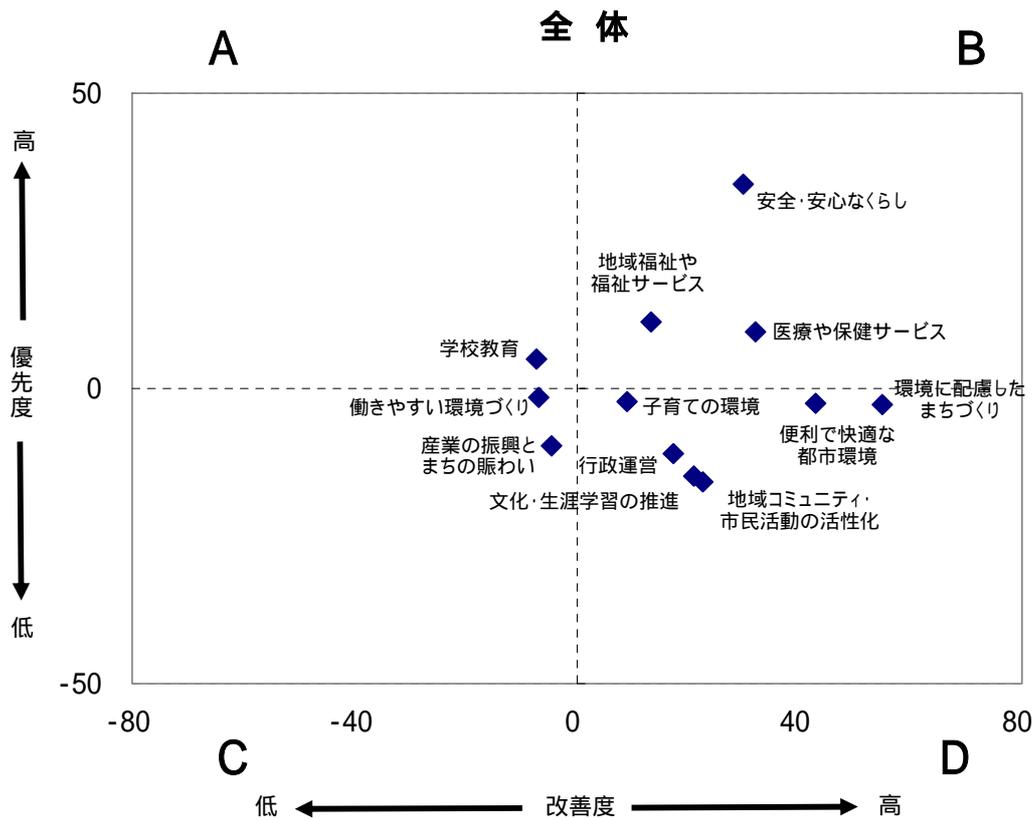
70歳以上



優先度（注力すべき分野）と10年前からの改善度

- ・ 優先度が高く、改善度が低い項目は「学校教育」である。
- ・ 優先度が低く、改善度が高い項目は「子育ての環境」「環境に配慮したまちづくり」「便利で快適な都市環境」「地域コミュニティ・市民活動の活性化」「文化・生涯学習の推進」「行政運営」である。

図表 5-4 優先度と改善度(10年前との比較評価)の関係



今後、市が力を入れるべき分野における各項目の回答割合の平均値(=21.725%)を算出。この値を0として、各項目の回答割合との差を縦軸に記載した。**具体的には、安全・安心な暮らしでは、56.3% - 21.725% = 34.6のように算出。**  
 改善度は、「尼崎市の取組についての10年前との比較」において、「どちらかといえばよかった」の割合から「どちらかといえば悪くなった」の割合を減じて算出したものをそれぞれ横軸に記載したもの。  
**具体的には、安全・安心な暮らしでは 47.7% - 17.8% = 29.9のように算出。**

属性別傾向（優先度（注力すべき分野）と10年前からの改善度）

（性・年齢別）

- ・ 男女ともに50歳代以下では「学校教育」の優先度が高く、改善度が低い。
- ・ 男性20歳代以下・40～50歳代、女性40～60歳代では「働きやすい環境づくり」の優先度が高く、改善度が低い。
- ・ 他の年齢、性別と比較して、男性20歳代では「安全・安心な暮らし」、男性40歳代及び女性19歳以下では「子育ての環境」、男性50歳代では「産業の振興とまちの賑わい」、女性40歳代では「地域福祉や福祉サービス」の改善度が低いと考えられている。

< 優先度が高く、改善度が低いと考えられている分野について >

	男性	女性
19歳以下	学校教育 働きやすい環境づくり（30歳代除く）	学校教育
20歳代		
30歳代		
40歳代	学校教育 働きやすい環境づくり	学校教育 働きやすい環境づくり
50歳代		働きやすい環境づくり
60歳代		
70歳以上		

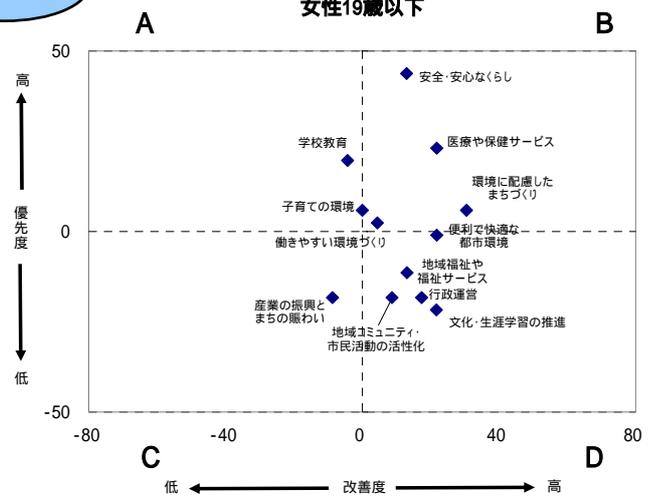
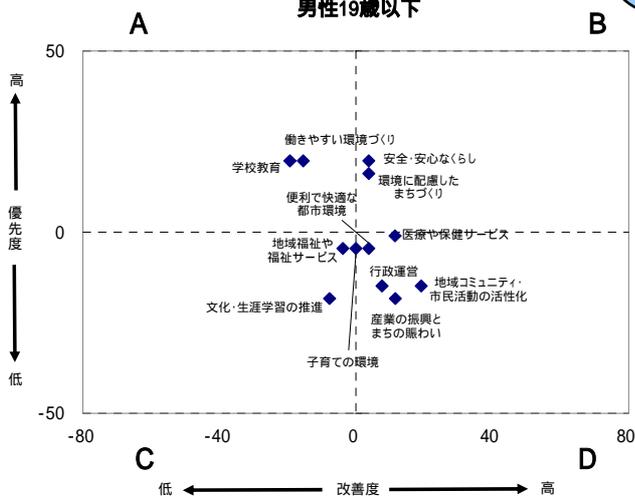
	男性						女性						合計											
	安全・安心な暮らし	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	安全・安心な暮らし	地域福祉や福祉サービス	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	安全・安心な暮らし	地域福祉や福祉サービス	子育ての環境	学校教育	産業の振興とまちの賑わい	働きやすい環境づくり	便利で快適な都市環境	行政運営	
19歳以下																								
20歳代																								
30歳代																								
40歳代																								
50歳代																								
60歳代																								
70歳以上																								

（注）「 」は領域 A に該当する項目、合計欄では男女ともに が表示されているものを「 」とし、どちらか一方が「 」の場合には、「 」とした。

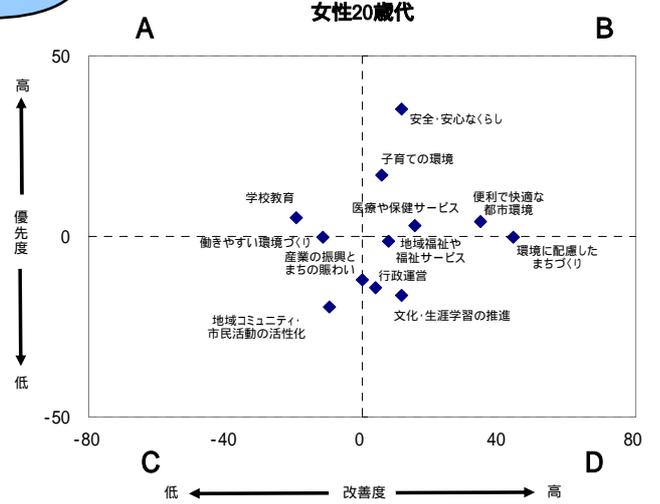
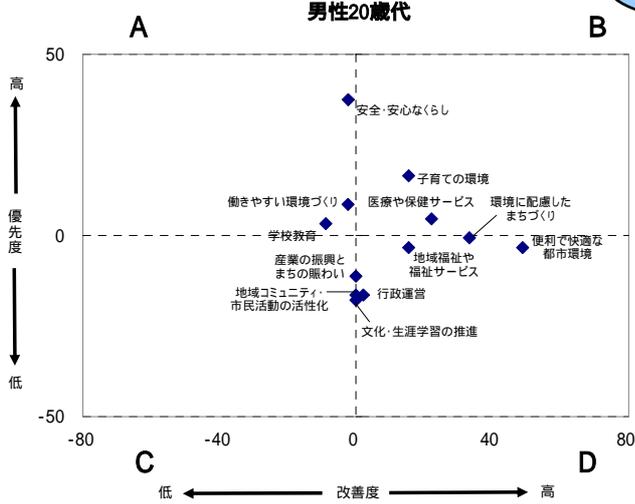
【男性】

【女性】

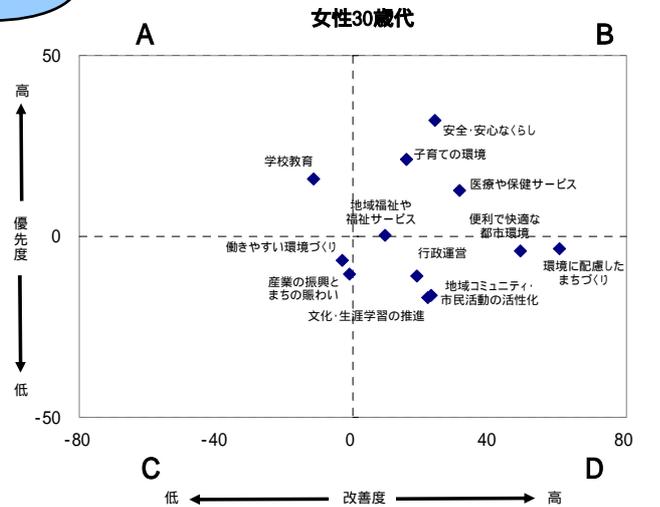
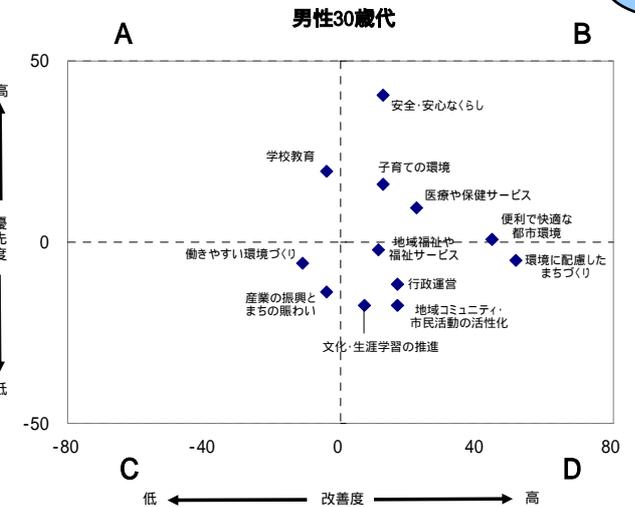
19歳以下



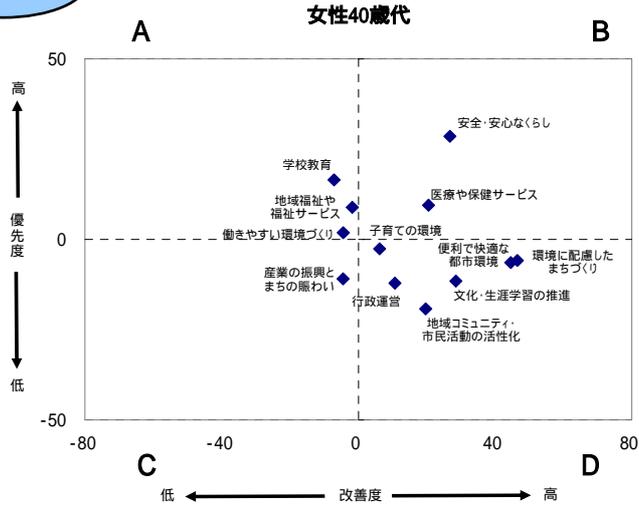
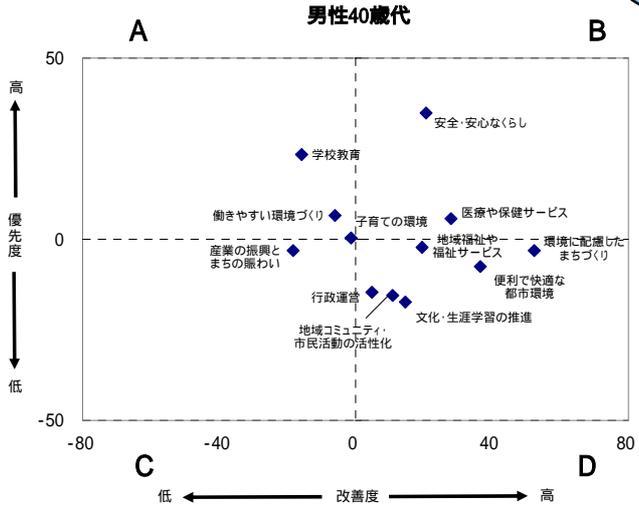
20歳代



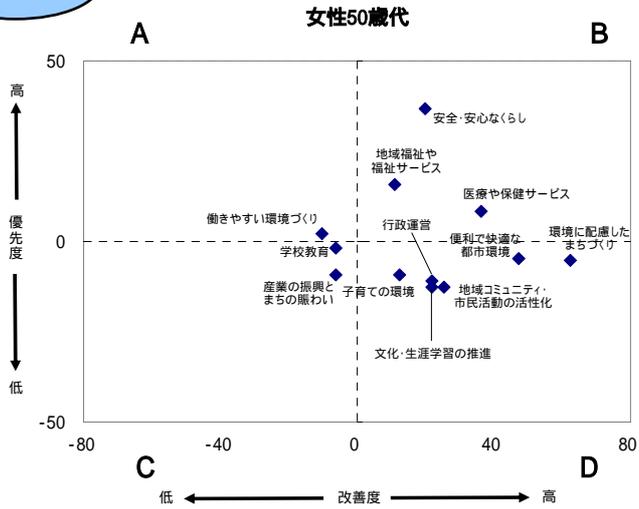
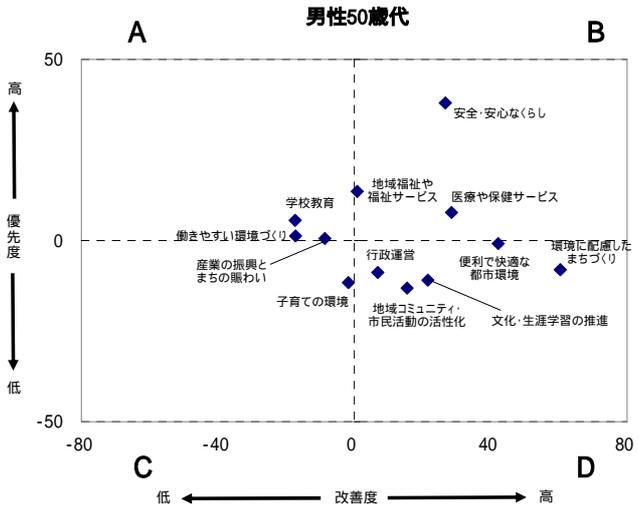
30歳代



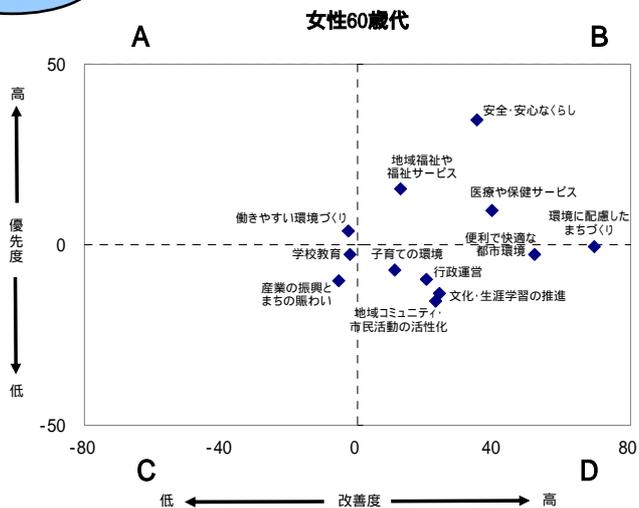
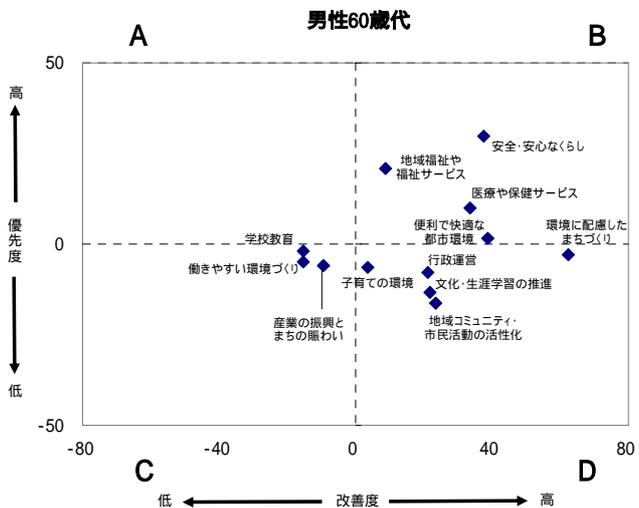
40 歳代



50 歳代



60 歳代



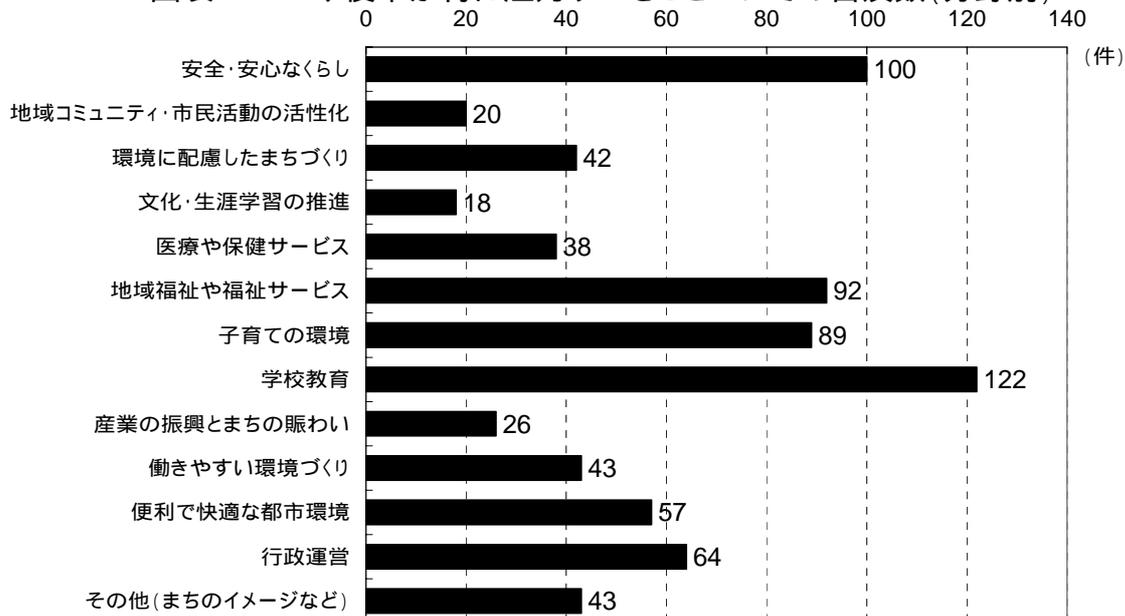


## 尼崎市が注力すべき分野（問 12、自由記述）

問 12 の自由回答欄については有効回答数全体の 27.3%にあたる 578 通に回答があった。主な意見を分野別に整理して掲載する。また、回答が言及している分野について、言及数を集計している。複数分野に渡る回答は、該当分野すべてについてそれぞれ集計している。そのため、言及数と調査票回収数は一致しない。

- ・ 分野別にみると「学校教育」「安全・安心な暮らし」に関する言及が多く、これらの分野が今後充実すべきものとして注目されている。

図表 5-5 今後市が特に注力すべきことについての言及数(分野別)



### 安全・安心な暮らし

#### (防犯対策)

- ・ パトロールの強化、街灯の増設
- ・ 治安の維持、犯罪の発生状況などの情報提供

#### (交通安全対策)

- ・ 不法駐輪、不法駐車への対応

#### (災害対策)

- ・ 災害時などにおけるすみやかな各家庭への情報提供

### 地域コミュニティ・市民活動の活性化

#### (地域コミュニティ)

- ・ 地域の人が集まり、コミュニケーションできる場として施設を活用すること・情報提供
- ・ 市民みんなが交流・協力していくこと

#### (市民参加・ボランティア)

- ・ 放置自転車の整理や医療のバックアップなどについて、市民にボランティアとして協力を求めていくこと

## 環境に配慮したまちづくり

### (公害対策)

- ・ 排気ガスや騒音への対策、カラス対策、緑化の推進

### (ごみ対策)

- ・ 環境美化に対する市民の意識啓発
- ・ ごみの分別の徹底や収集に関するより効率的な方法の検討

## 文化・生涯学習の推進

### (文化施設)

- ・ 図書館の充実または学校の図書室の土日開放などあるものの有効活用
- ・ 文化センターやスポーツ施設の充実

### (イベント)

- ・ コンサートや演劇といったイベントの充実とその情報発信

## 医療や保健サービス

### (予防接種、検診)

- ・ インフルエンザの予防接種費用やがん検診費用の軽減

### (医療施設)

- ・ たらい回しにならないよう、救急病院を充実。

## 地域福祉や福祉サービス

### (利用者支援)

- ・ 介護・福祉サービスの利用に関する便利でわかりやすいしくみづくり
- ・ 高齢者、障害者向けの支援の充実
- ・ 使われなくなった施設(廃校など)の転用
- ・ 医療費負担の軽減

### (制度の運用)

- ・ 福祉サービスの重要性は認めるが、無駄な支出削減。

## 子育ての環境

### (保育サービス)

- ・ 保育所の充実、保育料の軽減、保育時間の延長、小学校以上の児童を預けることができる施設、民営化の中止

### (子育て支援の範囲の拡充)

- ・ 子育て支援の情報交換ができる地域サークル、コミュニティの設置や、父親の子育てを促進する父子手当、中学校の給食など、幅広い子育て支援。

## 学校教育

### (学力向上)

- ・ 教員の質の向上、学校の教育レベルを上げること

### (教員への支援)

- ・ 教員への支援の充実、事務・雑務による負担の軽減、教員の研修制度

### (情操教育)

- ・ 社会にでて必要な知識、知恵の習得、道徳や人間形成を大切にした教育の充実

(教育環境)

- ・ 登下校、放課後などに子どもが安心して過ごせるような環境を地域一丸となりつくること。

産業の振興とまちの賑わい

(企業誘致)

- ・ 企業誘致やサービス産業の活性

(中小企業・商店街の振興)

- ・ 後継者不足に悩みを抱える中小企業への支援や、シャッター商店の多い商店街の活性化

働きやすい環境づくり

(雇用機会の確保)

- ・ 若年層から健康な高齢者まで、幅広い雇用対策、市内企業への就職支援

(求人情報の提供)

- ・ 雇用に関する正確な情報提供

便利で快適な都市環境

(交通利便性)

- ・ 南北移動の充実、歩道の整備

(都市の景観)

- ・ 無電柱化や美化に向けた取組、子どもが安全に遊べるような公園の維持管理(トイレ等)

行政運営

(行政サービスの拡充)

- ・ スピードアップ、わかりやすさの向上等窓口サービスの改善、親切な対応

(情報公開)

- ・ インターネットを活用した市政情報の提供

(財政の健全化)

- ・ 市の収入の増加や行政がすべきこととそうでないことを分けた歳出の削減

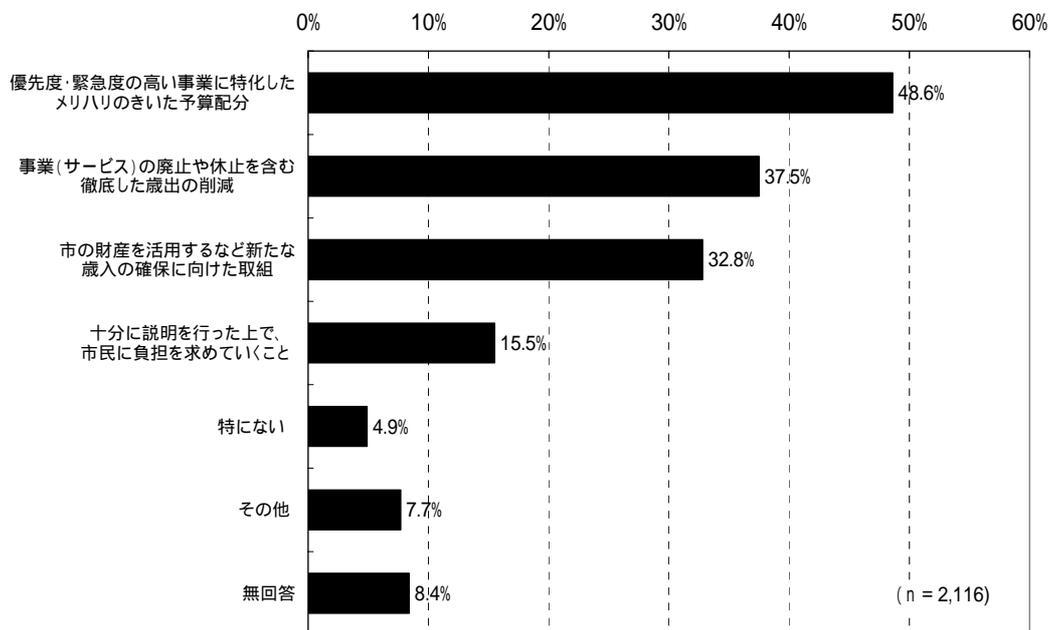
その他(まちのイメージなど)

- ・ サポーター制度の導入やイベント実施などを通じた市外からのイメージの向上

## 経費増大に対する取組（問 13、2 つ以内で回答）

- ・ 経費増大に対して市が取組むべき内容についてみると、「優先度・緊急度の高い事業に特化したメリハリのきいた予算配分」（48.6%）が最も多い。
- ・ 次いで「事業（サービス）の廃止や休止を含む徹底した歳出の削減」（37.5%）、「市の財産を活用するなど新たな歳入の確保に向けた取組」（32.8%）、「十分に説明を行った上で、市民に負担を求めていくこと」（15.5%）が続き、市民負担の増加・歳入の確保よりも歳出の削減が求められている。

図表 5-6 経費増大に対して取組むべき内容



### 属性別傾向

#### （性・年齢別）

- ・ 「優先度・緊急度の高い事業に特化したメリハリのきいた予算配分」は男女ともに年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がある。
- ・ 「事業（サービス）の廃止や休止を含む徹底した歳出の削減」は男性 20 歳代、女性 30・60 歳代が多く、女性 19 歳以下～20 歳代・70 歳以上が少ない。
- ・ 「市の財産を活用するなど新たな歳入の確保に向けた取組」は男女共に年齢が上がるにつれて多くなる。
- ・ 「十分に説明を行った上で、市民に負担を求めていくこと」は男性 50 歳代、男女 70 歳以上が多く、男性 20 歳代、女性 40 歳代が少ない。

(居住地別)

- ・「優先度・緊急度の高い事業に特化したメリハリのきいた予算配分」は中央地区が少ない。
- ・「事業(サービス)の廃止や休止を含む徹底した歳出の削減」「市の財産を活用するなど新たな歳入の確保に向けた取組」「十分に説明を行った上で、市民に負担を求めていくこと」はばらつきがあるものの、地区による差は大きくない。

図表 5-7 経費増大に対して取り組むべき内容(属性別)

(単位：%)

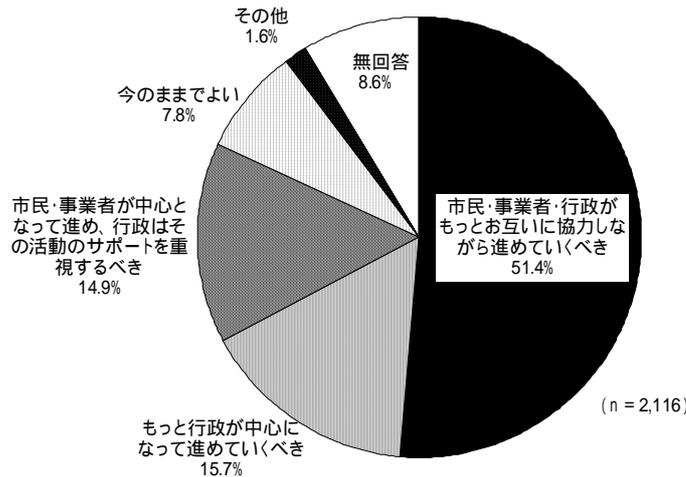
		リ事業の優先度・緊急度の高い予算配分	た止事業(サービス)の削減	向ど市(新たな)の財産を収入の確保に	てで十分(市民)に説明を求めた	特	その他	無回答	
全体		N = 2,116	48.6	37.5	32.8	15.5	4.9	7.7	8.4
男性・年齢別	男性全体	N = 850	50.2	40.0	33.6	18.0	4.2	8.2	5.6
	男性19歳以下	N = 29	44.8	37.9	17.2	17.2	<b>13.8</b>	0.0	3.4
	男性20歳代	N = 76	<b>61.8</b>	<b>48.7</b>	27.6	7.9	5.3	6.6	3.9
	男性30歳代	N = 138	<b>56.5</b>	42.0	24.6	15.9	1.4	10.9	2.9
	男性40歳代	N = 113	<b>56.6</b>	40.7	31.9	14.2	2.7	<b>14.2</b>	4.4
	男性50歳代	N = 139	48.9	38.8	<b>38.1</b>	<b>20.9</b>	5.0	9.4	5.8
	男性60歳代	N = 202	45.5	41.6	<b>39.6</b>	19.3	4.5	6.9	4.0
男性70歳以上	N = 153	42.5	32.7	37.3	<b>23.5</b>	4.6	4.6	12.4	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	53.5	40.9	36.9	15.7	5.8	8.3	11.7
	女性19歳以下	N = 29	<b>58.6</b>	27.6	20.7	17.2	<b>13.8</b>	6.9	3.4
	女性20歳代	N = 93	<b>63.4</b>	31.2	26.9	14.0	4.3	6.5	4.3
	女性30歳代	N = 186	<b>58.6</b>	<b>43.5</b>	30.1	10.8	2.2	11.3	2.7
	女性40歳代	N = 157	53.5	36.9	30.6	6.4	4.5	12.7	5.7
	女性50歳代	N = 176	46.0	34.7	35.2	17.0	5.7	11.4	5.1
	女性60歳代	N = 231	43.7	<b>42.9</b>	<b>38.5</b>	12.1	4.8	6.9	9.1
女性70歳以上	N = 219	32.0	27.9	32.0	<b>21.0</b>	8.2	0.9	<b>22.4</b>	
居住地別	中央地区	N = 200	41.5	33.0	33.5	20.5	7.5	11.5	9.0
	小田地区	N = 327	49.8	37.0	34.3	17.4	4.6	7.0	7.3
	大庄地区	N = 231	49.4	36.4	35.1	16.5	4.8	6.5	6.9
	立花地区	N = 472	50.2	41.3	35.6	11.4	4.2	7.4	7.0
	武庫地区	N = 339	51.6	38.1	31.3	13.6	3.8	8.0	8.6
	園田地区	N = 424	48.8	36.3	30.7	16.5	5.4	7.8	8.5

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 今後のまちづくりのあり方（問 14）

- ・ 今後のまちづくりのあり方としてどのように取り組むべきかについてみると、「市民・事業者・行政がもっとお互いに協力しながら進めていくべき」（51.4%）が最も多く、「もっと行政が中心になって進めていくべき」（15.7%）が次に多い。

図表 5-8 まちづくりの取組について



### 属性別傾向

#### （性・年齢別）

- ・ 「市民・事業者・行政がもっとお互いに協力しながら進めていくべき」は男性より女性が多い（男性全体：49.8%、女性全体：59.2%）。
- ・ 「もっと行政が中心になって進めていくべき」は男性19歳以下、女性19歳以下・20歳代が少なく、「市民・事業者が中心となって進め、行政はその活動のサポートを重視するべき」は男性19歳以下～20歳代が多い。
- ・ 30代以下の世代では、「市民・事業者が中心となって進め、行政はその活動のサポートを重視するべき」が「もっと行政が中心になって進めていくべき」よりも多く、40代以上の世代では、逆に「もっと行政が中心になって進めていくべき」が「市民・事業者が中心となって進め、行政はその活動のサポートを重視するべき」より多い。

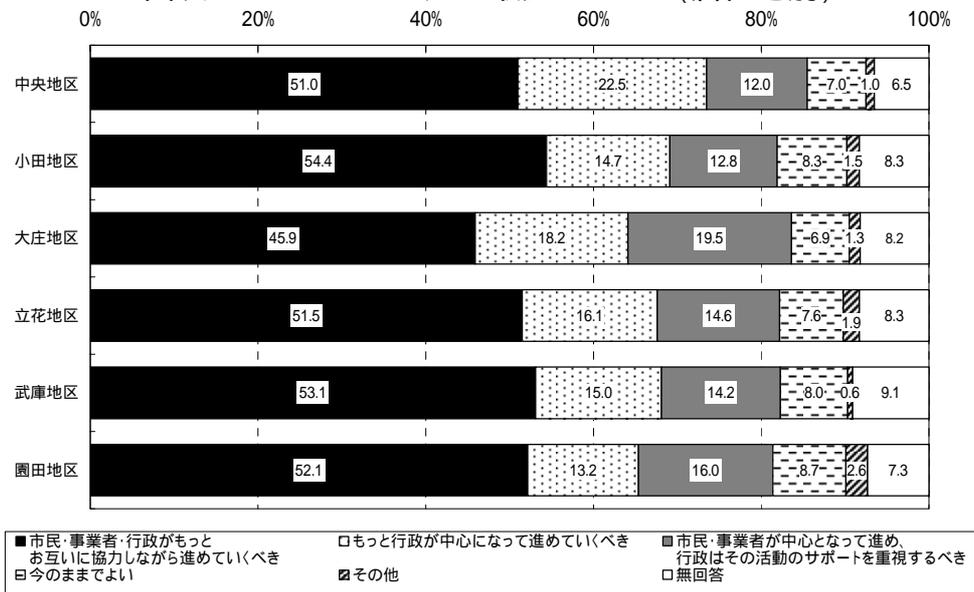
図表 5-9 まちづくりの取組について(性・年齢別)



(居住地別)

- ・「市民・事業者・行政がもっとお互いに協力しながら進めていくべき」は小田地区がやや多く、大庄地区が少ない。
- ・「もっと行政が中心になって進めていくべき」は中央地区が多い

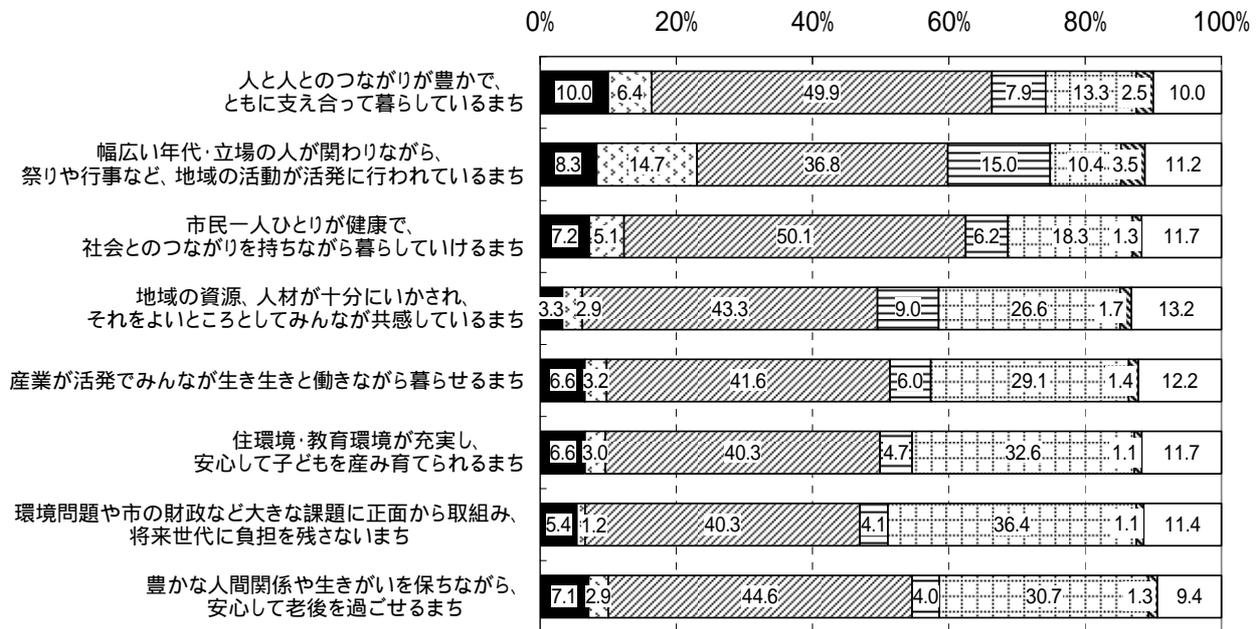
図表 5-10 まちづくりの取組について(居住地別)



## 望ましいまちの方向性（問 15）

- ・ 望ましいまちの方向性について、市の現状と今後の希望をみると、「実現しているが、今以上にそうなるべき」が最も多いのは「人と人とのつながりが豊かで、ともに支え合って暮らしているまち」（10.0％）である。
- ・ 「現在、どちらともいえないがそうなるべき」が最も多いのは「市民一人ひとりが健康で、社会とのつながりを持ちながら暮らしていけるまち」（50.1％）である。
- ・ 「実現していないので、早くそうなるべき」が最も多いのは「環境問題や市の財政など大きな課題に正面から取り組み、将来世代に負担を残さないまち」（36.4％）である。
- ・ 最も実現している項目は「幅広い年代・立場の人が関わりながら祭りや行事など、地域の活動が活発に行われているまち」である。
- ・ 最も実現していない項目は「地域の資源、人材が十分にいかされ、それをよいところとしてみんなが共感しているまち」である。
- ・ 最も今後そうなるべきとされた項目は「豊かな人間関係や生きがいを保ちながら、安心して老後を過ごせるまち」である。

図表 5-11 望ましいまちの方向性（現状認識と今後の希望）



■ 実現しているが、今以上にそうなるべき  
 □ 現在、どちらともいえないがそうなるべき  
 □ 実現していないので、早くそうなるべき  
 □ 無回答  
 □ 実現しているのに、今のままでよい  
 □ 現在、どちらともいえないが、今のままでよい  
 □ 実現していないが、今のままでよい

## 属性別傾向（望ましいまちの方向性）

望ましいまちの方向性についての設問では、回答の選択肢として「実現しているが、今以上にそうなるべき」といったように、現状と今後を同時に問うものとしており、属性別傾向を考えるに当たっては、現状と今後に分けて分析を行った。

### 実現している（現状）

#### （性・年齢別）

- ・「人と人とのつながりが豊かで、ともに支え合って暮らしているまち」は男性 30～60 歳代が少ない。
- ・「地域の資源、人材が十分にいかされ、それをよいところとしてみんなが共感しているまち」は年齢別による差は大きくない。
- ・「環境問題や市の財政など大きな課題に正面から取り組み、将来世代に負担を残さないまち」は男性 70 歳以上が多く、男性 19 歳以下、女性 70 歳以上がやや多い。
- ・「豊かな人間関係や生きがいを保ちながら、安心して老後を過ごせるまち」は男女 19 歳以下、女性 70 歳以上が多い。

#### （居住地別）

- ・「幅広い年代・立場の人が関わりながら祭りや行事など、地域の活動が活発に行われているまち」は中央地区、大庄地区が多く、武庫地区が少ない。

図表 5-12 望ましいまちの方向性(実現している)(属性別) (単位:%)

		しで人	わどわ	幅広	が社	い	地	ま	産	育し	住	な	き	環	後	豊	無
		てと	れ、	い	ら	る	域	ま	業	てら	境	み	境	を	か	回	
		と	地	年	社	と	の	ち	が	ら	・	な	問	保	な	答	
		と	域	代	会	ま	資	業	活	安	教	い	題	ち	な		
		の	が	・	の	ち	源	発	発	心	育	ま	や	を	な		
		つ	ら	立	一	を	、	で	み	し	環	に	市	あ	な		
		な	ま	場	人	共	人	み	ん	子	境	正	の	ら	な		
		が	ち	の	が	感	材	な	な	ど	が	面	財	、	な		
		豊	が	人	健	し	が	が	ら	も	充	取	政	あ	な		
		か	活	間	康	て	を	暮	ら	を	実	組	だ	ま	な		
		ら	発	関	で	、	を	ら	せ	産	み	さ	大	ち	な		
		暮	行	行	、	こ	こ	き	せ	ま		組	大	を	な		
		ら	な	な	、	こ	こ	き	せ	ま		組	大	を	な		
		ら	な	な	、	こ	こ	き	せ	ま		組	大	を	な		
	全体	N = 2,116	16.4	23.0	12.3	6.2	9.8	9.6	6.6	10.0	11.4						
性・年齢別	男性全体	N = 850	12.4	20.0	9.5	5.1	10.5	8.5	6.0	8.1	2.0						
	男性19歳以下	N = 29	20.7	<b>34.5</b>	<b>24.1</b>	10.3	<b>20.7</b>	<b>24.1</b>	10.3	<b>17.2</b>	3.4						
	男性20歳代	N = 76	15.8	23.7	2.6	5.3	<b>17.1</b>	9.2	3.9	3.9	5.3						
	男性30歳代	N = 138	<i>9.4</i>	<i>16.7</i>	<i>7.2</i>	4.3	11.6	8.7	5.8	8.0	5.5						
	男性40歳代	N = 113	<i>9.7</i>	23.0	<i>7.1</i>	5.3	5.3	5.3	4.4	8.0	4.6						
	男性50歳代	N = 139	<i>10.1</i>	19.4	<i>6.5</i>	2.9	8.6	5.0	3.6	2.2	5.4						
	男性60歳代	N = 202	<i>9.4</i>	<i>17.8</i>	8.4	5.0	7.4	8.4	4.5	7.9	8.4						
	男性70歳以上	N = 153	19.6	19.6	<b>18.3</b>	6.5	13.7	10.5	<b>11.8</b>	14.4	<b>20.3</b>						
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	19.7	25.8	14.4	7.1	9.6	10.4	7.1	11.5	1.5						
	女性19歳以下	N = 29	<b>24.1</b>	<b>51.7</b>	13.8	6.9	<b>20.7</b>	<b>17.2</b>	3.4	<b>20.7</b>	3.4						
	女性20歳代	N = 93	20.4	19.4	14.0	3.2	7.5	7.5	3.2	5.4	1.7						
	女性30歳代	N = 186	<b>24.7</b>	28.0	15.6	9.1	13.4	8.6	6.5	9.1	2.2						
	女性40歳代	N = 157	17.8	26.8	8.9	3.8	8.9	12.7	6.4	10.8	4.9						
	女性50歳代	N = 176	13.6	21.0	8.5	6.3	8.0	9.1	6.8	8.5	6.1						
	女性60歳代	N = 231	20.3	24.2	15.6	7.4	8.7	12.1	6.9	9.5	9.6						
女性70歳以上	N = 219	<b>20.1</b>	<b>28.3</b>	<b>21.0</b>	9.6	8.7	9.6	10.5	<b>20.1</b>	<b>33.1</b>							
居住地別	中央地区	N = 200	14.0	<b>29.5</b>	16.0	7.0	9.0	10.0	8.5	12.0	9.9						
	小田地区	N = 327	15.6	22.9	9.8	4.0	10.4	9.5	4.9	7.3	10.5						
	大庄地区	N = 231	21.2	<b>28.1</b>	14.3	7.8	12.6	12.1	8.7	13.4	11.0						
	立花地区	N = 472	14.8	25.2	12.7	5.9	8.5	8.7	7.2	10.6	10.6						
	武庫地区	N = 339	13.0	<i>14.2</i>	9.4	6.2	9.4	10.6	5.9	8.6	11.5						
	園田地区	N = 424	19.6	21.9	13.4	7.1	10.8	8.3	5.9	9.2	10.1						

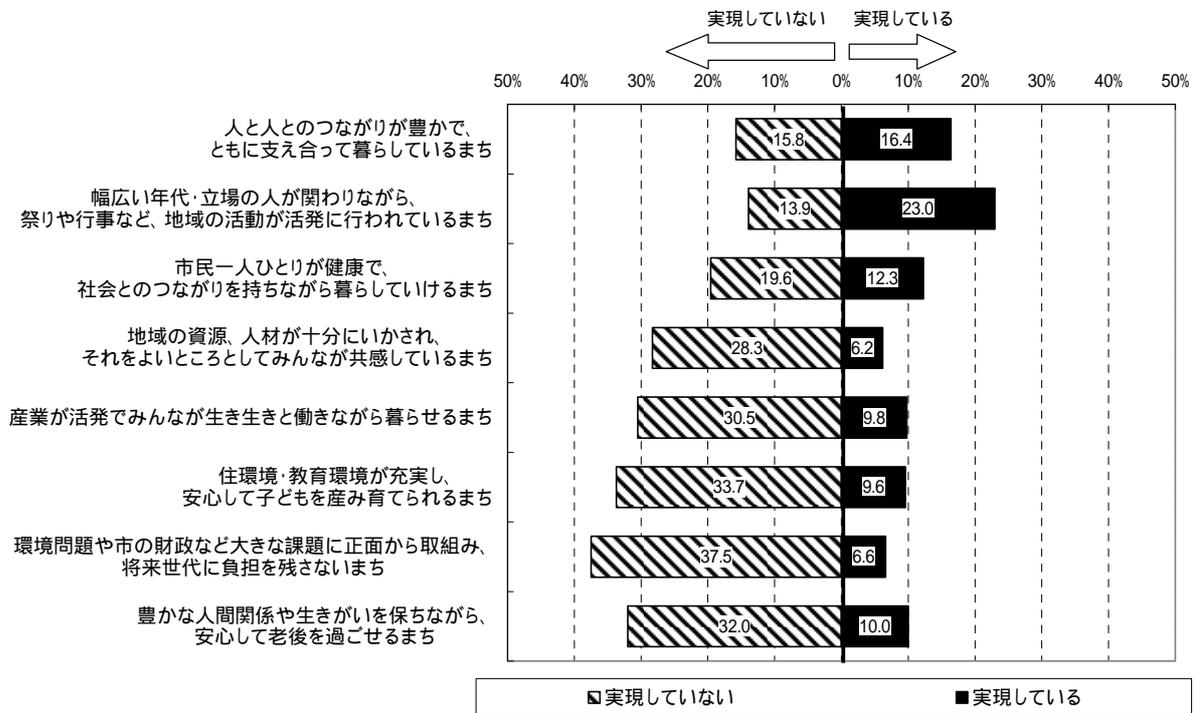
(注1)「実現しているが、今以上にそうなるべき」「実現しているので、今のままでよい」の回答割合を合算した。

(注2)全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以下下回る値を**斜体字**で表している。

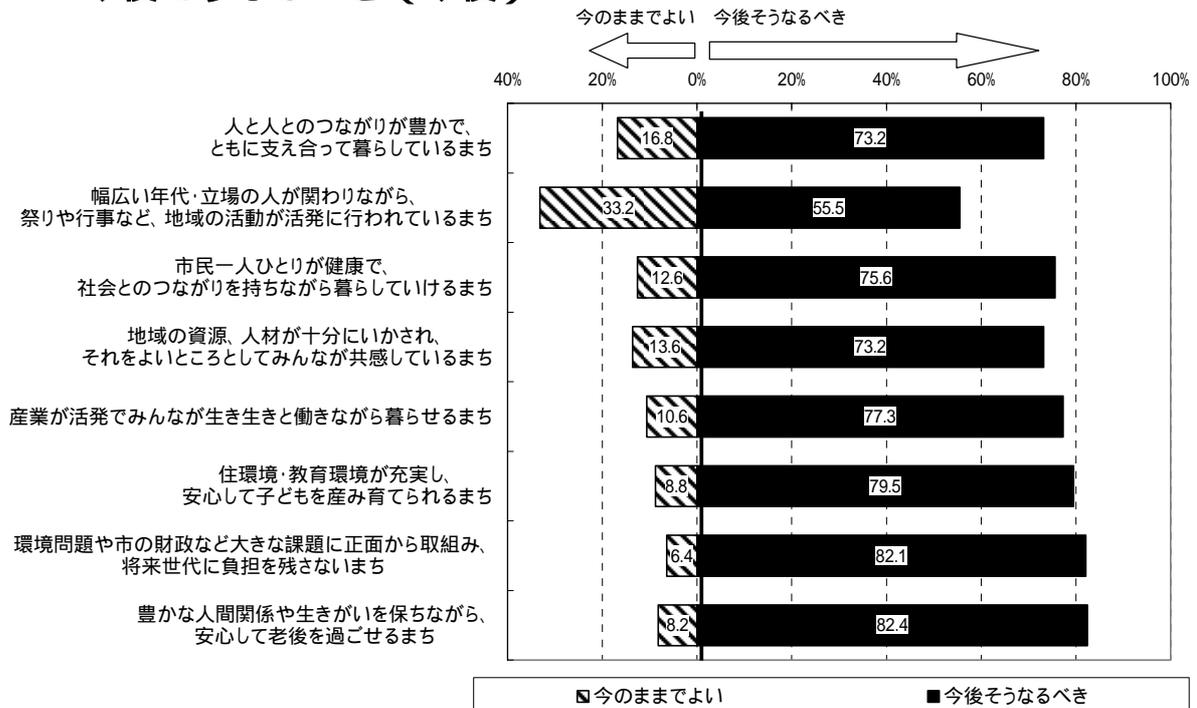


## < 参考 >

### 実現している（現状）



### 今後そうなるべき（今後）

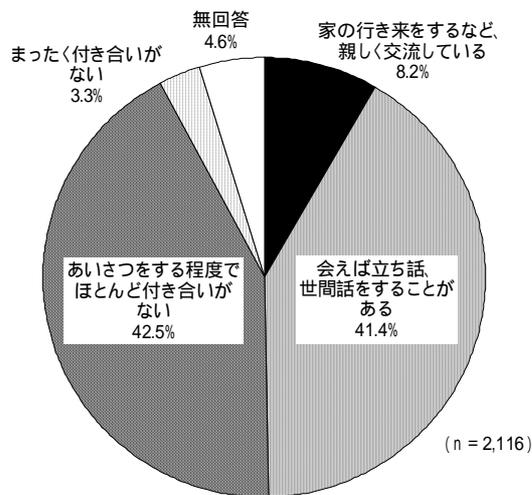


## 6. 地域のまちづくりと近隣との関係

### 近隣住民との関係（問 16）

- ・ 近隣住民との付き合いは、「あいさつをする程度でほとんど付き合いがない」（42.5%）と「会えば立ち話、世間話をすることがある」（41.4%）が多く、ほぼ同じ割合であり、合わせると全体の8割以上である。

図表 6-1 近隣住民との関係



#### 属性別傾向

##### （性・年齢別）

- ・ 「あいさつをする程度でほとんど付き合いがない」は女性より男性の方が多い（男性全体：53.2%、女性全体：35.9%）。
- ・ 「会えば立ち話、世間話をする」は男性より女性の方が多い（男性全体：33.3%、女性全体：46.6%）。
- ・ 「家の行き来をするなど、親しく交流している」は男性70歳以上、女性60～70歳以上が多い。

(居住地別)

- ・ 居住地による差は大きくないが、「家の行き来をするなど、親しく交流している」は大庄地区がやや多い。

(住居形態別)

- ・ 「あいさつをする程度でほとんど付き合いがない」は集合住宅が多く、一戸建て、長屋建てが少ない。
- ・ 「会えば立ち話、世間話をすることがある」は一戸建て、長屋建てが多く、集合住宅が少ない。

(居住意向別)

- ・ 居住意向が強いほど、近隣住民と親しい傾向がある。

図表 6-2 近隣住民との関係(属性別)

(単位：%)

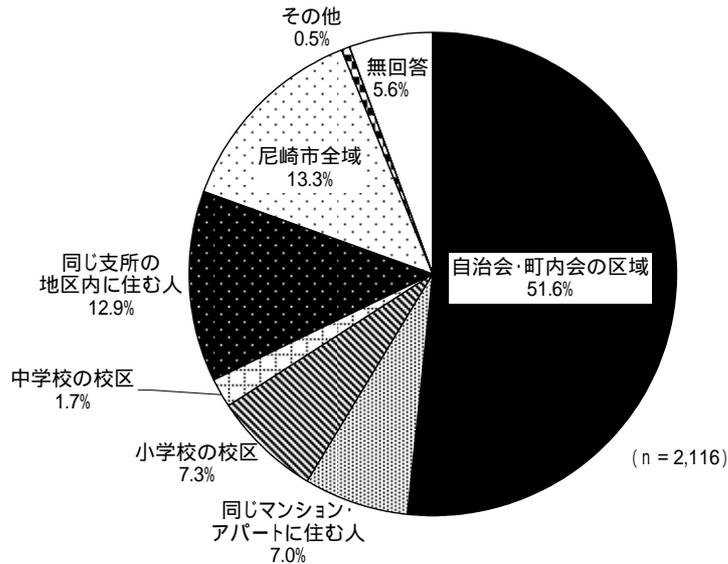
		るど家の の行き 来をす 交流す ない	を会 えば 立ち 話、 世間 話	いほあ とい さつ をす る程 度で	いま った く付 き合 いな	無 回 答	
全体		N = 2,116	8.2	41.4	42.5	3.3	4.6
男性・ 年齢別	男性全体	N = 850	5.6	33.3	53.2	4.0	3.9
	男性19歳以下	N = 29	0.0	13.8	79.3	6.9	0.0
	男性20歳代	N = 76	2.6	19.7	69.7	7.9	0.0
	男性30歳代	N = 138	2.9	29.0	60.1	6.5	1.4
	男性40歳代	N = 113	8.0	27.4	57.5	2.7	4.4
	男性50歳代	N = 139	4.3	36.7	52.5	4.3	2.2
	男性60歳代	N = 202	3.0	42.6	48.0	2.5	4.0
	男性70歳以上	N = 153	13.7	36.6	37.9	2.0	9.8
女性・ 年齢別	女性全体	N = 1,091	10.4	46.6	35.9	2.9	4.2
	女性19歳以下	N = 29	6.9	31.0	58.6	0.0	3.4
	女性20歳代	N = 93	5.4	18.3	69.9	5.4	1.1
	女性30歳代	N = 186	7.0	37.6	47.3	7.0	1.1
	女性40歳代	N = 157	9.6	40.8	45.2	1.9	2.5
	女性50歳代	N = 176	6.3	55.1	32.4	2.8	3.4
	女性60歳代	N = 231	14.7	55.0	22.9	1.7	5.6
	女性70歳以上	N = 219	15.1	56.6	18.7	0.9	8.7
居住 地別	中央地区	N = 200	7.0	45.5	39.0	4.5	4.0
	小田地区	N = 327	7.6	41.3	42.2	3.7	5.2
	大庄地区	N = 231	11.7	40.7	44.2	2.2	1.3
	立花地区	N = 472	8.9	41.7	42.2	2.8	4.4
	武庫地区	N = 339	6.2	40.7	46.0	3.2	3.8
	園田地区	N = 424	8.0	41.3	42.5	3.8	4.5
住宅 形態	一戸建て	N = 983	9.8	47.8	36.5	1.5	4.4
	集合住宅	N = 834	5.5	32.0	53.4	5.6	3.5
	長屋建て	N = 162	11.7	53.1	29.6	0.6	4.9
居住 意向別	ずっと住み続けたい	N = 844	12.4	47.5	33.6	0.5	5.9
	当分の間は住みたい	N = 629	5.1	38.5	49.3	4.1	3.0
	市外に移りたい	N = 188	6.4	30.9	53.2	8.5	1.1
	市内に移りたい	N = 86	7.0	31.4	52.3	5.8	3.5
	わからない	N = 185	4.9	30.3	54.1	7.0	3.8

(注)全体の割合を5%以上上回る値を白抜字、5%以上下回る値を斜体字で表している。

## 「地域のまちづくり」の範囲（問 17）

- ・ 「地域のまちづくり」と聞いて思い浮かべる範囲は、「自治会・町内会の区域」（51.6%）が最も多く、「尼崎市全域」（13.3%）が次に多い。

図表 6-3 「地域のまちづくり」と聞いて思い浮かべる範囲



### 属性別傾向

#### （性・年齢別）

- ・ 「自治会・町内会の区域」は男性 70 歳以上が多く、男女 19 歳以下～20 歳代が少ない。
- ・ 「尼崎市全域」は男女 19 歳以下が多く、男性 70 歳以上が少ない。
- ・ 男女ともに 70 歳以上は特に「自治会・町内会の区域」と「尼崎市全域」の差が大きい。

#### （居住地別）

- ・ 居住地による差は大きくはないが、「自治会・町内会の区域」は園田地区がやや多く、「尼崎市全域」は中央地区がやや多い。

(居住開始時期別)

- ・「自治会・町内会の区域」は昭和19年以前、昭和40・50年代が多く、平成7年～16年が少ない。

(近所付き合い別)

- ・「自治会・町内会の区域」は近所付き合いが活発なほど多く、「尼崎市全域」は近所つきあいが活発なほど少ない。

図表 6-4 「地域のまちづくり」と聞いて思い浮かべる範囲(属性別)

(単位：%)

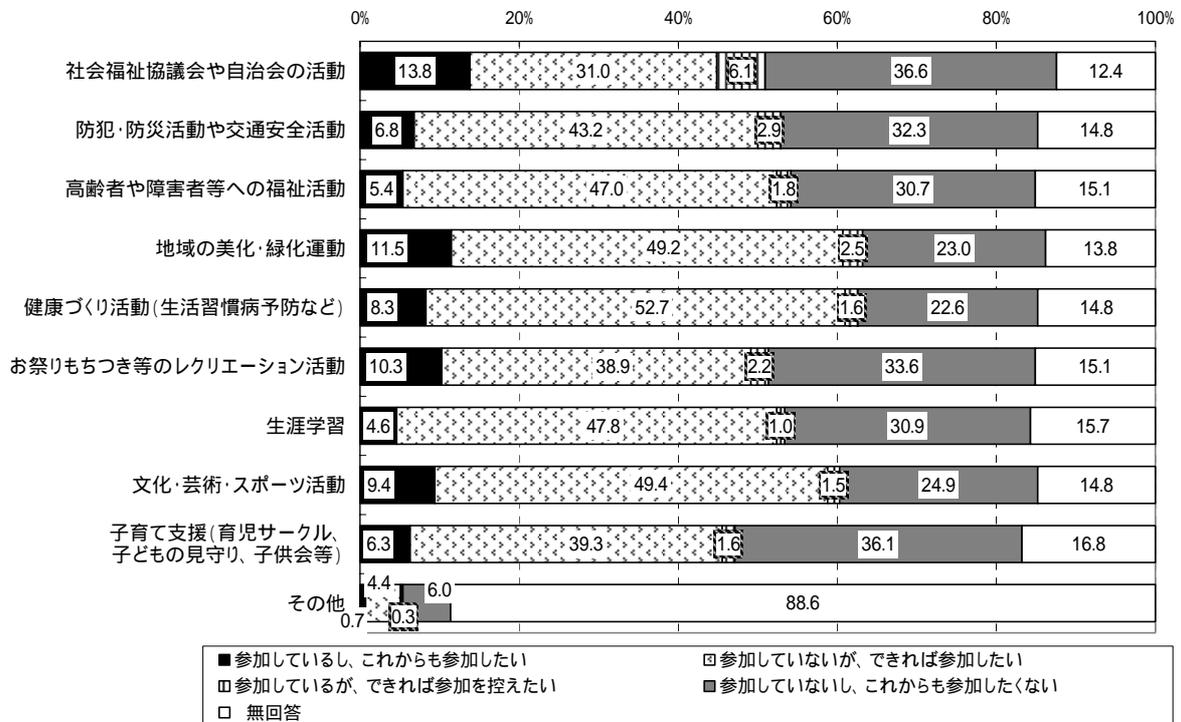
		自治会・町内会の区域	パート・マンション・アパートに住む人	小学校の校区	中学校の校区	む同じ支所の地区内に住む人	尼崎市全域	その他	無回答	
全体		N = 2,116	51.6	7.0	7.3	1.7	12.9	13.3	0.5	5.6
男性・年齢別	男性全体	N = 850	21.4	3.1	2.7	0.7	4.7	5.5	0.1	1.9
	男性19歳以下	N = 29	17.2	6.9	6.9	<b>6.9</b>	6.9	<b>51.7</b>	0.0	3.4
	男性20歳代	N = 76	43.4	6.6	11.8	2.6	17.1	17.1	0.0	1.3
	男性30歳代	N = 138	55.8	8.0	9.4	1.4	9.4	15.2	0.0	0.7
	男性40歳代	N = 113	53.1	6.2	7.1	2.7	8.0	16.8	0.9	5.3
	男性50歳代	N = 139	53.2	7.2	9.4	2.2	10.8	14.4	0.0	2.9
	男性60歳代	N = 202	52.5	9.9	5.9	1.5	12.4	10.9	0.5	6.4
	男性70歳以上	N = 153	<b>63.4</b>	7.2	0.7	0.0	14.4	4.6	0.7	9.2
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	26.3	3.3	4.2	0.9	7.3	6.4	0.2	2.9
	女性19歳以下	N = 29	34.5	6.9	10.3	3.4	17.2	<b>24.1</b>	0.0	3.4
	女性20歳代	N = 93	46.2	9.7	9.7	4.3	17.2	10.8	0.0	2.2
	女性30歳代	N = 186	51.6	4.3	<b>12.9</b>	2.2	14.5	11.8	0.0	2.7
	女性40歳代	N = 157	51.0	3.2	10.2	1.9	15.3	13.4	0.6	4.5
	女性50歳代	N = 176	53.4	8.0	8.0	1.1	13.6	13.1	0.0	2.8
	女性60歳代	N = 231	48.1	7.8	6.5	1.3	14.7	14.7	1.3	5.6
	女性70歳以上	N = 219	55.7	6.4	3.2	0.9	11.4	8.7	0.5	13.2
居住地別	中央地区	N = 200	49.0	10.0	6.5	2.0	12.0	16.0	0.5	4.0
	小田地区	N = 327	51.7	8.0	4.9	0.6	16.8	13.1	0.0	4.9
	大庄地区	N = 231	51.1	6.5	7.4	1.7	14.7	13.4	0.0	5.2
	立花地区	N = 472	52.8	5.9	6.8	1.7	11.2	14.6	0.2	6.8
	武庫地区	N = 339	49.0	5.9	11.5	2.7	14.2	10.6	1.5	4.7
	園田地区	N = 424	55.9	7.8	7.1	1.7	10.6	12.3	0.2	4.5
居住開始時期別	昭和19年(1944)以前	N = 69	<b>71.0</b>	0.0	2.9	4.3	8.7	8.7	1.4	2.9
	昭和20年(1945)代	N = 108	49.1	5.6	9.3	0.0	11.1	12.0	0.0	13.0
	昭和30年(1955)代	N = 180	52.2	6.1	6.7	1.1	13.9	8.9	1.1	10.0
	昭和40年(1965)代	N = 320	<b>57.2</b>	6.3	3.8	0.6	12.8	12.5	0.9	5.9
	昭和50年(1975)代	N = 340	<b>58.2</b>	5.9	7.1	2.6	10.9	12.6	0.0	2.6
	昭和60(1985)年～平成6(1994)	N = 291	52.2	6.9	8.2	1.7	12.4	15.5	0.0	3.1
	平成7(1995)年～平成16(2004)	N = 393	44.0	7.9	9.2	1.8	15.0	18.1	0.5	3.6
	平成17年(2005)以降	N = 308	46.8	10.7	9.1	1.9	14.3	11.7	0.3	5.2
近所付き合い別	家の行き来をするなど、親しく交流している	N = 174	<b>59.8</b>	8.0	10.9	1.1	9.2	9.2	0.0	1.7
	会えば立ち話、世間話をするところがある	N = 875	55.9	6.3	7.8	2.1	13.1	12.5	0.5	1.9
	あいさつをする程度でほとんど付き合いがない	N = 900	50.9	7.4	7.3	1.6	14.3	15.8	0.4	2.2
	まったく付き合いがない	N = 70	38.6	<b>14.3</b>	1.4	1.4	17.1	<b>20.0</b>	2.9	4.3

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 地域活動への参加状況・意向（問 18）

- ・ 現在、最も「参加している」が多い項目は「社会福祉協議会や自治会の活動」である。
- ・ 今後、最も「参加したい」が多い項目は「健康づくり活動」である。
- ・ 地域活動への参加状況・意向について、「参加を控えたい」、「参加したくない」が最も多いのは「社会福祉協議会や自治会の活動」（42.7%）であり、「参加していないが、できれば参加したい」が最も多いのは「健康づくり活動」（52.7%）である。

図表 6-5 地域活動への参加状況と今後の意向



### 属性別傾向

地域活動への参加状況についての設問では、回答の選択肢として「参加しているし、これからも参加したい」といったように、現状と今後を同時に問うものとしており、属性別傾向を考えるに当たっては、現状と今後に分けて分析を行った。

## 現在参加している（現状）

### （性・年齢別）

- ・ 「社会福祉協議会や自治会の活動」は男女ともに年齢が高くなるにつれて多くなる。
- ・ 「社会福祉協議会や自治会の活動」は男性70歳以上、女性50～70歳以上の参加が多い傾向がある。

### （居住地別）

- ・ 「社会福祉協議会や自治会の活動」は小田地区が多い。
- ・ 「文化・芸術・スポーツ活動」は中央地区が多い。

### （居住意向別）

- ・ 「ずっと住み続けたい」意向を持つ回答者の参加が多い傾向がある。

### （近所付き合い別）

- ・ 近所付き合いが活発なほど参加が多い傾向がある。

図表 6-6 地域活動への参加状況(属性別)

(単位：%)

		社会福祉協議会や自治会の活動	防犯・防災活動や交通安全活動	高齢者や障害者等への福祉活動	地域の美化・緑化運動	健康づくり活動(生活習慣病予防など)	お祭り・もちつき等のレクリエーション活動	生涯学習	文化・芸術・スポーツ活動	子育て支援(育児見守り、子供会等)	その他	無回答	
全体		N = 2,116	19.9	9.7	7.2	14.0	9.9	12.5	5.6	10.9	7.9	1.0	22.2
男性・年齢別	男性19歳以下	N = 29	17.6	9.8	6.2	11.4	9.6	11.3	3.9	9.8	5.3	1.1	18.4
	男性19歳代	N = 29	3.4	0.0	6.9	10.3	3.4	17.2	3.4	10.3	3.4	0.0	6.9
	男性20歳代	N = 76	1.3	5.2	3.9	6.5	6.5	6.6	1.3	6.6	2.6	0.0	8.9
	男性30歳代	N = 138	11.6	6.5	2.9	6.5	6.5	13.0	2.9	6.5	8.7	1.4	13.5
	男性40歳代	N = 113	18.6	13.3	5.3	13.2	11.5	15.1	7.1	11.5	7.1	1.8	14.8
	男性50歳代	N = 139	16.5	5.8	5.7	9.4	3.6	6.4	1.4	8.0	3.6	0.7	12.7
	男性60歳代	N = 202	22.8	12.4	6.0	12.4	9.9	11.4	4.0	11.9	3.0	1.5	17.2
男性70歳以上	N = 153	27.4	14.4	11.7	17.7	18.9	12.4	5.9	11.8	7.2	0.7	38.9	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	21.8	9.4	7.9	16.1	10.5	14.1	6.8	11.8	10.1	0.6	23.3
	女性19歳以下	N = 29	0.0	0.0	0.0	13.8	3.4	13.8	0.0	6.9	0.0	3.4	19.7
	女性20歳代	N = 93	1.1	1.1	0.0	4.3	3.2	3.2	2.2	2.2	3.2	0.0	14.0
	女性30歳代	N = 186	11.3	9.2	3.8	9.7	4.3	18.8	5.4	9.1	24.2	0.5	12.4
	女性40歳代	N = 157	18.5	8.9	5.7	12.1	5.7	14.6	4.5	7.7	16.6	1.3	17.0
	女性50歳代	N = 176	26.8	11.9	8.5	19.9	9.1	14.2	7.4	15.3	7.4	0.6	16.4
	女性60歳代	N = 231	33.4	9.5	11.3	19.5	13.5	13.4	8.3	13.5	4.3	0.4	24.0
女性70歳以上	N = 219	28.8	12.8	13.2	23.3	21.5	15.1	10.5	17.4	6.0	0.5	46.1	
居住地別	中央地区	N = 200	20.0	12.0	7.0	13.5	8.5	14.5	10.0	16.5	8.0	0.5	19.8
	小田地区	N = 327	26.3	9.2	7.9	15.3	12.3	12.2	4.3	8.2	8.2	0.3	25.0
	大庄地区	N = 231	17.7	10.8	7.0	13.8	9.9	14.3	6.5	8.7	6.9	0.4	21.8
	立花地区	N = 472	20.3	10.6	10.4	14.7	11.7	13.1	6.8	14.2	7.2	1.5	20.9
	武庫地区	N = 339	15.0	8.2	3.6	13.6	8.3	9.2	3.0	7.4	7.1	0.6	20.0
	園田地区	N = 424	20.3	9.4	6.8	12.1	7.3	12.8	4.9	11.1	8.3	1.2	21.4
居住意向別	ずっと住み続けたい	N = 844	27.0	12.6	10.0	18.3	13.9	16.0	7.1	15.2	8.5	0.8	26.3
	当分の間は住みたい	N = 629	15.0	6.7	4.4	10.8	5.5	10.5	4.9	7.9	7.0	0.8	17.5
	市外に移りたい	N = 188	13.8	9.6	3.8	8.0	6.9	9.5	5.4	8.5	10.1	1.6	16.1
	市内に移りたい	N = 86	20.9	7.0	5.8	5.9	7.0	10.5	3.5	7.0	9.3	0.0	17.9
	わからない	N = 185	9.1	7.1	5.4	11.3	8.1	7.6	3.3	8.1	8.1	1.6	18.3
近所付き合い別	家の行き来をするなど、親しく交流している	N = 174	40.2	22.4	15.0	25.9	20.1	31.1	10.9	22.9	17.2	0.6	27.1
	会えば立ち話、世間話をする	N = 875	27.7	13.4	9.5	20.5	12.5	16.0	6.9	15.1	10.2	1.1	22.6
	あいさつをする程度でほとんど付き合いがない	N = 900	10.9	4.4	3.8	6.8	6.4	6.6	3.6	5.2	4.2	1.0	14.8
	まったく付き合いがない	N = 70	2.8	2.9	2.8	2.8	2.9	2.8	1.4	8.6	1.4	0.0	15.3

(注1) 現在地域活動に参加している者の割合。「参加しているし、これからも参加したい」「参加しているが、できれば参加を控えたい」の回答割合を合算した。

(注2) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 今後参加したい(今後)

### (性・年齢別)

- ・ 「社会福祉協議会や自治会の活動」は男女ともに 70 歳以上を除き、年齢が高くなるにつれて多くなる。
- ・ 「文化・芸術・スポーツ活動」は男性 30～60 歳代、女性 20～50 歳代の参加が多い傾向がある。

### (居住地別)

- ・ 「生涯学習」は中央地区が多い。
- ・ 「子育て支援」は武庫地区が多い。
- ・ 園田地区はすべての地域活動が少ない。

### (居住意向別)

- ・ 定住意向による大きな違いは見られない。

### (近所付き合い別)

- ・ 近所付き合いが活発なほど参加は多い傾向があるが、「現在参加している」の回答と比べ、「家の行き来をするなど、親しく交流している」と「会えば立ち話、世間話をする」との差は小さい。

図表 6-7 地域活動参加への今後の意向(属性別) (単位:%)

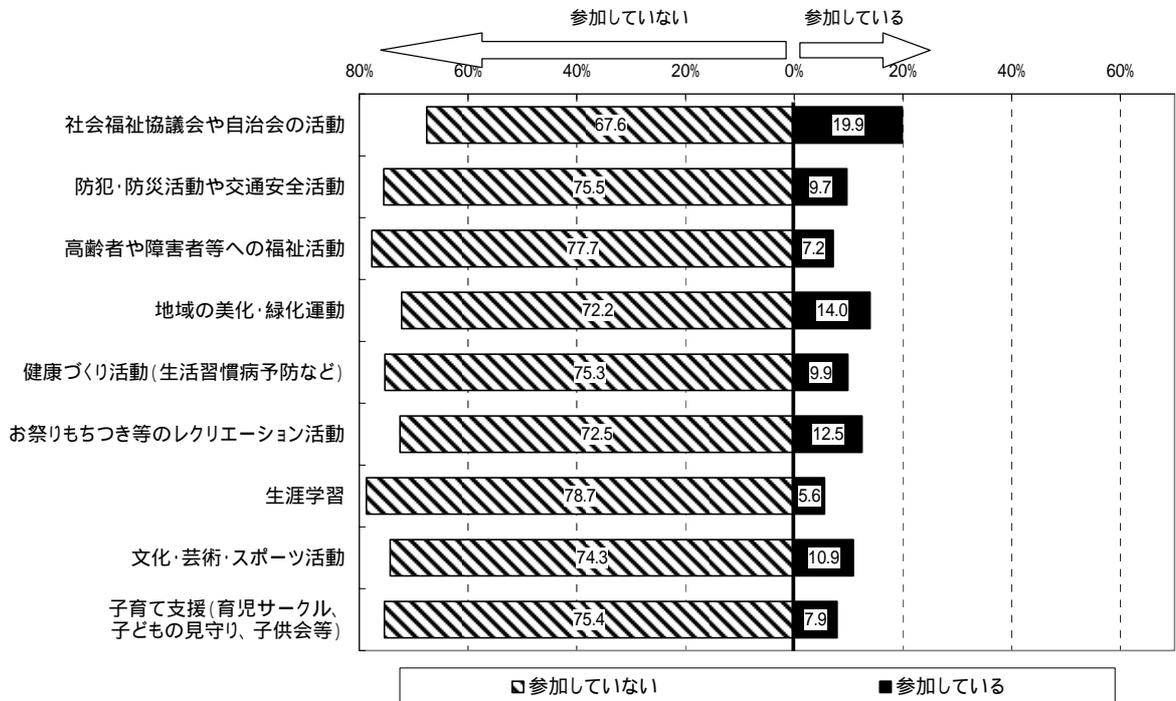
		社会福祉協議会や自治会の活動	通防安全活動	高齢者や障害者等への福祉活動	地域の美化・緑化運動	健康づくり活動(生活習慣病予防など)	お祭り・イベント・シヨンの活動	生涯学習	文化・芸術・スポーツ	子育て支援(育児のサポート、子供会等)	その他	無回答	
全体		N = 2,116	44.8	50.0	52.4	60.7	61.0	49.2	52.4	58.8	45.6	5.1	22.2
男性・年齢別	男性19歳以下	N = 850	48.0	54.2	52.1	62.7	60.9	51.1	52.5	60.7	46.5	6.4	18.4
	男性20歳代	N = 29	34.4	37.9	48.3	58.6	48.2	41.3	62.0	37.9	6.9	6.9	8.9
	男性30歳代	N = 76	35.5	44.7	48.7	53.9	48.6	50.0	44.7	61.9	53.9	1.3	8.9
	男性40歳代	N = 138	44.2	55.8	47.9	60.8	61.5	58.7	55.8	66.0	59.4	4.3	13.5
	男性50歳代	N = 113	44.2	54.9	54.8	62.8	61.1	57.5	55.7	69.9	47.8	6.2	14.8
	男性60歳代	N = 139	53.9	63.3	61.8	73.4	71.2	59.7	61.1	70.5	51.1	8.6	12.7
	男性70歳以上	N = 202	54.4	58.9	57.5	67.8	68.3	51.0	61.9	62.4	46.5	8.4	17.2
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	49.0	45.8	40.5	52.9	49.6	32.7	32.7	37.2	27.4	5.9	38.9
	女性19歳以下	N = 29	43.7	48.2	53.3	60.0	62.4	49.1	53.5	59.5	46.0	3.8	23.3
	女性20歳代	N = 93	37.9	41.4	48.3	62.1	58.6	44.8	44.8	58.6	51.7	3.4	19.7
	女性30歳代	N = 186	35.5	54.8	59.1	63.4	65.6	69.9	60.3	71.0	64.5	5.4	14.0
	女性40歳代	N = 186	38.2	55.9	58.1	71.0	70.4	65.0	61.8	72.0	73.1	3.7	12.4
	女性50歳代	N = 157	37.6	50.9	58.6	64.3	65.6	53.5	59.3	64.4	52.3	7.7	17.0
	女性60歳代	N = 176	51.8	50.0	57.4	62.0	69.9	51.2	67.7	72.1	43.2	5.1	16.4
女性70歳以上	N = 231	52.4	52.0	54.1	63.3	64.1	44.1	54.2	58.5	38.1	1.7	24.0	
居住地別	中央地区	N = 219	41.5	32.4	39.7	41.1	44.8	27.9	28.7	31.6	20.6	1.4	46.1
	小田地区	N = 200	47.5	53.0	53.5	61.0	63.5	50.5	57.5	58.5	47.0	5.0	19.8
	大庄地区	N = 327	46.8	44.9	48.9	57.8	58.7	46.8	50.5	55.6	41.0	4.0	25.0
	立花地区	N = 231	41.1	52.0	49.8	62.3	59.3	47.6	45.9	52.9	46.7	5.6	21.8
	武庫地区	N = 472	42.7	49.5	50.2	61.6	58.7	47.8	53.1	59.6	44.8	5.3	20.0
	園田地区	N = 339	47.1	53.3	55.6	63.7	65.1	54.1	56.1	63.2	50.9	4.5	21.4
	園田地区	N = 424	34.9	39.0	46.4	50.4	51.3	40.7	45.6	47.1	37.4	6.5	33.0
居住意向別	ずっと住み続けたい	N = 844	49.8	49.4	52.6	58.4	61.3	48.7	50.2	56.6	43.4	4.6	26.3
	当分の間は住みたい	N = 629	42.8	51.5	53.2	63.6	63.4	51.2	57.5	63.9	47.7	5.9	17.5
	市外に移りたい	N = 188	37.7	50.5	55.9	67.0	60.6	50.5	59.1	62.2	52.1	3.7	16.1
	市内に移りたい	N = 86	45.3	51.1	58.1	61.7	58.1	51.2	46.5	58.1	47.7	5.8	17.9
	わからない	N = 185	39.4	50.8	49.7	55.7	58.4	50.8	49.2	56.7	47.6	4.8	18.3
近所付き合い別	家の行き来をするなど、親しく交流している	N = 174	59.2	54.0	55.8	63.2	64.4	55.2	51.8	59.7	47.7	4.6	27.1
	会えば立ち話、世間話をする	N = 875	52.2	54.6	58.8	65.3	64.7	53.7	57.6	62.3	50.7	5.9	22.6
	あいさつをする程度でほとんど付き合いがない	N = 900	40.2	50.8	51.3	62.3	63.8	48.5	52.4	61.5	45.4	4.8	14.8
	まったく付き合いがない	N = 70	21.4	27.2	28.5	38.5	37.1	35.7	42.8	42.8	28.6	2.9	15.3

(注1) 今後地域活動に参加する意向を有する者の割合。「参加しているし、これからも参加したい」「参加していないが、できれば参加したい」の回答割合を合算した。

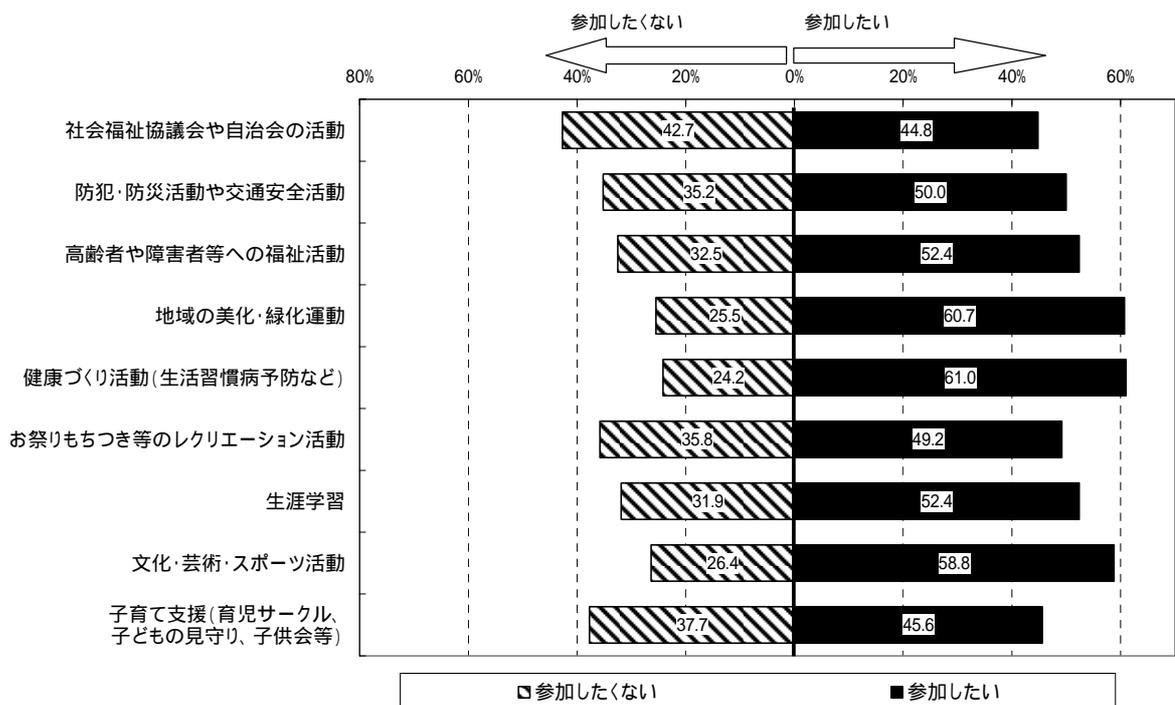
(注2) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## < 参考 >

### 現在参加している（現状）



### 今後参加したい（今後）

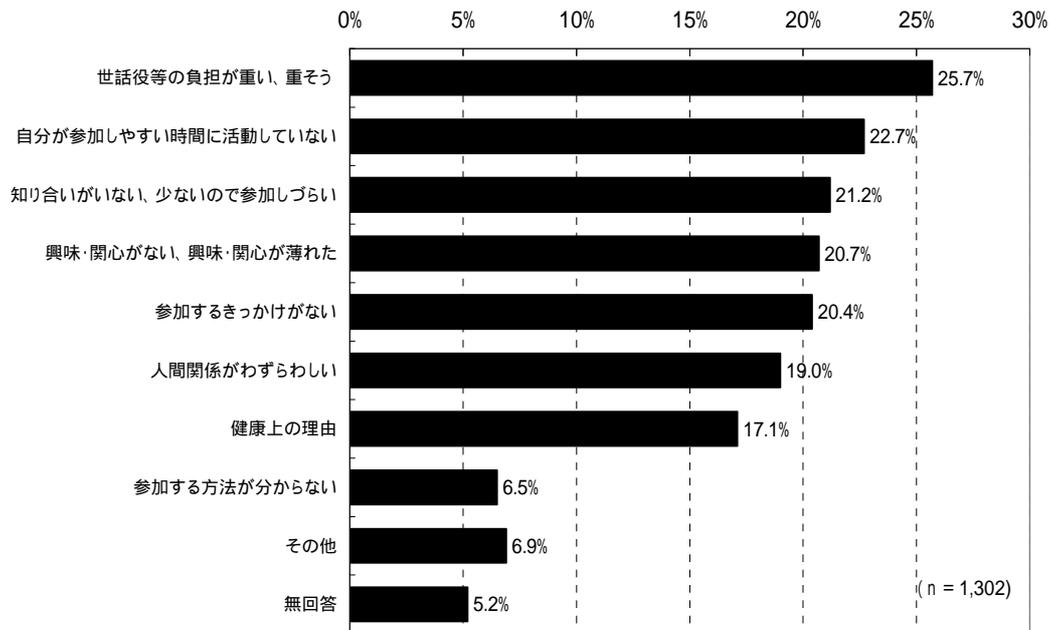


## 地域活動不参加の理由（問 19・20、ともに2つ以内で回答）

### 参加を希望しない理由

- ・ 地域活動の「参加を控えたい」「参加したくない」理由は「世話役等の負担が重い、重そう」(25.7%)が最も多い。

図表 6-8 「参加を控えたい」「参加したくない」理由



(注)問 18 で1つでも「参加を控えたい」または「参加したくない」と答えた者のみ回答。

### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- ・ 「世話役等の負担が重い、重そう」は男性 50 歳代、女性 30～50 歳代が多く、男女 19 歳以下～20 歳代・70 歳以上が少ない。
- ・ 「自分が参加しやすい時間に活動していない」は男性 19 歳以下・30～50 歳代が多く、女性は年齢が上がるにつれて少なくなっている。
- ・ 「参加する方法が分からない」は男性 20・50 歳代が多い。

#### (居住地別)

- ・ 「世話役等の負担が重い、重そう」「参加するきっかけがない」は中央地区が少ない。
- ・ 「健康上の理由」は園田地区が少ない。

#### (職業別)

- ・ 「世話役等の負担が重い、重そう」は自営業、家事専業が多い。
- ・ 「自分が参加しやすい時間に活動していない」は会社等勤務、自営業、自由業、技術職、大学生・専門学校生、中学・高校生が多い。

図表 6-9 「参加を控えたい」「参加したくない」理由(属性別)

(単位：%)

		い世話役等の負担が重 い、重そう	間自分が活動して いない、やすい時	な知りの合 いがない、少 い	味興味・関 心がない、興 味	い参加する きっかけが ない	い人間関係 がわずらわ しい	健康上の理由	な参加する 方法が分 からない	その他	無回答	
全体		N = 1,302	25.7	22.7	21.2	20.7	20.4	19.0	17.1	6.5	6.9	5.2
男性・ 年齢別	男性全体	N = 536	23.5	25.7	21.5	22.8	21.6	20.0	14.7	7.8	5.8	5.2
	男性19歳以下	N = 21	14.3	33.3	19.0	47.6	33.3	4.8	4.8	4.8	9.5	4.8
	男性20歳代	N = 61	16.4	26.2	23.0	32.8	34.4	14.8	0.0	16.4	0.0	3.3
	男性30歳代	N = 95	27.4	42.1	28.4	20.0	27.4	15.8	2.1	6.3	7.4	5.3
	男性40歳代	N = 74	21.6	36.5	20.3	25.7	16.2	18.9	5.4	4.1	9.5	6.8
	男性50歳代	N = 90	33.3	28.9	24.4	15.6	17.8	25.6	7.8	12.2	4.4	4.4
	男性60歳代	N = 119	23.5	12.6	16.0	23.5	20.2	26.1	22.7	5.9	5.9	6.7
男性70歳以上	N = 76	17.1	9.2	18.4	15.8	13.2	18.4	50.0	5.3	5.3	3.9	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 682	27.4	20.5	20.7	19.8	19.9	17.4	18.5	5.0	8.4	4.8
	女性19歳以下	N = 17	5.9	35.3	5.9	41.2	35.3	17.6	0.0	5.9	5.9	0.0
	女性20歳代	N = 62	17.7	24.2	25.8	29.0	32.3	16.1	1.6	6.5	0.0	9.7
	女性30歳代	N = 133	32.3	23.3	30.8	24.1	18.0	12.0	1.5	7.5	12.8	3.0
	女性40歳代	N = 106	34.0	20.8	25.5	17.9	19.8	17.9	5.7	5.7	11.3	4.7
	女性50歳代	N = 113	34.5	22.1	15.0	22.1	18.6	22.1	19.5	2.7	5.3	3.5
	女性60歳代	N = 145	29.7	19.3	16.6	14.5	22.8	22.8	22.8	3.4	4.8	6.2
女性70歳以上	N = 106	13.2	12.3	14.2	12.3	10.4	12.3	58.5	4.7	13.2	4.7	
居住 地別	中央地区	N = 122	20.5	20.5	19.7	25.4	11.5	15.6	21.3	4.1	10.7	7.4
	小田地区	N = 200	28.5	20.0	23.0	16.5	23.0	23.5	20.0	5.0	8.5	2.5
	大庄地区	N = 142	23.2	25.4	23.2	22.5	18.3	18.3	20.4	4.9	5.6	5.6
	立花地区	N = 307	27.7	24.1	18.2	18.2	21.5	17.6	19.5	4.2	7.5	5.5
	武庫地区	N = 209	23.0	22.5	20.1	21.5	23.4	21.5	13.4	9.1	5.7	4.8
	園田地区	N = 255	28.6	24.7	21.6	22.4	20.0	16.1	10.6	10.6	5.1	5.9
職業 別	農業	N = 2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	会社等勤務(会社員、 公務員、教員、団体職 員など)	N = 380	27.4	33.9	25.0	22.4	20.3	17.9	3.9	7.9	6.8	4.5
	自営業(家族従業員も 含む)	N = 74	32.4	31.1	17.6	13.5	23.0	18.9	13.5	5.4	10.8	4.1
	自由業(開業医・弁護 士・芸術家など)	N = 9	22.2	44.4	0.0	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0
	技術職(大工・とび職 など)	N = 25	12.0	44.0	24.0	24.0	24.0	28.0	4.0	8.0	0.0	4.0
	パート・アルバイト・ 派遣社員等	N = 192	26.0	21.4	21.9	21.9	21.4	23.4	9.4	6.3	5.7	7.3
	家事専業(主婦、主 夫、家事手伝い)	N = 191	34.0	13.1	22.0	15.7	25.1	14.1	22.5	4.7	10.5	4.2
	大学生・専門学校生	N = 25	8.0	28.0	4.0	40.0	28.0	8.0	0.0	4.0	0.0	20.0
	中学・高校生	N = 24	16.7	33.3	12.5	33.3	41.7	12.5	0.0	4.2	12.5	0.0
	無職	N = 299	19.7	10.0	17.4	20.4	13.4	20.4	40.5	5.7	4.7	5.4
その他	N = 31	19.4	22.6	19.4	16.1	29.0	25.8	9.7	6.5	16.1	3.2	

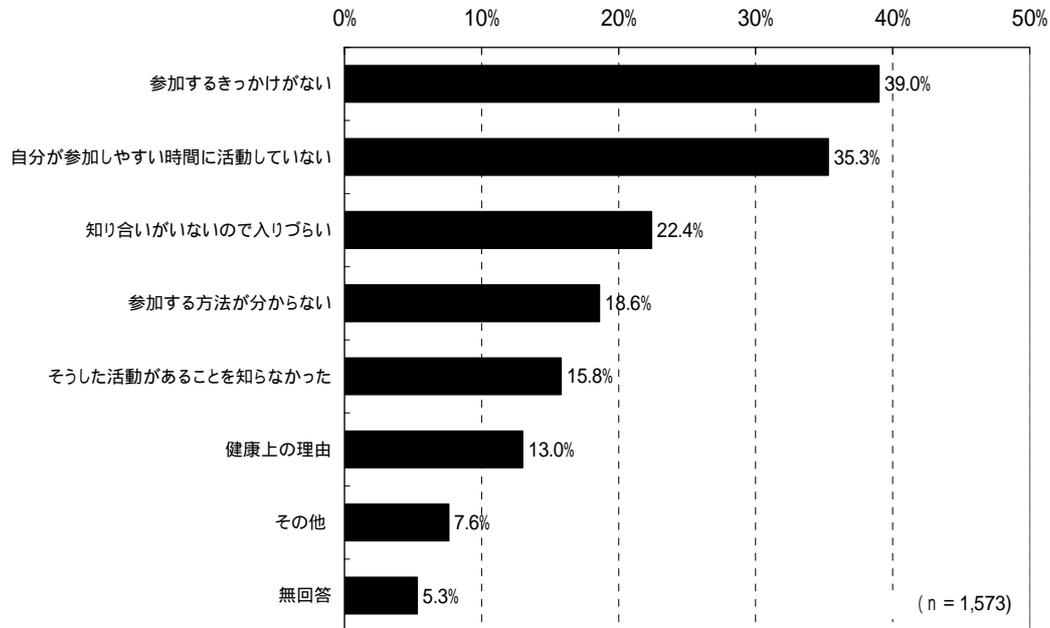
(注1) 問 18 で1つでも「参加を控えたい」または「参加したくない」と答えた者のみ回答。

(注2) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以下下回る値を**斜体字**で表している。

## 参加意向がありながら不参加の理由

- ・ 地域活動に「参加していないが、できれば参加したい」回答者が参加していない理由は「参加するきっかけがない」(39.0%)が最も多い。

図表 6-10 参加したいにも関わらず参加していない理由



(注)問 18 で1つでも「参加していないが、できれば参加したい」と答えた者のみ回答。

### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- ・ 「参加するきっかけがない」は男性 19 歳以下～20 歳代、女性 20・40 歳代が多い。
- ・ 「自分が参加しやすい時間に活動していない」は男性 30～50 歳代、女性 19 歳以下・30・40 歳代が多い。
- ・ 男女 70 歳以上は「健康上の理由」が多く、その他は少ない。

#### (居住地別)

- ・ 「参加するきっかけがない」は中央地区が少ない。
- ・ 「自分が参加しやすい時間に活動していない」は中央地区が多く、武庫地区が少ない。
- ・ 「参加する方法が分からない」「そうした活動があることを知らなかった」は武庫地区が多い。

#### (職業別)

- ・ 「参加するきっかけがない」は自由業、パート・アルバイト・派遣社員等が多い。
- ・ 「自分が参加しやすい時間に活動していない」は農業、会社等勤務、自営業、自由業、技術職、中学・高校生が多い。

図表 6-11 参加したいにも関わらず参加していない理由(属性別)

(単位：%)

		間 自 分 に 活 動 が 参 加 し て い や す い 時	入 知 り 合 い が い な い の で	な 参 加 す る 方 法 が 分 か ら	い 参 加 す る き つ か け が な	と そ う し た 活 動 が あ る こ と を 知 ら な か つ た	健 康 上 の 理 由	そ の 他	無 回 答	
全体		N = 1,573	35.3	22.4	18.6	39.0	15.8	13.0	7.6	5.3
男性・ 年齢別	男性全体	N = 656	36.7	21.3	19.2	40.4	17.7	11.9	5.5	5.8
	男性19歳以下	N = 22	36.4	18.2	18.2	<b>50.0</b>	13.6	<i>0.0</i>	<b>18.2</b>	4.5
	男性20歳代	N = 58	32.8	25.9	22.4	<b>50.0</b>	19.0	<i>0.0</i>	5.2	5.2
	男性30歳代	N = 115	<b>42.6</b>	22.6	20.0	39.1	<b>23.5</b>	3.5	3.5	7.0
	男性40歳代	N = 90	<b>50.0</b>	21.1	15.6	38.9	18.9	<i>4.4</i>	8.9	4.4
	男性50歳代	N = 116	<b>47.4</b>	<i>15.5</i>	<b>25.0</b>	42.2	15.5	8.6	6.0	5.2
	男性60歳代	N = 160	<i>30.0</i>	23.8	15.6	41.9	15.0	16.3	5.0	6.3
男性70歳以上	N = 95	<i>17.9</i>	21.1	18.9	<i>30.5</i>	16.8	<b>35.8</b>	<i>2.7</i>	6.3	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 805	34.5	23.4	17.6	37.6	14.9	12.9	9.1	5.0
	女性19歳以下	N = 20	<b>55.0</b>	<i>15.0</i>	<b>30.0</b>	<i>25.0</i>	20.0	<i>0.0</i>	5.0	<i>0.0</i>
	女性20歳代	N = 81	<i>27.2</i>	24.7	23.5	<b>45.7</b>	<b>25.9</b>	<i>0.0</i>	8.6	3.7
	女性30歳代	N = 161	<b>41.6</b>	<b>29.2</b>	23.0	41.0	20.5	1.2	8.1	1.2
	女性40歳代	N = 128	<b>41.4</b>	27.3	18.8	<b>46.1</b>	14.8	<i>2.3</i>	10.2	0.8
	女性50歳代	N = 140	37.1	25.7	13.6	35.7	13.6	14.3	11.4	5.0
	女性60歳代	N = 172	33.1	18.6	15.1	34.9	<i>9.3</i>	17.4	9.3	6.4
女性70歳以上	N = 103	<i>15.5</i>	<i>14.6</i>	<i>10.7</i>	<i>25.2</i>	<i>7.8</i>	<b>47.6</b>	6.8	<b>15.5</b>	
居住地別	中央地区	N = 143	<b>42.7</b>	23.1	18.9	<i>32.9</i>	13.3	13.3	5.6	4.9
	小田地区	N = 234	34.6	26.5	15.0	39.3	12.0	17.1	8.5	6.0
	大庄地区	N = 174	33.3	26.4	16.1	38.5	12.6	16.1	6.3	5.7
	立花地区	N = 353	38.2	20.4	16.4	36.3	14.2	15.0	9.1	5.4
	武庫地区	N = 256	<i>27.3</i>	23.8	<b>24.2</b>	39.1	<b>23.4</b>	8.6	7.0	6.6
	圃田地区	N = 334	35.9	20.4	20.7	43.7	18.0	9.3	7.2	3.3
職業別	農業	N = 7	<b>42.9</b>	<i>0.0</i>	<i>0.0</i>	<i>28.6</i>	14.3	14.3	<i>0.0</i>	<b>28.6</b>
	会社等勤務(会社員、 公務員、教員、団体職員 など)	N = 472	<b>47.7</b>	21.6	19.1	41.3	17.2	<i>3.6</i>	7.6	4.0
	自営業(家族従業員も 含む)	N = 109	<b>44.0</b>	<i>13.8</i>	18.3	<i>31.2</i>	12.8	11.0	8.3	8.3
	自由業(開業医・弁護 士・芸術家など)	N = 12	<b>75.0</b>	<i>0.0</i>	<i>0.0</i>	<b>50.0</b>	16.7	<i>0.0</i>	<i>0.0</i>	8.3
	技術職(大工・とび職 など)	N = 27	<b>48.1</b>	<b>29.6</b>	18.5	37.0	<b>29.6</b>	<i>3.7</i>	<i>0.0</i>	3.7
	パート・アルバイト・ 派遣社員等	N = 220	38.6	24.5	19.1	<b>45.9</b>	15.0	<i>5.5</i>	5.0	4.5
	家事専業(主婦、主 夫、家事手伝い)	N = 243	<i>22.6</i>	26.7	18.1	39.1	15.2	17.3	12.3	5.3
	大学生・専門学校生	N = 26	38.5	23.1	19.2	42.3	<b>23.1</b>	<i>0.0</i>	<i>0.0</i>	7.7
	中学・高校生	N = 30	<b>43.3</b>	20.0	16.7	36.7	13.3	<i>0.0</i>	<b>16.7</b>	3.3
	無職	N = 322	<i>17.4</i>	22.4	18.0	<i>33.2</i>	15.2	<b>30.7</b>	5.0	7.1
	その他	N = 38	34.2	18.4	<b>23.7</b>	<b>44.7</b>	13.2	<b>18.4</b>	<b>18.4</b>	<i>0.0</i>
職業不明	N = 67	38.8	26.9	20.9	37.3	13.4	<b>19.4</b>	9.0	4.5	

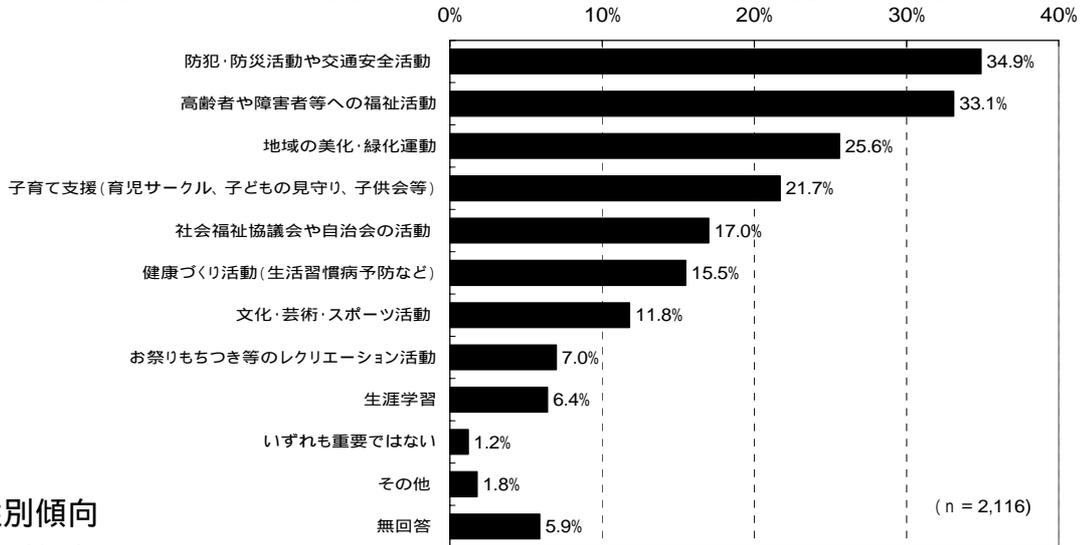
(注1) 問18で1つでも「参加していないが、できれば参加したい」と答えた者のみ回答。

(注2) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以下下回る値を*斜体字*で表している。

## 良いまちづくりのための地域活動（問 21、2 つ以内で回答）

・ 尼崎市をより良いまちにするために重要だと思われる地域活動についてみると、「防犯・防災活動や交通安全活動」（34.9%）が最も多く、「高齢者や障害者等への福祉活動」（33.1%）が次に多い。

図表 6-12 尼崎市をより良いまちにするために重視すべき活動



### 属性別傾向

#### （性・年齢別）

- ・ 「防犯・防災活動や交通安全活動」は男性 20～30 歳代が多い。
- ・ 「高齢者や障害者等への福祉活動」は男女 50 歳代・70 歳以上が多く、男性 19 歳以下、男女 20～30 歳代が少ない。

#### （居住地別）

- ・ 「防犯・防災活動や交通安全活動」「高齢者や障害者等への福祉活動」は大庄地区が多い。

図表 6-13 尼崎市をより良いまちにするために重視すべき活動(属性別) (単位: %)

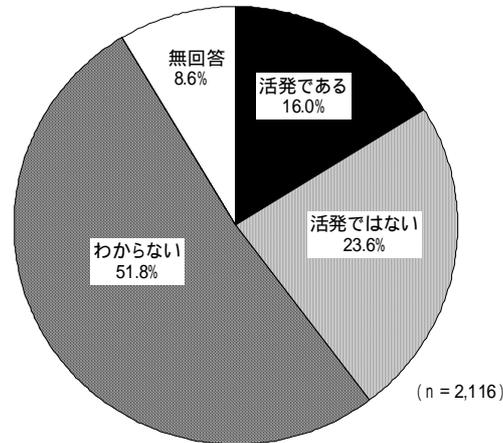
		安 防 活 動	高 齢 者 や 障 害 者 等 へ の 福 祉 活 動	地 域 の 美 化 ・ 緑 化 運 動	リ ク ル 子 育 て 支 援 ( 育 児 サ ー ク ル 、 子 供 会 等 )	会 社 会 福 祉 協 議 会 や 自 治 会 の 活 動	健 康 づ き り 活 動 ( 生 活 習 慣 病 予 防 な ど )	活 文 化 ・ 芸 術 ・ ス ポ ー ツ 活 動	ク お 祭 り も ち つ き 等 の レ クリエーション活動	生 涯 学 習	い ず れ も 重 要 で は な い	そ の 他	無 回 答	
全体		N = 2,116	34.9	33.1	25.6	21.7	17.0	15.5	11.8	7.0	6.4	1.2	1.8	5.9
男性・年齢別	男性全体	N = 850	35.9	31.5	26.7	19.8	18.0	15.2	14.8	7.9	6.0	1.6	2.0	4.5
	男性19歳以下	N = 29	31.0	17.2	41.4	10.3	20.7	17.2	27.6	6.9	0.0	3.4	0.0	0.0
	男性20歳代	N = 76	40.8	26.3	30.3	26.3	10.5	7.9	11.8	19.7	2.6	0.0	0.0	2.6
	男性30歳代	N = 138	43.5	22.5	31.9	40.6	10.1	8.7	10.9	13.8	5.8	0.7	2.2	1.4
	男性40歳代	N = 113	32.7	29.2	21.2	23.0	17.7	9.7	15.9	11.5	6.2	6.2	3.5	3.5
	男性50歳代	N = 139	36.7	38.8	27.3	14.4	15.8	15.8	21.6	6.5	9.4	2.9	2.9	2.2
	男性60歳代	N = 202	32.7	32.2	25.2	18.3	18.3	18.8	16.8	4.0	8.4	0.0	2.0	5.4
男性70歳以上	N = 153	33.3	39.2	22.9	3.9	30.1	22.9	7.8	0.7	2.6	0.7	1.3	10.5	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	35.6	34.1	25.8	23.9	15.6	15.6	9.3	6.3	6.6	1.1	1.7	5.9
	女性19歳以下	N = 29	34.5	34.5	41.4	24.1	10.3	6.9	10.3	20.7	0.0	0.0	0.0	6.9
	女性20歳代	N = 93	39.8	24.7	35.5	45.2	8.6	8.6	6.5	14.0	2.2	1.1	0.0	2.2
	女性30歳代	N = 186	38.7	19.4	29.0	46.2	11.3	7.0	11.8	10.8	1.1	2.2	2.2	3.2
	女性40歳代	N = 157	36.3	29.9	29.9	20.4	12.1	13.4	11.5	8.3	8.3	0.6	2.5	3.8
	女性50歳代	N = 176	35.8	40.3	20.5	15.9	17.6	17.6	15.3	4.0	11.9	0.0	1.7	2.8
	女性60歳代	N = 231	34.2	38.1	23.4	19.5	15.6	20.8	7.8	1.7	10.0	0.9	0.9	6.9
女性70歳以上	N = 219	32.0	44.3	20.5	9.6	23.7	21.5	3.7	2.7	5.0	1.8	2.7	12.3	
居住地別	中央地区	N = 200	34.5	31.0	24.5	23.5	18.0	14.5	10.5	7.5	6.0	1.0	1.0	8.0
	小田地区	N = 327	33.6	35.5	29.4	18.0	18.7	16.5	11.6	5.2	5.8	0.9	2.1	5.5
	大庄地区	N = 231	40.3	40.7	25.5	19.9	18.6	14.3	11.3	8.7	5.2	0.4	0.4	3.5
	立花地区	N = 472	33.1	35.2	24.6	22.5	16.7	15.9	12.1	6.6	6.8	1.7	2.3	5.3
	武庫地区	N = 339	35.4	26.0	27.4	24.5	15.9	13.6	13.6	6.8	6.8	1.8	1.2	5.6
	園田地区	N = 424	34.7	31.1	25.0	22.6	15.6	17.0	10.8	8.3	6.8	1.2	2.1	5.9

(注) 全体の割合を5%以上上回る値を白抜き、5%以上下回る値を斜体字で表している。

## 居住地域の地域活動（問 22）

- ・ 地域活動が活発だと思うかについてみると、「活発である」が 16.0%、「活発ではない」が 23.6%である。

図表 6-14 居住地域の地域活動



図表 6-15 居住地域の地域活動(属性別) (単位:%)

### 属性別傾向

#### (性・年齢別)

- ・ 「活発である」は女性 50～70 歳以上が多く、男性 19 歳以下～20 歳代・50 歳代、女性 20 歳代が少ない。
- ・ 「活発ではない」は男性 20・50・60 歳代が多く、女性 70 歳以上が少ない。

#### (居住地別)

- ・ 武庫地区は「活発である」が少なく、「活発ではない」が多い。

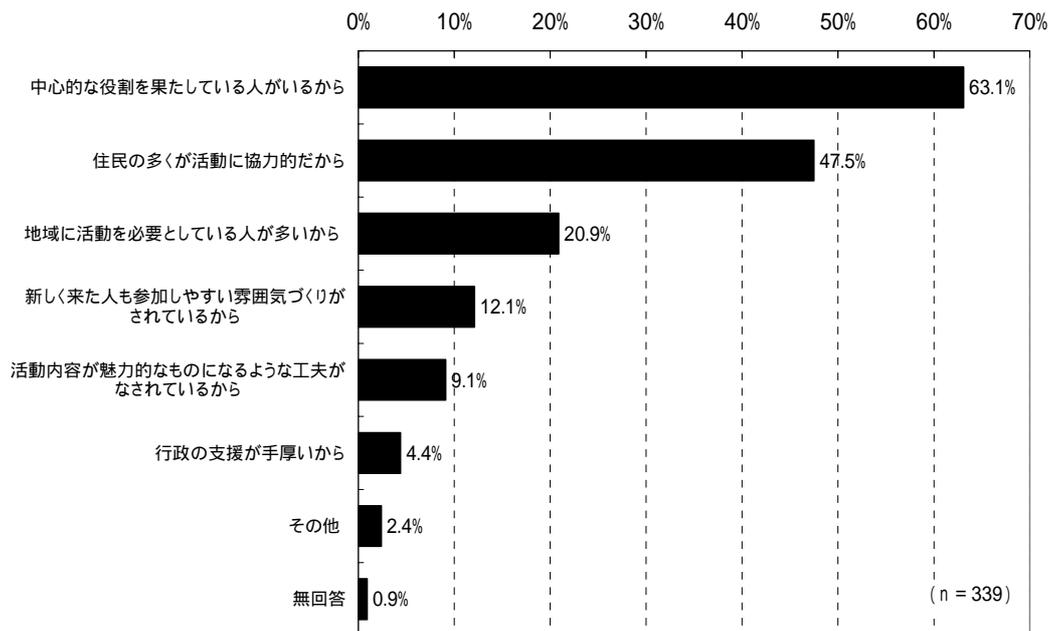
		活発である	活発ではない	わからない	無回答	
全体		N = 2,116	16.0	23.6	51.8	8.6
男性・年齢別	男性全体	N = 850	14.6	<b>29.4</b>	52.5	3.5
	男性19歳以下	N = 29	<i>10.3</i>	24.1	<b>65.5</b>	0.0
	男性20歳代	N = 76	<i>5.3</i>	<b>32.9</b>	<b>60.5</b>	1.3
	男性30歳代	N = 138	15.2	28.3	55.1	1.4
	男性40歳代	N = 113	18.6	23.9	55.8	1.8
	男性50歳代	N = 139	<i>10.8</i>	<b>36.0</b>	52.5	0.7
	男性60歳代	N = 202	13.9	<b>33.2</b>	49.5	3.5
男性70歳以上	N = 153	20.9	22.9	<i>45.1</i>	11.1	
女性・年齢別	女性全体	N = 1,091	18.2	21.2	54.8	5.8
	女性19歳以下	N = 29	20.7	24.1	55.2	0.0
	女性20歳代	N = 93	<i>10.8</i>	26.9	<b>61.3</b>	1.1
	女性30歳代	N = 186	11.8	25.8	<b>62.4</b>	0.0
	女性40歳代	N = 157	15.3	20.4	<b>62.4</b>	1.9
	女性50歳代	N = 176	<b>21.6</b>	20.5	54.5	3.4
	女性60歳代	N = 231	<b>22.5</b>	21.6	50.2	5.6
女性70歳以上	N = 219	<b>21.5</b>	<i>15.1</i>	<i>45.2</i>	18.3	
居住地別	中央地区	N = 200	15.5	24.0	54.5	6.0
	小田地区	N = 327	14.4	22.0	55.7	8.0
	大庄地区	N = 231	19.5	23.8	48.1	8.7
	立花地区	N = 472	19.5	22.7	50.6	7.2
	武庫地区	N = 339	<i>10.3</i>	<b>29.5</b>	51.6	8.6
	園田地区	N = 424	16.7	24.1	50.7	8.5

(注) 全体の割合を 5%以上上回る値を**白抜字**、5%以上下回る値を*斜体字*で表している。

## 地域活動が活発である理由（問 23、 2 つ以内で回答）

- ・ 地域活動が活発である理由についてみると、「中心的な役割を果たしている人がいるから」（63.1%）が最も多く、「住民の多くが活動に協力的だから」（47.5%）が次に多い。

図表 6-16 地域活動が活発である理由



（注）問 22 で「活発である」と答えた者のみ回答。

属性別傾向（地域活動が活発である理由）

（性・年齢別）

- ・「中心的な役割を果たしている人がいるから」は男性 70 歳以上、女性 50 歳代が多く、男性 20～40・60 歳代、女性 19 歳以下～20 歳代・40 歳代が少ない。
- ・「住民の多くが活動に協力的だから」は男性 19 歳以下・50～60 歳代、女性 30 歳代、70 歳以上が多く、男性 20・40 歳代、女性 19 歳以下～20 歳代・50 歳代が少ない。
- ・「行政の支援が手厚いから」は男性 70 歳以上、女性 20 歳代が多い。

（居住地別）

- ・「中心的な役割を果たしている人がいるから」は大庄地区が多く、武庫地区が少ない。
- ・「住民の多くが活動に協力的だから」は武庫地区が多く、中央地区が少ない。

図表 6-17 地域活動が活発である理由(属性別)

(単位：%)

		て中心 的 な 人 が い る か ら	力 住 民 的 だ か ら	て地 域 に い る 人 が 多 い か ら	さ や 新 し く 来 た 人 も 参 加 し て い る か ら	な の 活 動 内 容 が 魅 力 的 な 工 夫 が な さ れ て い る か ら	ら 行 政 の 支 援 が 手 厚 い か ら	そ の 他	無 回 答	
全体	N = 339	63.1	47.5	20.9	12.1	9.1	4.4	2.4	0.9	
男性・ 年齢別	男性全体	N = 124	59.7	49.2	19.4	13.7	10.5	4.8	3.2	0.8
	男性19歳以下	N = 3	66.7	<b>66.7</b>	0.0	0.0	<b>33.3</b>	0.0	0.0	0.0
	男性20歳代	N = 4	50.0	25.0	0.0	<b>25.0</b>	<b>25.0</b>	0.0	0.0	0.0
	男性30歳代	N = 21	47.6	42.9	<b>28.6</b>	14.3	9.5	0.0	0.0	0.0
	男性40歳代	N = 21	57.1	38.1	19.0	4.8	9.5	4.8	<b>9.5</b>	0.0
	男性50歳代	N = 15	66.7	<b>53.3</b>	<b>26.7</b>	6.7	0.0	0.0	<b>13.3</b>	0.0
	男性60歳代	N = 28	57.1	<b>60.7</b>	21.4	<b>25.0</b>	10.7	0.0	0.0	0.0
男性70歳以上	N = 32	<b>68.8</b>	50.0	12.5	12.5	12.5	<b>15.6</b>	0.0	3.1	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 199	64.3	45.7	22.1	11.6	7.5	4.5	2.0	1.0
	女性19歳以下	N = 6	50.0	0.0	<b>33.3</b>	16.7	<b>16.7</b>	0.0	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 10	50.0	40.0	10.0	10.0	0.0	<b>10.0</b>	0.0	0.0
	女性30歳代	N = 22	59.1	<b>59.1</b>	13.6	<b>18.2</b>	0.0	0.0	4.5	0.0
	女性40歳代	N = 24	54.2	50.0	12.5	12.5	12.5	0.0	<b>8.3</b>	4.2
	女性50歳代	N = 38	<b>73.7</b>	31.6	18.4	15.8	5.3	5.3	2.6	0.0
	女性60歳代	N = 52	67.3	48.1	<b>36.5</b>	3.8	5.8	5.8	0.0	0.0
女性70歳以上	N = 47	66.0	<b>53.2</b>	19.1	12.8	12.8	6.4	0.0	2.1	
居住地別	中央地区	N = 31	64.5	35.5	16.1	16.1	12.9	<b>9.7</b>	0.0	0.0
	小田地区	N = 47	66.0	46.8	<b>27.7</b>	8.5	6.4	0.0	6.4	0.0
	大庄地区	N = 45	<b>71.1</b>	51.1	20.0	6.7	11.1	0.0	0.0	0.0
	立花地区	N = 92	64.1	47.8	20.7	13.0	6.5	3.3	2.2	0.0
	武庫地区	N = 35	57.1	<b>60.0</b>	5.7	<b>22.9</b>	11.4	8.6	2.9	2.9
	園田地区	N = 71	64.8	46.5	25.4	9.9	8.5	8.5	1.4	0.0

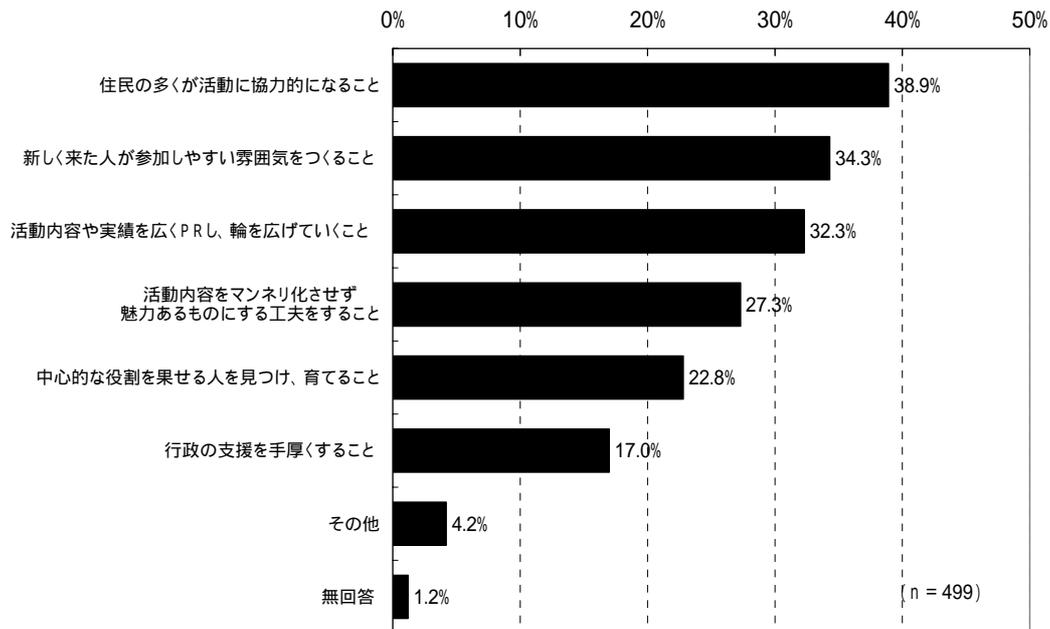
(注1) 問 22 で「活発である」と答えた者のみ回答。

(注2) 全体の割合を5%以上上回る値を**白抜き**、5%以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 地域活動を活発にする方法（問 24、2 つ以内で回答）

- ・ 地域活動を活発にする方法は、「住民の多くが活動に協力的になること」（38.9%）が最も多く、「新しく来た人が参加しやすい雰囲気をつくること」（34.3%）が次に多い。

図表 6-18 地域活動を活発にする方法



(注) 問 22 で「活発ではない」と答えた者のみ回答。

属性別傾向（地域活動を活発にする方法）

（性・年齢別）

- ・「住民の多くが活動に協力的になること」は男性 60 歳代、女性 20 歳代・70 歳以上が多く、男性 40～50 歳代、女性 40 歳代が少ない。
- ・「新しく来た人が参加しやすい雰囲気をつくること」は男性 20 歳代、女性 20～40 歳代が多く、男性 19 歳以下・70 歳以上、女性 19 歳以下・50～70 歳以上が少ない。
- ・「行政の支援を手厚くすること」は男性 70 歳以上、女性 40 歳代が多く、男性 40 歳代・女性 20～30 歳代が少ない。

（居住地別）

- ・「住民の多くが活動に協力的になること」は大庄地区が多く、武庫地区が少ない。
- ・「新しく来た人が参加しやすい雰囲気をつくること」は園田地区が多く、武庫地区が少ない。

図表 6-19 地域活動を活発にする方法(属性別)

(単位：%)

		住民の多くが活動に協力的になること	新しく来た人が参加しやすい雰囲気をつくること	PR活動内容や輪を広く展開すること	活動内容をマンネリ化させず工夫をすること	人を見つけた役割を果せること	行政の支援を手厚くすること	その他	無回答	
全体		N = 499	38.9	34.3	32.3	27.3	22.8	17.0	4.2	1.2
男性・年齢別	男性全体	N = 250	39.2	35.2	30.0	28.4	24.4	19.2	4.8	1.2
	男性19歳以下	N = 7	42.9	<i>14.3</i>	28.6	<b>42.9</b>	<i>0.0</i>	14.3	0.0	0.0
	男性20歳代	N = 25	40.0	<b>48.0</b>	36.0	<b>44.0</b>	<i>12.0</i>	16.0	0.0	0.0
	男性30歳代	N = 39	38.5	38.5	30.8	<i>20.5</i>	<i>10.3</i>	20.5	5.1	0.0
	男性40歳代	N = 27	<i>29.6</i>	37.0	22.2	<b>44.4</b>	22.2	<i>11.1</i>	7.4	3.7
	男性50歳代	N = 50	<i>30.0</i>	36.0	<b>36.0</b>	30.0	<b>36.0</b>	20.0	8.0	0.0
	男性60歳代	N = 67	<b>49.3</b>	34.3	29.9	26.9	19.4	19.4	3.0	1.5
男性70歳以上	N = 35	40.0	<i>25.7</i>	<i>20.0</i>	<i>11.4</i>	<b>48.6</b>	<b>25.7</b>	5.7	2.9	
女性・年齢別	女性全体	N = 231	39.0	34.6	34.2	25.5	20.8	14.3	3.9	0.9
	女性19歳以下	N = 7	42.9	<i>28.6</i>	<b>57.1</b>	28.6	<i>0.0</i>	14.3	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 25	<b>44.0</b>	<b>48.0</b>	36.0	24.0	<i>12.0</i>	<i>8.0</i>	4.0	0.0
	女性30歳代	N = 48	39.6	<b>43.8</b>	<b>41.7</b>	<i>16.7</i>	18.8	<i>8.3</i>	2.1	0.0
	女性40歳代	N = 32	<i>21.9</i>	<b>46.9</b>	<b>37.5</b>	25.0	<i>12.5</i>	<b>28.1</b>	0.0	3.1
	女性50歳代	N = 36	38.9	<i>25.0</i>	30.6	<b>38.9</b>	<i>16.7</i>	13.9	8.3	0.0
	女性60歳代	N = 50	40.0	<i>24.0</i>	30.0	30.0	<b>28.0</b>	12.0	8.0	0.0
女性70歳以上	N = 33	<b>48.5</b>	<i>27.3</i>	<i>24.2</i>	<i>18.2</i>	<b>36.4</b>	18.2	0.0	3.0	
居住地別	中央地区	N = 48	39.6	35.4	31.3	22.9	<b>29.2</b>	16.7	4.2	0.0
	小田地区	N = 72	41.7	38.9	31.9	23.6	23.6	16.7	5.6	0.0
	大庄地区	N = 55	<b>45.5</b>	30.9	32.7	<i>21.8</i>	21.8	<i>10.9</i>	5.5	0.0
	立花地区	N = 107	37.4	31.8	32.7	31.8	24.3	15.0	3.7	1.9
	武庫地区	N = 100	<i>32.0</i>	<i>29.0</i>	36.0	29.0	27.0	20.0	3.0	2.0
	園田地区	N = 102	42.2	<b>40.2</b>	30.4	29.4	<i>13.7</i>	18.6	3.9	2.0

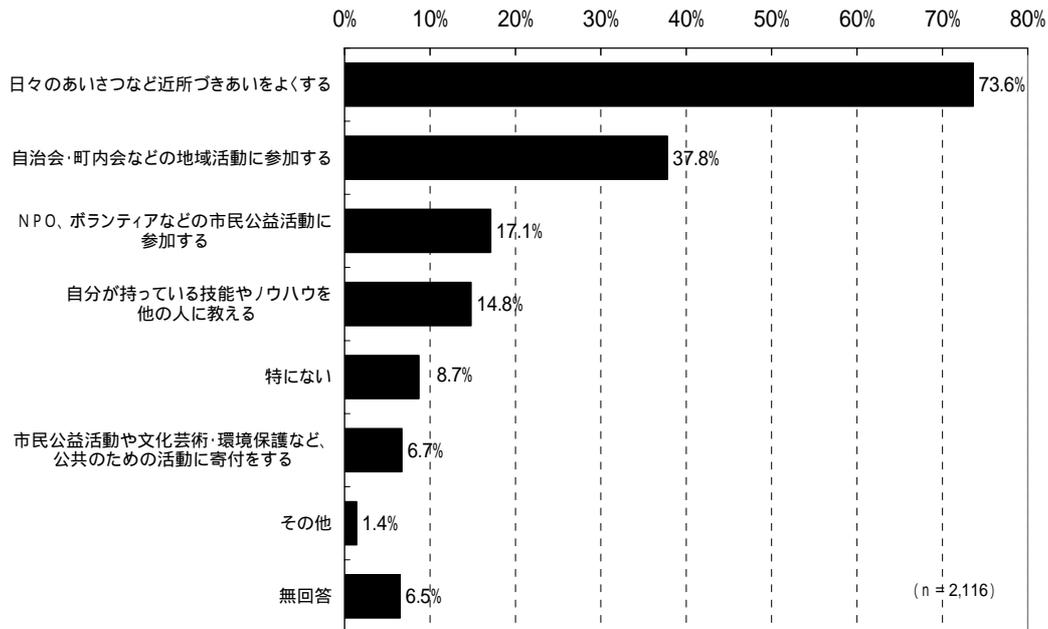
(注1) 問 22 で「活発ではない」と答えた者のみ回答。

(注2) 全体の割合を 5% 以上上回る値を**白抜字**、5% 以上下回る値を**斜体字**で表している。

## 市民自身の取組（問 25、複数回答）

・ 地域をよりよくするために、自分自身でできること・してみたいことをみると、「日々のあいさつなど近所づきあいをよくする」(73.6%)が最も多く、「自治会・町内会などの地域活動に参加する」(37.8%)が次に多い。

図表 6-20 自身の地域をより良くするための取組



図表 6-21 自身の地域をより良くするための取組(属性別) (単位:%)

### 属性別傾向 (性・年齢別)

- ・ 「日々のあいさつなど近所づきあいをよくする」は女性 20～30 歳代・50～70 歳以上が多く、男性 20 歳代が少ない。
- ・ 「自治会・町内会などの地域活動に参加する」は男性 60～70 歳以上、女性 30 歳代・50～60 歳代が多く、男性 19 歳以下～20 歳代、女性 40 歳代は少ない。

		所 日 づ き あ い を よ く す る	地 域 活 動 ・ 町 内 会 な ど の	参 加 す る N P O 、 ボ ラ ン テ ィ ア な ど の	教 え る 自 分 が 持 っ て い る 技 能 や ノ ウ ハ ウ	特 に な い	を 共 同 に 行 う た め に の 活 動 に 寄 付 す る	市 民 公 益 活 動 な ど の	そ の 他	無 回 答
全体		N = 2,116	73.6	37.8	17.1	14.8	8.7	6.7	1.4	6.5
男性・ 年齢別	男性全体	N = 850	74.0	38.9	17.9	19.3	9.2	8.0	1.2	2.4
	男性19歳代	N = 29	69.0	31.0	10.3	13.8	20.7	13.8	0.0	0.0
	男性20歳代	N = 76	65.8	28.9	11.8	14.5	18.4	5.3	0.0	1.3
	男性30歳代	N = 138	77.5	34.8	13.0	13.0	8.7	10.1	3.6	0.7
	男性40歳代	N = 113	72.6	34.5	16.8	29.2	9.7	5.3	0.9	0.9
	男性50歳代	N = 139	73.4	38.1	26.6	27.3	8.6	12.2	2.2	2.2
	男性60歳代	N = 202	74.8	43.1	23.8	20.8	6.4	6.9	0.5	3.0
男性70歳以上	N = 153	76.5	47.7	11.8	11.8	6.5	5.9	0.0	5.2	
女性・ 年齢別	女性全体	N = 1,091	79.0	40.5	18.2	12.6	8.8	6.4	1.7	2.8
	女性19歳以下	N = 29	72.4	34.5	24.1	17.2	10.3	10.3	0.0	0.0
	女性20歳代	N = 93	80.6	39.8	22.6	10.8	5.4	3.2	2.2	1.1
	女性30歳代	N = 186	81.2	43.0	22.0	14.5	6.5	7.0	1.1	0.0
	女性40歳代	N = 157	72.6	29.9	14.0	10.2	12.1	7.6	5.1	1.9
	女性50歳代	N = 176	79.5	43.8	26.1	13.6	7.4	6.3	1.7	2.8
	女性60歳代	N = 231	80.5	45.0	16.9	15.2	10.0	6.1	0.9	3.0
女性70歳以上	N = 219	79.9	39.7	10.5	9.6	9.6	6.4	0.9	6.8	

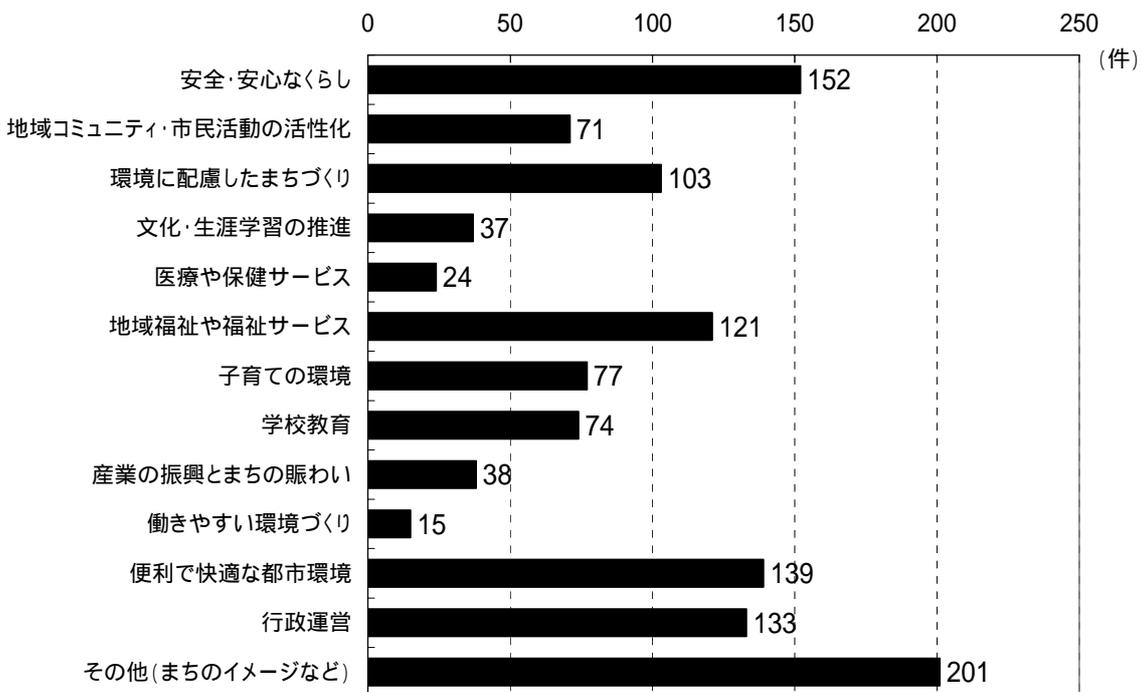
(注)全体の割合を5%以上上回る値を**白抜字**、5%以下回る値を**斜体字**で表している。

## 7. 自由意見・提言

自由意見・提言については有効回答数全体の39.0%にあたる826通に回答があった。主な意見を分野別に整理して掲載する。また、回答が言及している分野について、言及数を集計している。複数分野に渡る回答は、該当分野すべてについてそれぞれ集計している。そのため、言及数と調査票回収数は一致しない。

- ・ 分野別にみると「安全・安心なくらし」「便利で快適な都市環境」に関する言及が多く、これらの分野が注目されている。また、まちのイメージなどに対する言及も多い。

図表 7-1 自由意見・提言の言及数(分野別)



### 安全・安心なくらし

#### (防犯対策)

- ・ 子どもたちをはじめ誰もが安心して暮らせるまちになるよう、防犯対策を進めていくべき。具体的には、パトロールの充実、街灯の整備。

#### (交通安全)

- ・ 横断歩道の不足や違法駐輪など、より交通面での安全性の確保。

## 地域コミュニティ・市民活動の活性化

### (市民活動)

- ・ 町内会や自治会といったコミュニティが存在しない、または存在していても参加しにくいと感じており、誰でも参加しやすい市民活動団体やサークルがほしい。
- ・ 市民活動がボランティアに依存しており、もっと行政からの支援が必要。

### (地域コミュニティの活性化)

- ・ マンションの建設が相次ぎ、近所付き合いが少なくなった。近所付き合いや地域情報が交換しやすいまちになればよい。

## 環境に配慮したまちづくり

### (公害対策)

- ・ かつての公害都市のイメージと比べて改善が進んでいるが、空気や悪臭を感じているため、改善を望む。

### (ごみ対策)

- ・ 道路や川などにおける美化活動の推進が必要。
- ・ ごみ袋の有料化がごみ減量の効果があったのか。

## 文化・生涯学習の推進

### (文化施設の充実)

- ・ 図書館数の増加や開架図書の充実、老朽化への対策などを求める。また、今後も公民館を存続してほしい。

### (レクリエーション)

- ・ 文化交流やスポーツ大会などのイベントが少ないので、もっと充実してほしい。
- ・ 休日に家族などでバーベキューなどの野外体験ができる場所がほしい。

### (歴史・文化)

- ・ 近松門左衛門のゆかりの地であることをはじめとして、名所・旧跡がたくさんあることを活かし、文化的な都市として観光客を誘致すべき。
- ・ 観光と併せて地域の物産などをアピールしたい。

## 医療や保健サービス

### (医療・保健)

- ・ 予防接種をはじめ、子ども医療費の補助、出産における金銭的な負担の軽減を求める。

## 地域福祉や福祉サービス

### (高齢者)

- ・ 高齢化社会に対応し、より高齢者に優しい社会を望む。具体的には、ベンチの増設や高齢者向け市営住宅の充実など。

### (福祉)

- ・ 子育てや母子家庭への支援等、対象を選定した福祉サービスが必要だ。

## 子育ての環境

### (子育てと就労)

- ・ 子どもを育てながら働く環境が整っていない。特に待機児童の解消や保育時間の延長が望む。

### (学校給食)

- ・ 中学校の給食がないことには不満がある。また、小学校給食を無償化してほしい。

## 学校教育

### (学力向上)

- ・ 学校教育へより力を注ぎ、児童・生徒全体の学力の向上を望む。

### (地域連携)

- ・ 学校教育（幼稚園、保育所含む）において、地域の人々と触れ合う時間を増やしていくのがよい。

## 産業の振興とまちの賑わい

### (商店街・中小企業振興)

- ・ 商店街の空き店舗をなくし、活性化を進めるべき。そのために市の助成によって空き店舗の活用を促進する、新規開店を容易にする。

## 働きやすい環境づくり

### (雇用機会)

- ・ 市が従来から持つ技術を維持していき、雇用の場所を増やしていく必要がある。

## 便利で快適な都市環境

### (道路・公園整備)

- ・ 市民の憩いの場となるような一定規模以上の公園の整備を望む。
- ・ 歩行者が安心できる道路の点検・整備を求める。

### (利便性)

- ・ 買い物には便利なまちだが、バスをはじめ公共機関の充実を望む。

### (都市景観)

- ・ 住みたいまちにするためには、より緑を増やし、景観を改善していく必要がある。

## 行政運営

### (歳出削減)

- ・ 事業仕分けや市議会議員定数削減、公共工事の見直しなどによる歳出の削減が必要。

### (市民の利便性向上)

- ・ 市報が読みにくい、情報発信が少ないため、市民が情報を入手しやすくなるような工夫が必要。

### (行政サービスの拡充)

- ・ 市役所の開所時間の延長、土日の開所など、窓口サービスの拡充を求める。

### (市職員)

- ・ 市政の目標などがわかりにくい。市民が関心を持つような情報公開、市職員が地域住民に積極的に働きかけるような取組を行ってほしい。

## その他（まちのイメージなど）

### (まちのイメージ)

- ・ 市外の人々からのイメージは非常に悪いため、市外への情報発信に取り組み、イメージの向上を図るべき。

### (モラル・マナー)

- ・ 住民のモラルやマナーが悪いので、改善が必要。

# 調查票



# 尼崎市まちづくりの計画のためのアンケート調査

ご協力をお願い

市民の皆様には、日ごろから、市政の推進にご協力をいただき、ありがとうございます。

尼崎市では、平成 12 年度に本市のまちづくりの方向を示した最上位の計画として策定した第 2 次基本計画によりまちづくりを進めています。

このたび、平成 25 年度（2013 年度）を新たなスタートとした新しい計画を策定することになりました。この計画は、少子高齢化の急速な進行や昨今の経済不況などにより、厳しい財政状況が続くなかで、よりよい尼崎をつくっていくための目標や新たな事業の進め方を示す大切なものとなります。

そこで、市民のみなさまが、生活環境や市政などについて、日ごろ感じておられることをお聞きし、新しいまちづくりの計画に反映するためにこの調査を行うものです。

お忙しい中、ご面倒とは存じますが、こうした調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう何卒よろしくお願ひいたします。

ぜひ、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

平成 22 年（2010 年）6 月

尼 崎 市

## 調査の扱い

この調査は、満 15 歳以上の市民の中から無作為に 4,500 人を選び、調査票をお送りしています。

無記名でお答えいただきますので、どなたのお答えか、わからないようになっていきます。あなた自身にご迷惑をおかけすることはいっさいございません。

お答えいただきました内容はすべて統計的に処理し、調査の目的以外に使用することはありません。

## 記入上の注意

調査票へのご記入はあて名の方ご本人にお願ひいたします。

アンケート用紙にも返信用封筒にもお名前を記入していただく必要はございません。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、7月9日(金)までにポストにお入れください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願ひいたします。

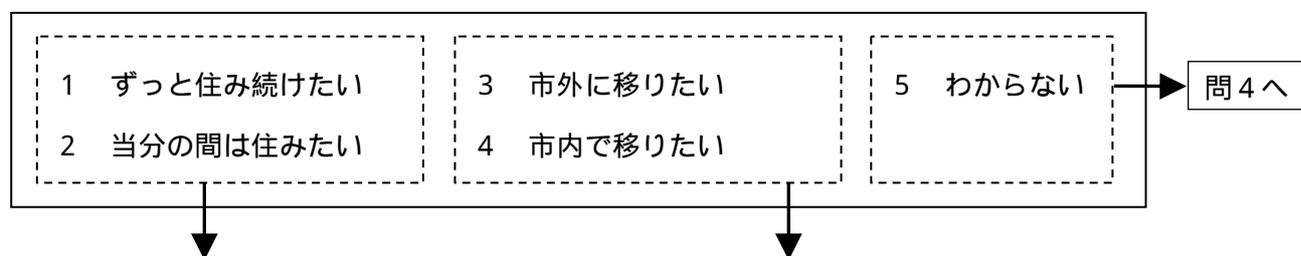
尼崎市役所 企画財政局都市政策課  
〒660-8501 尼崎市東七松町 1 丁目 2 3 番 1 号  
電話 (06) 6489-6147 (直通)

# 1. 尼崎への居住意向とイメージについておたずねします

問1 あなたが尼崎市に現在住んでいる理由は何ですか。次からあてはまるものを選んで、番号に 印をつけてください。(複数可)

- |                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 生まれたときから住んでいるから                | 6 土地・住居代、家賃が安いから          |
| 2 親(子)など親族と同居している、あるいは近くに住んでいるから | 7 社宅・官舎など職場から指定された住居があるから |
| 3 もともと配偶者が市内に住んでいたから             | 8 環境が良いから                 |
| 4 通勤・通学に便利だから                    | 9 その他( )                  |
| 5 生活が便利だから                       |                           |

問2 あなたは今後も現在お住まいの場所に住み続けたいと思いますか。次から 1つ選んで、番号に 印をつけてください。



問3-A 住み続けたい理由は何ですか。次から 3つ以内で選んで、番号に 印をつけてください。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 自然や空気などの環境面がよいから                |
| 2 文化施設やスポーツ施設などが多いから              |
| 3 子育て支援や学校教育に満足しているから             |
| 4 気軽に参加できる地域の行事が多く、地域住民のつながりが強いから |
| 5 親(子)と同居している、あるいは近くに住んでいるから      |
| 6 ふだんの買い物などが便利だから                 |
| 7 通勤・通学に便利だから                     |
| 8 商売や仕事の関係上、適した場所だから              |
| 9 治安がいいから                         |
| 10 今の住宅に満足しているから                  |
| 11 保健・医療・福祉サービスが整っているから           |
| 12 土地・住居代、家賃が安いから                 |
| 13 その他(具体的に )                     |

問4へ

問3-B 移りたい理由は何ですか。次から 3つ以内で選んで、番号に 印をつけてください。

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1 自然や空気などの環境面がよくないから               |
| 2 文化施設やスポーツ施設などが少ないから              |
| 3 子育て支援や学校教育に不満があるから               |
| 4 気軽に参加できる地域の行事が少なく、地域住民のつながりが弱いから |
| 5 いずれ親(子)と同居するから(家族の住宅と遠く離れているから)  |
| 6 ふだんの買い物などが不便だから                  |
| 7 通勤・通学に不便だから                      |
| 8 商売や仕事の関係上、適さない場所だから              |
| 9 治安が悪いから                          |
| 10 今の住宅に不満があるから                    |
| 11 保健・医療・福祉サービスが不十分だから             |
| 12 土地・住居代、家賃が高いから                  |
| 13 その他(具体的に )                      |

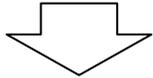
問4へ

問4 あなたは尼崎についてどのようなイメージをお持ちですか。次から**3つ以内**で選んで、番号に をつけてください。

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 産業が盛んなまち           | 9 センスのよいまち                |
| 2 便利で住みよいまち          | 10 センスに欠けたまち              |
| 3 気さくで、人情にあふれたまち     | 11 大気汚染や騒音などの公害が少なく住みよいまち |
| 4 人情に乏しく、よそよそしいまち    | 12 大気汚染や騒音など環境が悪く住みにくいまち  |
| 5 文化活動の盛んなまち         | 13 マナーのよいまち               |
| 6 古い歴史を持ったまち         | 14 マナーのよくないまち             |
| 7 広域交通の中心となるまち       | 15 身近な水辺や緑の多いまち           |
| 8 駅前周辺などがきれいに整備されたまち | 16 その他( )                 |

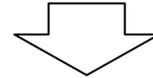
問5 あなたが持つ尼崎市に対するまちのイメージは、10年前又は尼崎市に住む前に持っていたイメージと比較して、全体的にどう変化していますか。 、 のそれぞれの方で、当てはまるものを**1つ選んで**、番号に 印をつけてください。

10年以上前から住んでいた方



- |                     |
|---------------------|
| 1 10年前のイメージよりもよくなった |
| 2 10年前のイメージよりも悪くなった |
| 3 10年前のイメージと変わらない   |

10年以内に転居してこられた方



- |                    |
|--------------------|
| 1 住む前のイメージよりもよくなった |
| 2 住む前のイメージよりも悪くなった |
| 3 住む前のイメージと変わらない   |

問6 あなたが他の人に尼崎市を紹介したり、PRしたりする場合に使いたいと思う、尼崎市のいいところや今足りないが今後伸ばすべきと思うことについて、思い浮かぶものを自由に書いてください。

例) 尼崎市は が なまちです。  
尼崎市は今、 が足りないが、今後 なまちになるべき。

## 2. 尼崎市の現状に対する評価についておたずねします

お住まいの周辺や日常の暮らしをイメージしたうえでお答えください。

問7 あなたは、次のテーマについて、市の取組の現状をどのように感じておられますか。それぞれの項目についてあてはまるものを**1つずつ**選び、番号にをつけてください。

10年前との比較については尼崎市内に10年以上お住まいの方のみお答えください。

テーマ	取組例	現在の状況					10年前との比較 10年以上市内にお住まいの方のみ		
		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足	わからない	よくなった	悪くなった	わからない
安全・安心な暮らし	災害対策・交通安全対策、防犯対策、消費者保護 など	1	2	3	4	5	1	2	3
地域コミュニティ・市民活動の活性化	市民と行政との協働、地域コミュニティの活性化 など	1	2	3	4	5	1	2	3
環境に配慮したまちづくり	ごみの分別・減量、温暖化対策、公害の防止 など	1	2	3	4	5	1	2	3
文化・生涯学習の推進	生涯学習の推進、芸術・文化の振興・レクリエーション活動 など	1	2	3	4	5	1	2	3
医療や保健サービス	感染症対策、健康診断、母子保健、食品衛生管理 など	1	2	3	4	5	1	2	3
地域福祉や福祉サービス	高齢者や障害者への支援、生活保護、医療費助成 など	1	2	3	4	5	1	2	3
子育ての環境	保育サービス、在宅子育て支援、放課後児童対策、青少年施策 など	1	2	3	4	5	1	2	3
学校教育	学力向上、情操教育の充実 など	1	2	3	4	5	1	2	3
産業の振興とまちの賑わい	産業の振興、商業の振興、中小企業への支援 など	1	2	3	4	5	1	2	3
働きやすい環境づくり	就労支援、職業情報の提供 など	1	2	3	4	5	1	2	3
便利で快適な都市環境	道路や公園の維持管理や都市の景観 など	1	2	3	4	5	1	2	3
行政運営	窓口サービス、行政情報の公開・提供・広報、効率的な行政経営 など	1	2	3	4	5	1	2	3

市内に10年以上お住まいの方  
→

市内に住んで10年未満の方  
↓

問11へ  
お進みください

### 3. あなたと市政との関わりについておたずねします

問 8 あなたは、市がどのような仕事をしているか、またどのような計画を立てているか関心をお持ちですか。次から **1つ選んで**、番号に 印をつけてください。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 大いに関心がある | 3 あまり関心がない  |
| 2 少しは関心がある | 4 まったく関心がない |

問 9 問 8 で「1 大いに関心がある」「2 少しは関心がある」のいずれかを答えた方におたずねします。あなたは市政について、どのようなことを知りたいとお考えですか。次から **2つ以内** で選んで、番号に 印をつけてください。

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1 将来の構想や計画の内容                      |
| 2 新たな事業や施設の統廃合など市の重要な施策の内容         |
| 3 予算の内容や使われ方                       |
| 4 各種審議会・委員会の議論の内容                  |
| 5 身近な地域のまちづくり計画                    |
| 6 子育てや介護など、サービスを受けるために必要な手続きや制度の紹介 |
| 7 市の施設や利用方法の紹介                     |
| 8 行事や催しなどの情報                       |
| 9 市政全般の統計情報                        |
| 10 その他（具体的に )                      |

問 10 あなたは、市政と次のような関わり方をしたことがありますか。あてはまるものを選んで、番号に 印をつけてください。（複数可）

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 尼崎市の各種審議会・市民会議の委員になる            |
| 2 尼崎市の各種審議会・市民会議の委員に応募する          |
| 3 車座集會に参加する                       |
| 4 まちづくり提案箱に意見・提案を出す               |
| 5 パブリックコメントで意見を提出する               |
| 6 意識調査などのアンケートに回答する（このアンケート調査を除く） |
| 7 関わったことはない                       |
| 8 その他（ )                          |

問 11 今後さらに市民参加を進める上で、どのようなことが大切だと思いますか。次から **2つ以内** で選んで番号に 印をつけてください。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 市主催のまちづくりに関する講演会やセミナーなどを増やす       |
| 2 市民会議や審議会などにおいて公募市民が参加できる枠を増やす     |
| 3 市民と市の職員が協働で取り組むイベントや事業を増やす        |
| 4 市が市政についての情報をさまざまなメディアを通じて積極的に発信する |
| 5 市民への説明や情報提供や情報公開などをさらに充実させる       |
| 6 市民自身も市政への関心を高めるようにする              |
| 7 その他（具体的に )                        |

## 4. 今後のまちづくりのあり方についておたずねします

問 12 あなたが尼崎市で暮らしていく上で、今後 10 年程度の間、市が特にどのようなことに力を入れるべきだとお考えですか。次から **3つ以内**で選んで、番号に 印をつけてください。

また、その上で充実すべきと思うことを、下の枠内に自由に記載してください。

テーマ	取組例
1. 安全・安心な暮らし	災害対策・交通安全対策、防犯対策、消費者保護など
2. 地域コミュニティ・市民活動の活性化	市民と行政との協働、地域コミュニティの活性化など
3. 環境に配慮したまちづくり	ごみの分別・減量、温暖化対策、公害の防止 など
4. 文化・生涯学習の推進	生涯学習の推進、芸術・文化の振興・レクリエーション活動 など
5. 医療や保健サービス	感染症対策、健康診断、母子保健、食品衛生管理など
6. 地域福祉や福祉サービス	高齢者や障害者への支援、生活保護、医療費助成など
7. 子育ての環境	保育サービス、在宅子育て支援、放課後児童対策、青少年施策 など
8. 学校教育	学力向上、情操教育の充実 など
9. 産業の振興とまちの賑わい	産業の振興、商業の振興、中小企業への支援 など
10. 働きやすい環境づくり	就労支援、職業情報の提供 など
11. 便利で快適な都市環境	道路や公園の維持管理や都市の景観 など
12. 行政運営	窓口サービス、行政情報の公開・提供・広報、効率的な行政経営 など

充実すべきと思うこと

問 13 少子高齢化の進行で、医療や介護などにかかる経費が増える一方、働く世代などの制度の支え手は少なくなっていきます。現在は、事業を見直したり、収入の確保に取り組んだりしていますが、今後、さらに取り組むべき内容は何だと思いませんか。 **2つ以内**で選んで、番号に 印をつけてください。

- 1 市の財産を活用するなど新たな歳入の確保に向けた取組
  - 2 優先度・緊急度の高い事業に特化したメリハリのきいた予算配分
  - 3 十分に説明を行った上で、市民に負担を求めていくこと
  - 4 事業（サービス）の廃止や休止を含む徹底した歳出の削減
  - 5 その他（具体的に \_\_\_\_\_）
  - 6 特にない

問 14 今後のまちづくりのあり方として、あなたはどうかあるべきだと思いますか。次から**1つ選んで**、番号に 印をつけてください。

- |   |
|---|
| 1 今のままでよい<br>2 市民・事業者・行政がもっとお互いに協力しながら進めていくべき<br>3 市民・事業者が中心となって進め、行政はその活動のサポートを重視するべき<br>4 もっと行政が中心になって進めていくべき<br>5 その他（具体的に ) |
|---|

問 15 望ましいまちの方向性として示した次の項目について、現在の尼崎市の状態と今後の希望をおたずねします。それぞれの方向性について、あなたはごどう思いますか。それぞれ**1つずつ選**び、番号に 印を付けてください。

まちの方向性	現在の尼崎の状態と今後の希望					
	上にそつなるべき	実現しているが、今以 ままでよい	実現しているの、今 ないがそつなるべき	現在、どちらともい ないが、今のままでよい	現在、どちらともい なくそつなるべき	実現していないので、早 のままでよい
人と人とのつながりが豊かで、ともに支え合って暮らしているまち	1	2	3	4	5	6
幅広い年代・立場の人が関わりながら、祭りや行事など、地域の活動が活発に行われているまち	1	2	3	4	5	6
市民一人ひとりが健康で、社会とのつながりを持ちながら暮らしていけるまち	1	2	3	4	5	6
地域の資源、人材が十分にいかされ、それをよいところとしてみんなが共感しているまち	1	2	3	4	5	6
産業が活発でみんなが生き生きと働きながら暮らせるまち	1	2	3	4	5	6
住環境・教育環境が充実し、安心して子どもを産み育てられるまち	1	2	3	4	5	6
環境問題や市の財政など大きな課題に正面から取り組み、将来世代に負担を残さないまち	1	2	3	4	5	6
豊かな人間関係や生きがいを保ちながら、安心して老後を過ごせるまち	1	2	3	4	5	6

## 5. 近所や地域のまちづくり活動についておたずねします

今後は、個人だけでなくさまざまな団体・活動の力をまちづくりに生かしていくことが必要です。

そうしたことを踏まえて、次の質問にお答えください。

問 16 あなたは、隣近所の人たちとどのようなお付き合いをされていますか。次から **1つ選んで**、番号に 印をつけてください。

- |                         |
|-------------------------|
| 1 家の行き来をするなど、親しく交流している  |
| 2 会えば立ち話、世間話をすることがある    |
| 3 あいさつをする程度でほとんど付き合いがない |
| 4 まったく付き合いがない           |

問 17 「地域のまちづくり」と聞いて、あなたが思い浮かべるのはどれくらいの範囲ですか。次から **1つ選んで**、番号に 印をつけてください。

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 自治会・町内会の区域       | 5 同じ支所の地区内に住む人 |
| 2 同じマンション・アパートに住む人 | 6 尼崎市全域        |
| 3 小学校の校区           | 7 その他( )       |
| 4 中学校の校区           |                |

問 18 あなたは、地域で行われている次の様々な活動について、どのように参加していますか。それぞれ **1つ選んで**番号に を記入してください。

参加の状況と今後の意向  活動内容	いれ参加からも参加した	たき参加してはいるが、控え	いで参加してはいるが、参加した	たこれから参加しない
社会福祉協議会や自治会の活動	1	2	3	4
防犯・防災活動や交通安全活動	1	2	3	4
高齢者や障害者等への福祉活動	1	2	3	4
地域の美化・緑化運動	1	2	3	4
健康づくり活動(生活習慣病予防など)	1	2	3	4
お祭りもちつき等のレクリエーション活動	1	2	3	4
生涯学習	1	2	3	4
文化・芸術・スポーツ活動	1	2	3	4
子育て支援(育児サークル、子どもの見守り、子供会等)	1	2	3	4
その他( )	1	2	3	4

問 19 問 18 の中で、**1つでも「2.参加を控えたい」または「4.参加したくない」活動がある方**、参加を控えたい・参加したくないのはなぜですか。主なものを次から**2つ以内**で選んで、番号に 印をつけてください。

- 1 自分が参加しやすい時間に活動していない
- 2 知り合いがいない、少ないので参加しづらい
- 3 人間関係がわずらわしい
- 4 世話役等の負担が重い、重そう
- 5 参加する方法が分からない
- 6 参加するきっかけがない
- 7 健康上の理由
- 8 興味・関心がない、興味・関心が薄れた
- 9 その他

問 20 問 18 の中で、**1つでも「3.参加していないが、できれば参加したい」と回答された方**、参加したいのに、今していないのはなぜですか。主なものを次から**2つ以内**で選んで、番号に 印をつけてください。

- 1 自分が参加しやすい時間に活動していない
- 2 知り合いがいないので入りづらい
- 3 参加する方法が分からない
- 4 参加するきっかけがない
- 5 そうした活動があることを知らなかった
- 6 健康上の理由
- 7 その他

問 21 【全員お答えください】問 18 の選択肢のうち、尼崎をより良いまちにするために、特に重要だと思われる地域の活動はどれですか、次から**2つ以内**で選んで、番号に 印をつけてください。

- 1 社会福祉協議会や自治会の活動
- 2 防犯・防災活動や交通安全活動
- 3 高齢者や障害者等への福祉活動
- 4 地域の美化・緑化運動
- 5 健康づくり活動（生活習慣病予防など）
- 6 お祭りもちつき等のレクリエーション活動
- 7 生涯学習
- 8 文化・芸術・スポーツ活動
- 9 子育て支援（育児サークル、子どもの見守り、子供会等）
- 10 その他（ )
- 11 いずれも重要ではない

問 22 あなたがお住まいの地域における、問 18 の選択肢にあるようなさまざまな地域活動は活発だと思いますか。次から **1つ選んで**、番号に 印をつけてください。

- 1 活発である (問 23・25 へ)
- 2 活発ではない (問 24・25 へ)
- 3 わからない (問 25 へ)

問 23 【問 22 で「1 活発である」と回答された方】活発である理由は何だと思えますか。主なものを次から **2つ以内** で選んで番号に 印をつけてください。

- 1 住民の多くが活動に協力的だから
- 2 中心的な役割を果たしている人がいるから
- 3 活動内容が魅力的なものになるような工夫がなされているから
- 4 行政の支援が手厚いから
- 5 地域に活動を必要としている人が多いから
- 6 新しく来た人も参加しやすい雰囲気づくりがされているから
- 7 その他 ( )

問 24 【問 22 で「2 活発ではない」と回答された方】活発でない場合には、どのようにすれば活発になると思えますか。主なものを次から **2つ以内** で選んで番号に 印をつけてください。

- 1 住民の多くが活動に協力的になること
- 2 中心的な役割を果たせる人を見つけ、育てること
- 3 活動内容をマンネリ化させず魅力あるものにする工夫をすること
- 4 行政の支援を手厚くすること
- 5 新しく来た人が参加しやすい雰囲気をつくること
- 6 活動内容や実績を広く PR し、輪を広げていくこと
- 7 その他 ( )

問 25 【全員お答えください】あなたが住む地域をよりよい地域にするために、あなた自身ができること、してみたいと思うことはどんなことですか。次から選んで番号に 印をつけてください。(複数可)

- 1 日々のあいさつなど近所づきあいをよくする
- 2 自治会・町内会などの地域活動に参加する
- 3 NPO、ボランティアなどの市民公益活動に参加する
- 4 市民公益活動や文化芸術・環境保護など、公共のための活動に寄付をする
- 5 自分が持っている技能やノウハウを他の人に教える
- 6 その他 (具体的に )
- 7 特にない

## 6. 自由意見・提言

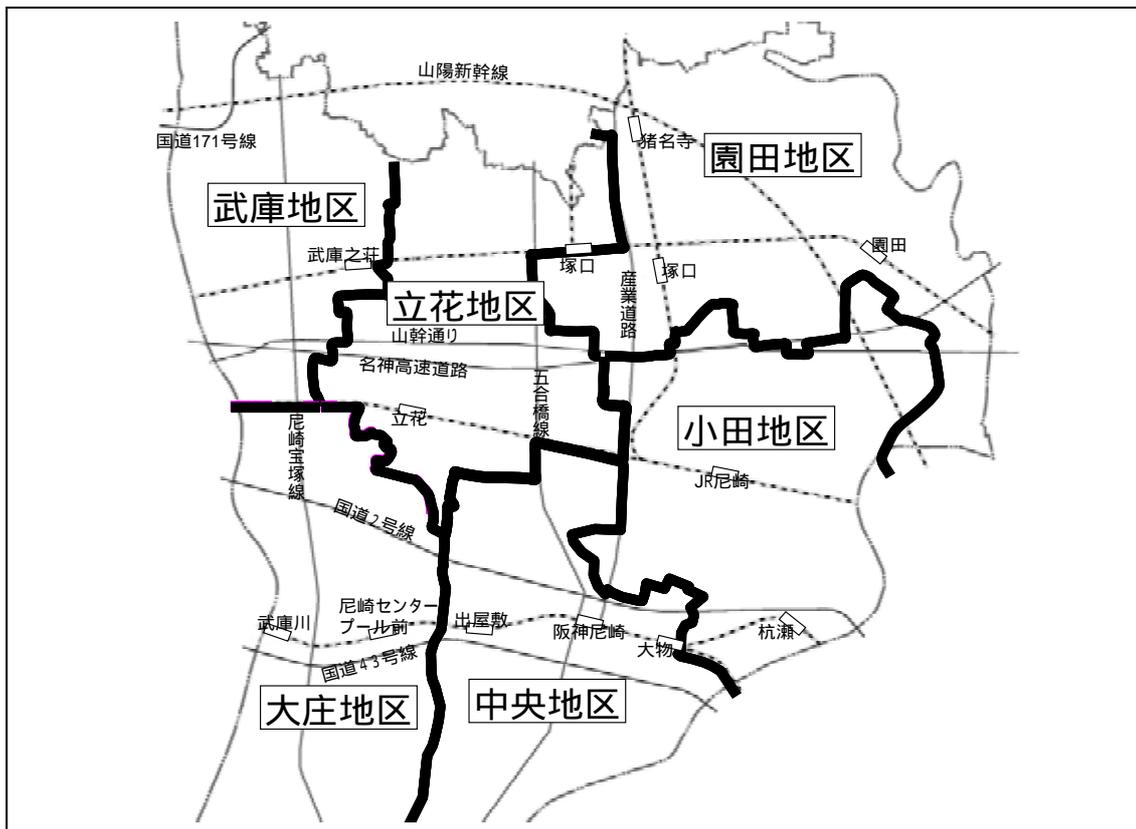
あなたが、尼崎市にお住まいになって気付かれたことや、これからのまちづくりに対して、「どんなまちになればよいか」や「どんなまちを目指していくべきか」といった提言など、ご自由にお書きください。

## 7. あなた自身のことについておたずねします

アンケート結果の分析に必要ですのでお答えください。これはアンケートの分析以外の目的には使用いたしません。次からそれぞれ1つずつ選んで、番号に 印をつけてください。

あなたの性別	1 男	2 女	
あなたの年齢	1 19歳以下 2 20歳代 3 30歳代	4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代	7 70歳以上
あなたの職業	1 農業 2 会社等勤務（会社員、公務員、教員、団体職員など） 3 自営業（家族従業員も含む） 4 自由業（開業医・弁護士・芸術家など） 5 技術職（大工・とび職など） 6 パート・アルバイト・派遣社員 等 7 家事専業（主婦、主夫、家事手伝い） 8 大学生・専門学校生 9 中学・高校生 10 無職 11 その他（ ）		
あなたの家族構成	1 ひとり暮らし 2 夫婦ふたり	3 夫婦と子ども 4 ひとり親と子ども	5 三世同居 6 その他

あなたの勤務・通学先	1 尼崎市内      2 大阪市内      3 神戸市内 4 その他の地域    5 勤務・通学していない
あなたが住んでいる住宅の所有形態	1 持ち家（本人または家族） 2 公的な賃貸住宅（市営・県営・都市機構(旧公団)・公社など） 3 民間の賃貸住宅 4 社宅・寮 5 その他
あなたが住んでいる住宅の形態	1 一戸建て      2 集合住宅      3 長屋建て
あなたが今の地区に住むようになった時期	1 昭和 19 年（1944）以前      6 昭和 50 年（1975）代 2 昭和 20 年（1945）代      7 昭和 60（1985）年～平成 6（1994）年 3 昭和 30 年（1955）代      8 平成 7（1995）年～平成 16（2004）年 4 昭和 40 年（1965）代      9 平成 17 年（2005）以降
あなたが住んでいる地区（下記地図参照）	1 中央地区      2 小田地区      3 大庄地区 4 立花地区      5 武庫地区      6 園田地区



～ ご協力ありがとうございました～

無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、7月9日(金)までに切手をはらずに郵便ポストに入れてください。